寝屋川市文化財資料6

高宮廃寺

——寝屋川市大字高宮——

発掘調査概要報告V

1984・3

寝屋川市教育委員会

寝屋川市文化財資料6

高宮廃寺

——寝屋川市大字高宮——

発掘調査概要報告V

1984・3

寝屋川市教育委員会

序　　文

寝屋川市の東部丘陵地帯は、古代から私達の多くの祖先達が生活を営んだ地域であります。秦、太秦、寝屋、打上、高宮といった地域には、今日もなお多くの遺跡が残されており、現在の私達に語りかけています。

今回発掘調査を実施しました高宮の丘は、旧石器時代から中世にかけての複合遺跡であり、国指定史跡高宮廃寺跡の所在するところとして広く人々に知られています。

今回の調査地は、その高宮の丘陵頂部と端部の２地点について発掘調査を実施しました。

丘陵頂部には、飛鳥・白鳳時代に営まれた巨大な柱穴をもつ掘立柱建物跡群を中心とする古代の集落と、白鳳時代初めに創建された高宮廃寺跡が位置しており、今回古代の土木工事跡と考えられる遺構を検出しています。

さらに丘陵端部については、今までまったく調査が行われておらなかったところでありましたが、今回の調査で、掘立柱建物跡、溝、井戸、土壙等の発見により集落の広がりとその様相を知ることができ、また刳り抜きと横板を組み合わせた非常に立派な井戸やその中から墨書銘のある出物も発見し、本市の歴史を考える上において多大なる成果があったと思われます。

今回の調査の実施にあたっては、大阪府教育委員会をはじめ、地元の方々、調査事業に協力、従事された数多くの皆様に深く感謝の意を表わす次第です。

寝屋川市教育委員会

教育長　坂　中　　俔

例　　言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が昭和58年度国庫補助（総額5,000,000円、補助率…国庫50％、府費25％）を得て実施した大阪府寝屋川市大字高宮所在の史跡高宮廃寺跡周辺高宮遺跡の発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、昭年58年11月７日に着手し、昭和59年３月31日まで調査及び整理作業を実施した。
3. 発掘調査は、同志社大学講師瀬川芳則を調査顧問とし、寝屋川市教育委員会教育課塩山則之を担当者とし、補助員として奥田達治、増崎勝敏があたった。
4. 本書の作成については、塩山則之が執筆し、実測・トレースは塩山則之、奥田達治、増崎勝敏、平野敦子、鵜林斉享、浜田幸司が、写真撮影は塩山則之がそれぞれ行った。
5. 発掘調査の進行・報告書の作成などについては、大阪府教育委員会文化財保護課井藤徹、堀江門也、寝屋川市文化財保護審議会寺前治一、東大阪市教育委員会勝田邦夫、四條畷市教育委員会野島稔、財団法人枚方市文化財研究調査会の諸機関、諸氏から種々のご指導、ご教示をうけた。記して厚く感謝の意を表します。
6. 発掘調査の進行については、心よく大切な土地を提供していただいた土地所有者の小川弘、小寺辰夫の各氏、また、地元高宮自治会には終始懇切なご協力をうけることざできた。又、調査の作業については、株式会社新千里ビル、株式会社新千里総業の全面的な協力を得た、記して厚く感謝の意を表します。

目　　次

序　　文

例　　文

Ⅰ 位置と環境 …… 1

Ⅱ 調査に至る経過 …… 4

Ⅲ 調査の概要 …… 6

Ⅳ 遺　　物 …… 16

Ⅴ 遺物観察表 …… 21

Ⅵ ま と め …… 42

図　　版

図版目次

図版1　高宮廃寺跡周辺遺跡分布図 …… 47
図版2　調査地位置図 …… 49
図版3　調査地断面図 …… 51
図版4　調査地断面図 …… 53
図版5　出土遺物実測図・須恵器 …… 55
図版6　出土遺物実測図・須恵器 …… 57
図版7　出土遺物実測図・須恵器 …… 59
図版8　出土遺物実測図・土師器 …… 61
図版9　出土遺物実測図・土師器 …… 63
図版10　出土遺物実測図・土師器 …… 65
図版11　出土遺物実測図・土師器 …… 67
図版12　出土遺物実測図・土師器 …… 69
図版13　出土遺物実測図・瓦　器 …… 71
図版14　調査地遠景写真 …… 73
図版15　遺構写真・第1・第2トレンチ …… 75
図版16　遺構写真・第3・第4トレンチ …… 77
図版17　遺構写真 …… 79
図版18　遺構写真 …… 81
図版19　遺構写真 …… 83
図版20　遺構写真 …… 85
図版21　遺構写真・井戸1・2 …… 87
図版22　遺構写真・井戸2 …… 89
図版23　遺構写真・井戸2 …… 91
図版24　遺構写真・井戸3 …… 93
図版25　遺構写真・掘立柱建物跡・溝 …… 95

図版26　遺構写真・土壙1・2 …… 97
図版27　遺物出土状況写真 …… 99
図版28　出土遺物写真・須恵器 …… 101
図版29　出土遺物写真・須恵器 …… 103
図版30　出土遺物写真・須恵器 …… 105
図版31　出土遺物写真・須恵器 …… 107
図版32　出土遺物写真・須恵器 …… 109
図版33　出土遺物写真・土師器 …… 111
図版34　出土遺物写真・土師器 …… 113
図版35　出土遺物写真・土師器 …… 115
図版36　出土遺物写真・土師皿 …… 117
図版37　出土遺物写真・土師皿 …… 119
図版38　出土遺物写真・土師皿 …… 121
図版39　出土遺物写真・土師皿 …… 123
図版40　出土遺物写真・土師皿 …… 125
図版41　出土遺物写真・土師皿 …… 127
図版42　出土遺物写真・土師器 …… 129
図版43　出土遺物写真・土師器・瓦器 …… 131
図版44　出土遺物写真・瓦器・砥石 …… 133
図版45　出土遺物写真 …… 135
図版46　出土遺物写真・第4トレンチ …… 137
図版47　出土遺物写真・第4トレンチ …… 139
図版48　出土遺物写真・石器・曲物 …… 141

挿図目次

挿図1　第1・第2トレンチ平面図 …… 6
挿図2　掘立柱建物跡1実測図 …… 9
挿図3　掘立柱建物跡2・3実測図 …… 10
挿図4　井戸1実測図 …… 11
挿図5　井戸3実測図 …… 12
挿図6　土壙1実測図 …… 15
挿図7　ピット62土師皿出土状況実測図 …… 15

Ⅰ．位置と環境

高宮廃寺跡は、大阪府寝屋川市大字高宮に所在している。当廃寺跡は、生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の寝屋川市東部丘陵南端の海抜28m前後の丘陵地形を利用した位置に立地している。この高宮廃寺の所在する高宮の丘陵を中心として高宮遺跡が存在している。

高宮廃寺跡及び周辺の高宮遺跡の調査は、過去数回実施され、その都度重要な遺構や遺物が発見されている。

昭和28年大阪府教育委員会によって実施された東塔跡の発掘調査により塔基壇・塔心礎等を検出し、出土した素弁八葉蓮華文軒丸瓦等から当廃寺が白鳳時代に創建されたことが判明した。さらに、昭和54年度に寝屋川市教育委員会が実施した高宮廃寺範囲確認調査（第1次調査）では、寺の主要建物の規模と位置関係、各建物の創建時期を明らかにすることができた。

生駒山系の西に広がる台地は、おもに大阪層群によって形成され、北は京都府八幡市の八幡丘陵（男山丘陵）、枚方台地から、南は四條畷市の南野丘陵までつづく淀川左岸に形成された広大な丘陵及び台地であり、高宮遺跡・高宮廃寺跡のある寝屋川市東部丘陵地域は、ほぼその中心に位置している。

この丘陵地域には、旧石器時代から各時期を通じて数多くの遺跡が知られている。

旧石器時代には、有舌尖頭器・国府型のナイフ形石器・石核・翼状剥片等を出土した枚方市楠葉東遺跡、国府型のナイフ形石器・掻器・石核が出土した津田三ッ池遺跡と穂谷川をはさんで対峙する藤阪宮山遺跡では、切り出し状の小型ナイフ形石器・国府型ナイフ形石器・細石器・石核などが出土し、藤阪南遺跡からは、木葉状尖頭器が出土しており、交北城の山遺跡から国府型ナイフ形石器、星ケ丘西遺跡からも国府型ナイフ形石器、小倉東遺跡から小型舟底形石器、藤田土井山遺跡からは、有舌尖頭器が出土している。交野市の神宮寺遺跡からは、国府型ナイフ形石器・有舌尖頭器・石核等が出土し、星田付近などでも尖頭器が出土しており、布懸遺跡からは、小型のナイフ形石器が出土している。寝屋川市高宮遺跡から国府型ナイフ形石器が出土し、太秦遺跡では、ナイフ形石器、打上でナイフ形石器がそれぞれ表面採集されている。四條畷市吏良岡山遺跡では、ナイフ形石器・削器・彫器・舟底形石器・大型両刃の礫器が出土し、有舌尖頭器を出土した南山下遺跡、木葉状尖頭器を出土した岡山南遺跡、ナイフ形石器が採集されている忍陵遺跡など20遺跡をこえる旧石器時代の遺跡が数多く点在している。

縄文時代になると、早期初めの編年基準となった尖底の押型文をつけた「神宮寺式土器」として学史上有名な交野市神宮寺遺跡、神宮寺式に後続する枚方市穂谷遺跡、四條畷市

田原遺跡、大東市寺川堂山下遺跡があり、前期には、枚方市穂谷遺跡、同津田三ツ池遺跡、寝屋川市高宮遺跡が知られている。中期になると、キャリパー式土器を出土した交野市星田旭遺跡、船元式土器を出土する四條畷市南山下跡、砂遺跡があり、後期、晩期には、小児棺として使用された可能性がつよい埋甕を出土した枚方市交北城の山遺跡、寝屋川市小路遺跡、中津式・滋賀里式・船橋式土器等を出土した四條畷市更良岡山遺跡が所在している。

弥生時代には、畿内第Ⅰ様式新段階の壷及び甕をそれぞれ出土した四條畷市田原遺跡、雁屋遺跡、大東市中垣内遺跡があり、中期初頭には、甕の口縁部端部にキザミ目がめぐる畿内第Ⅱ様式の土器を出土し、河内平野と枚方台地の接点に位置する高地性集落として注目されている寝屋川市太秦遺跡、竪穴式住居と高床式の掘立柱建物跡や井戸からなる集落の一部と、42基の方形周溝墓などの墓域が発見された枚方市交北城の山遺跡や田の口山遺跡がある。後期になると、淀川左岸地域の遺跡数は膨大な数にのぼり、焼けおちた住居跡を検出した枚方市長尾西遺跡、集落と墓域を区画するV字溝等を検出した星ケ丘西遺跡、小型仿製重圏文鏡、分銅形土製品を出土した鷹塚山遺跡、六角形の建物跡を検出した山之上天堂遺跡、寝屋川市においては、高宮遺跡の南約300mにある小路遺跡が知られている。

古墳時代には、淀川をのぞむ台地上に築かれ、吾作銘四神四獣鏡など八面の銅鏡を出土した枚方市万年寺山古墳、画文帯神獣鏡・銅鏃・碧玉製の鏃形石製品等を出土した藤田山古墳、前方後円墳5基・円墳3基からなる交野市森古墳群、粘土槨内から硬玉製勾玉・ガラス製小玉などを出土した妙見山古墳、全長約80mの前方後円墳で長さ約6.3m、幅約1m、高さ約0.7mの竪穴式石室を有する四條畷市忍ケ丘古墳が知られている。中期になると二重の空濠をもつ枚方市牧野車塚古墳、ノヅチ伝承をもつ禁野車塚古墳、筒形銅器・横矧板鋲留短甲などを模した形象埴輪等が出土したり、方形の周濠をめぐらす円墳などが検出された交野市寺・車塚古墳群、四條畷市墓の堂古墳がある。後期になると、枚方市中宮古墳群、朱彩の石室をもつ白雉塚古墳、交野市倉治古墳群、寝屋川市においては、神武東征伝承をもつトノ山（高塚）古墳、太秦1号墳、飯シ塚古墳を含み、六鈴鏡や三環鈴などが出土している太秦古墳群、北河内地方最大規模の横穴式石室（無袖型）をもつ円墳の寝屋古墳、江戸時代『河内名所図会』に「八十塚（やそつか）」として紹介されているが後世の開墾等のためほとんどその姿を消している打上古墳群、長さ3m、幅1.5mの板状の花崗岩の巨石を置き、奥行2.3m、幅0.9m、高さ0.7mにくりぬいた両袖式の横口式石槨を有し、国の史跡に指定されている古墳時代終末期のものとして著名な石の宝殿や、蓋形埴輪のほか多数の埴輪を出土した四條畷市更良岡山古墳群がある。

切妻造りの家形埴輪や円筒埴輪を出土した四條畷市岡山南遺跡、人物埴輪の頭部や蓋形埴輪を出土した忍ケ丘駅前遺跡、5世紀後半の多量の製塩土器を出土した中野遺跡、

石敷製塩炉や方形周溝状の周溝内から四体分の小型の古代馬（蒙古系馬）の骨を出土した奈良井遺跡などの古墳時代の集落もある。

高宮廃寺跡西側の高宮遺跡がある丘陵頂上付近では、一辺約1mの巨大な柱穴をもつ掘立柱建物群や一辺約4mの竪穴式住居群が発見されており、掘立柱建物群と竪穴式住居群とは長い柵列によって区画されていたようであり、出土遺物から飛鳥、白鳳時代の集落遺跡で、この地に居住した人々によって白鳳時代初期に高宮廃寺が創建されたことが知られている。いま高宮廃寺跡の西塔推定地には、天萬魂命を祭神とする延喜式内社大杜御祖神社が鎮座しているが、昭和51年の調査において北西約50mの旧社殿伝承地から神社遺構と推定される2間×3間の掘立柱建物を検出している。さらに西約150mには、江戸時代讃良郡の一の宮とされ先の天萬魂命の子神を祭神とする延喜式内高宮神社が鎮座している。

古代寺院としては、枚方市中山観音寺跡、交野市長法寺跡、寝屋川市太秦廃寺跡、高柳廃寺跡、寝屋川市と四條畷市にまたがる讃良跡、同正法寺跡などがあるなど、周辺各市においても注目すべき遺跡の分布がみられる。

Ⅱ. 調 査 に 至 る 経 過

高宮の丘陵は、生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の寝屋川市東部丘陵の南端海抜28m前後の、北東から南西へゆるやかに傾斜した丘陵地形である。

この丘陵上には、昭和55年5月13日に国の史跡に指定された高宮廃寺跡が所在している。高宮廃寺跡は、過去数回にわたって発掘調査が実施され、その全容を明らかにしつつある。昭和28年大阪府教育委員会によって実施された東塔跡の発掘調査の成果により、従来出土遺物より当廃寺の創建は、奈良時代前期（天平時代）とみられていたが、この調査により創建年代が白鳳時代初めに遡ることが判明した。また昭和54年寝屋川市教育委員会による高宮廃寺跡範囲確認調査により、金堂跡、講堂跡、中門跡、回廊跡など主要伽藍の規模及び位置関係を明らかにすることができ、主要建物の各所から創建時に使用された素弁八葉蓮華文軒丸瓦を出土したことにより、当廃寺は短期間の間に建設されたことが明らかになり、また他の出土瓦から数回の火災にあい、奈良時代末あるいは平安時代初頭に一時廃絶したのち、旧講堂跡を利用して鎌倉・室町時代に延喜式内社大杜御祖神社の神宮寺として再び法灯がともされたことが判明した。

高宮廃寺跡のある丘陵西側の畑地では、従来から石鏃等の採集があり、遺跡の存在の可能性が知られていた。昭和55年にこの畑地一帯の宅地開発の計画があり、事前の発掘調査を実施することになった。

その結果、縄文時代の土壙、その土壙中より簿手の縄文土器片、石鏃、剥片等の縄文時代の遺物・遺構を発見した。さらに、一辺約1mの巨大な柱穴が9か所並ぶ2間×3間の掘立柱建物跡をはじめとする掘立柱建物跡5棟や、一辺約4mの竪穴式住居跡5棟を発見し、この掘立柱建物群と竪穴式住居跡とは、長い柵列によってほぼ区画されており、出土遺物からこれらの集落が古墳時代終りから飛鳥時代のもので、この地に居住した人々により高宮廃寺が創建されたことが推察され、この遺跡の重要性が指摘されている。

これらの掘立柱建物群の内、一辺約1mの巨大な柱穴をもつ高床式建物跡の遺構は、現在児童公園内に保存されている。

現在高宮廃寺跡の西塔跡と推定される地に延喜式内社大杜御祖神社が鎮座しているが、廃寺跡の西北隣接地に旧宮地と伝承されている一画があり、昭和55年度の高宮廃寺跡第2次調査として発掘調査を実施した。その結果、周辺の畑地より一段高くなっているこの地から、創建期の社殿遺構と推察される桁行5.7m、深行4.2mの南面する東西棟の掘立柱建物跡を発見した。

さらに、この旧宮地伝承地の東側で、建物の長辺20m以上、短辺15m以上で、棟の示す

方向がN52° Wという巨大な掘立柱建物跡を発見した。この建物跡の柱穴も、先の宅地開発の事前調査で発見した2間×3間の建物跡の柱穴と同様に一辺が約1m以上あるもので、棟の示す方向もほぼ同じ方向であり、同時期のものである。

昭和56年度に実施した第3次調査においても、同様な柱穴と古墳時代後期の竪穴式住居跡を発見した。

昭和57年度に実施した第4次調査では、ナイフ形石器をはじめ縄文式土器片及び石鏃等を出土し、ナイフ形石器の出土は生駒山系西麓における旧石器時代の研究に寄与するものであり、縄文時代の遺物は同時代の遺跡の広がりを示すものである。そして少数ではあるけれども円筒埴輪片が出土していることから、この高宮の丘陵ではこれまでに古墳は発見されていないが、北隣りの丘陵上には古墳時代後期の太秦古墳群が存在しており、この丘の上にも古墳が築かれていた可能性を示唆するものである。さらに、廃寺西側が谷あい地形であることが判明し、古代氏族の集落形成時に谷を埋め平坦にし、さらに氏寺造営寺に再度整地されたことが推察された。

史跡高宮遺跡の西側隣接地での、過去4回にもわたる調査は、廃寺の西側への広がりを調査するとともに、先に発見された廃寺造営に直接かかわった古代氏族の居住地と氏寺造営地の関連を解明することを目的としたものであり、今回の調査も同様の目的をもち、廃寺跡の南門推定地の南西側部分についての調査と丘陵端部付近の旧水田地に宅地開発計画がおこり、過去の数多くの遺構・遺物の関連から試掘調査を実施したところ、古墳時代から室町時代に至る遺物が発見されたところから本格調査を実施したものである。

Ⅲ. 調 査 の 概 要

今回の調査地は、史跡「高宮廃寺跡」南門推定地の南西の畑地と、廃寺跡の所在する北東から南西へ傾斜した高宮の丘陵端部付近の旧水田地について実施した。

丘陵上の畑地（大字高宮321・322番地）については、東西・南北方向に幅２メートルのトレンチを任意に設定して実施した。

1. 丘陵頂部調査区（高宮321・322番地）

第１トレンチ（高宮322番地）

322番地の畑地の中央に南北方向に設定した東西２ｍ×南北25ｍのトレンチである。

遺構としては、トレンチ中央部において北東から南西に走る幅約50㎝、深さ約５㎝の溝を検出した。溝内から出土遺物はまったく出土していない。

約10㎝の耕土を掘り下げるとすぐ地山となっており、北端と南端は約110㎝の比高差が認められる。

遺物は、耕土の中からサヌカイト製の石錐２点を出土したほかは、少数の須恵器片・土師器片等を出土したにすぎない。

第２トレンチ（高宮322番地）

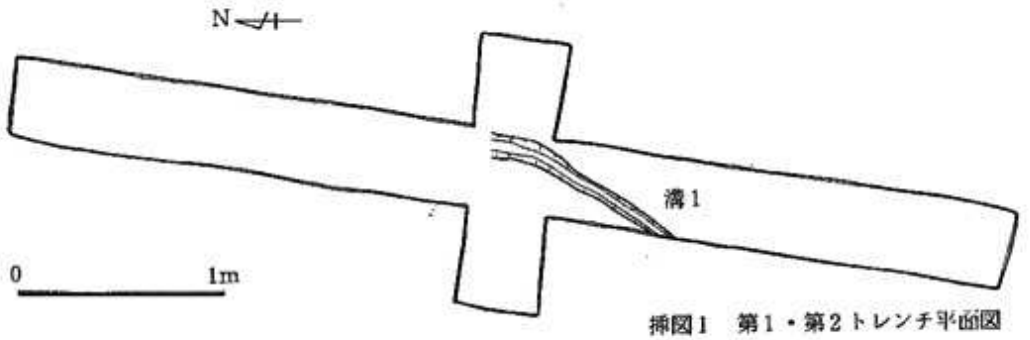
第１トレンチの中央部において東西のそれぞれの方向に幅２ｍ×長さ２ｍ拡張して設定した東西方向のトレンチである。

遺構としては、第１トレンチとの接点で溝の端部を検出した。

約10㎝の耕土を掘り下げると地山となっており、東端と西端での比高差はほとんどなくほぼ平坦な地山である。

遺物は、耕土の中から少数の須恵器片・土師器片等を出土したにすぎない。

第１トレンチ・第２トレンチの層序は、それぞれを第Ⅰ層耕土、第Ⅱ層茶褐色砂質土層となっている。



挿図１　第１・第２トレンチ平面図

第3トレンチ（高宮321番地）

321番地の畑地中央に南北方向に設定した東西2m×南北25mのトレンチである。

321番地は、北から南に延びる二つの尾根にはさまれた谷あい地形であり、現在は畑地であるが数年前まで水田地であった。

断面観察から約20cmの耕土の下は、2m以上の整地面であり数回にわたる版築によって形成された層に別れており、層位は南北にほぼ平坦である。

遺物は、黄褐色砂質土層及び赤褐色砂質土層から数点の土師器、須恵器を出土したにすぎない。

第4トレンチ（高宮321番地）

第3トレンチの中央部（北端から南へ11m）に東西方向に南北2m×東西13mで設定したトレンチである。

第4トレンチもその断面観察から、第3トレンチと同様数回にわたる版築がみられ、層序は第4トレンニとほぼ同様で、第1層耕土、第2層床土、第3層黄褐色砂質土層、第4層幸褐色砂質土層、第5層明灰褐色粘質土層となっており、第6層以下については、地点によって若干異なっている。

遺物は、トレンチ東端で現耕土下約2mの青灰色粘土層から高宮廃寺跡から出土するものと同様の平瓦を多数出土した。

2. 丘陵端部付近調査区（高宮 154・155・167・168-1番地）

この調査地区は旧水田地であり、北東から南西方向に傾斜する高宮の丘陵南面端部付近に位置し、海抜12m前後で高宮廃寺跡の位置する丘陵頂部との比高差は約16mあり、北から南方向にゆるやかに傾斜している。

調査地に東西南北10m四方区画の基準杭の設定を行い、東西方向に東から数字で1・2・3・4・5・6・7・8・9、南北方向に北からアルファベットでA・B・C・D・E・F・Gとし北東杭を基準にグリッドをA－1、A－2、A－3、……と地区を設定標示した。

遺　構

今回の調査で検出した主な遺構には、掘立柱建物跡、井戸、土壙、溝、柵、などがある。

掘立柱建物の柱穴内からは土師器、須恵器の小破片しか出土していないため時期の確定は困難であるが、おおむね飛鳥、白鳳時代に属するものと考えられる。

井戸は3基検出し、素掘りの井戸、石組みの井戸、木枠の井戸と3種類検出し、素掘りの井戸と石組みの井戸は飛鳥白鳳時代に属し、木枠の井戸はその内外から出土する瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、墨書銘を有する曲物から平安時代末期に属する。

土壙は全域で4箇所検出したが、主なものはE—8地区で検出されたもので、1つは遺物の出土状況から土壙墓と考えられる。

溝はほぼ全域で検出し、そのほとんどが中世に掘削されたものである。

1. 掘立柱建物跡（挿図2・3、図版25）

掘立柱建物跡1（挿図2）

E—7、F—7地区で検出した建物の大部分は、調査対象外区であるため建物全体は充分に確認することはできないけれども規模は、東西3間（6m）×南北1間（2m）以上で、主軸の方向はN—81°—Wである。

柱穴は1辺0.6m、深さ0.4mを測り正方形を呈している。

掘立柱建物跡2（挿図3、図版25）

D—5、D—6、E—5地区にまたがる地点で検出した。規模は、東西3間（7.5m）以上×南北2間（4m）で主軸の方向はN—71°—Wである。南側と西側の柱列は、後世の削平のためか一段落ち込む地点であるため検出できなかった。

東西方向の柱間は、2.5m、南北方向の柱間は2mを測り、柱穴は0.9～1.3mの長方形、深さ0.2～0.5mを測る。

掘立柱建物跡3（挿図3、図版25）

掘立柱建物跡2に重複するように検出した。

規模は、東西2間（8m）以上×南北3間（5.5m）で主軸の方向はN—74°—Wで掘立柱建物跡2と同一方向を示している。

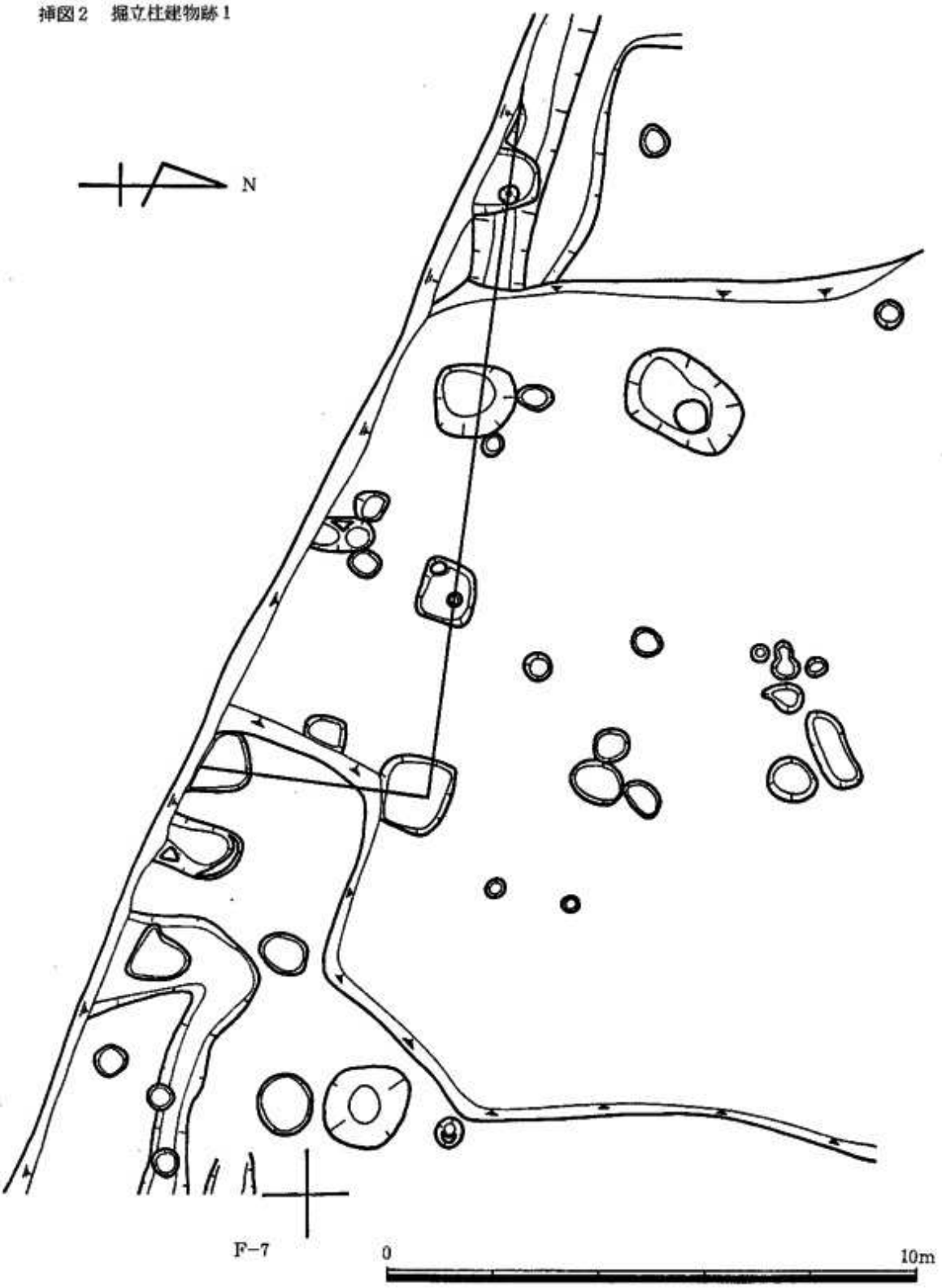
この建物も南側と西側の柱列は検出することができず、全体規模については確認することはできなかった。

東西方向の柱間は4m、南北方向の柱間はそれぞれ北方から2m、1.8m、2mを測る。東西列の柱穴は一辺1mの正方形で、深さ0.3mを測り、南北列の柱穴は一辺1mの正方形で深さ0.2～0.5mを測る。

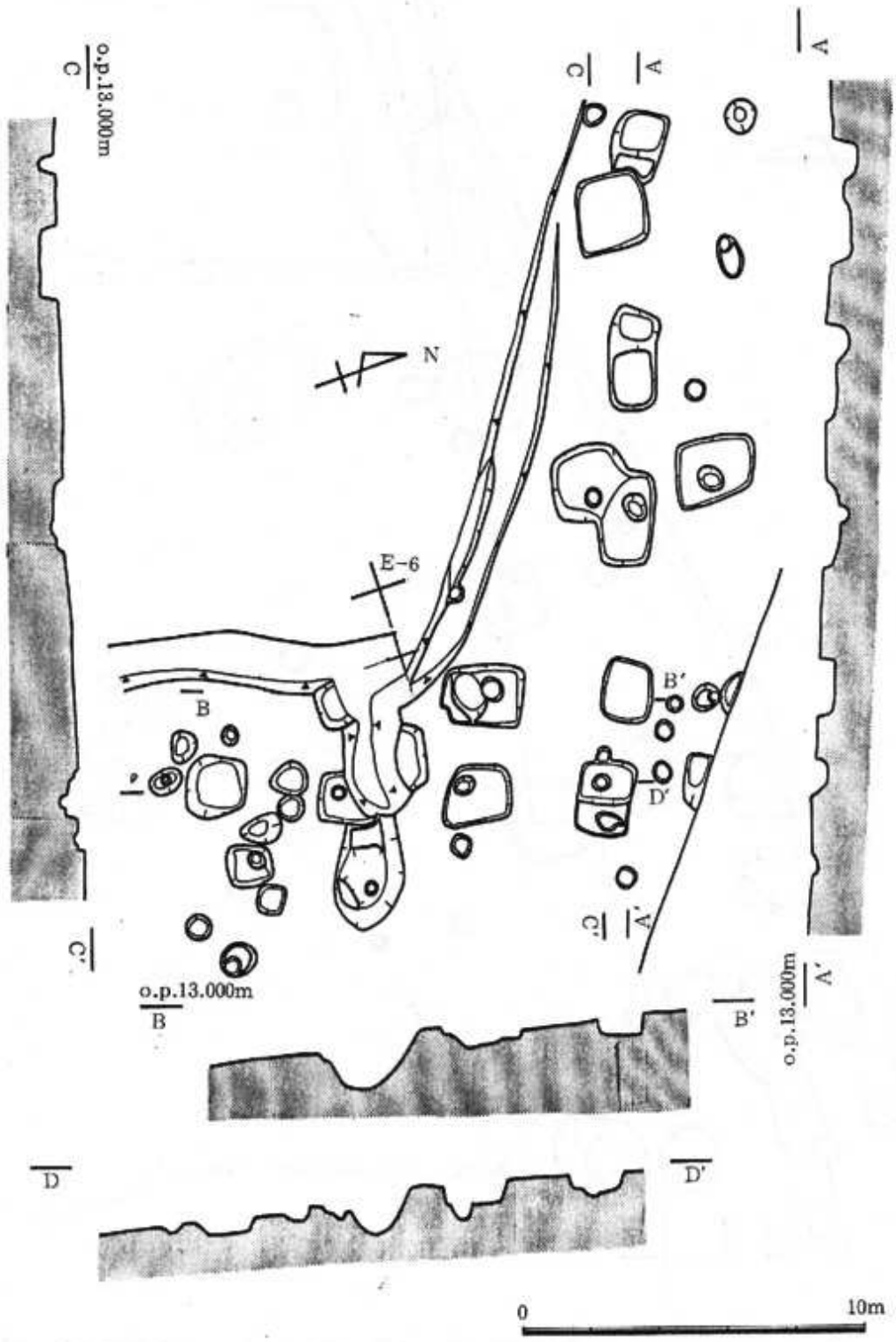
掘立柱建物跡4

F—3地区で検出した。規模は、東西1間（2m）×南北3間（4.5m）で主軸の方向は、N—25°—Eである。東西方向の柱間は2m、南北方向の柱間は北方から1.3、1.4、

挿図2　掘立柱建物跡1



挿図3　掘立柱建物跡2・3



2 m である。

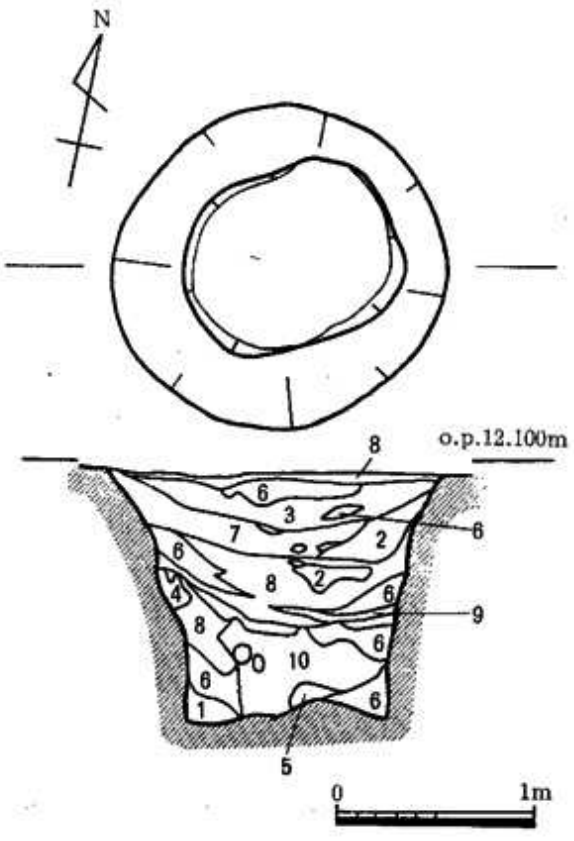
2. 井　戸（挿図４・５、図版21～24）

今回調査地区で検出した井戸は、３基あり、素掘りの井戸（４）刳り抜きの枠材とその下に木組みの枠材を使用した井戸、石組みの井戸（５）の３種類である。素掘りの井戸と石組の井戸が古く、刳り抜きの枠材と木組みの枠材を組み合わせた井戸が新しい。

井戸１（挿図４、図版21）

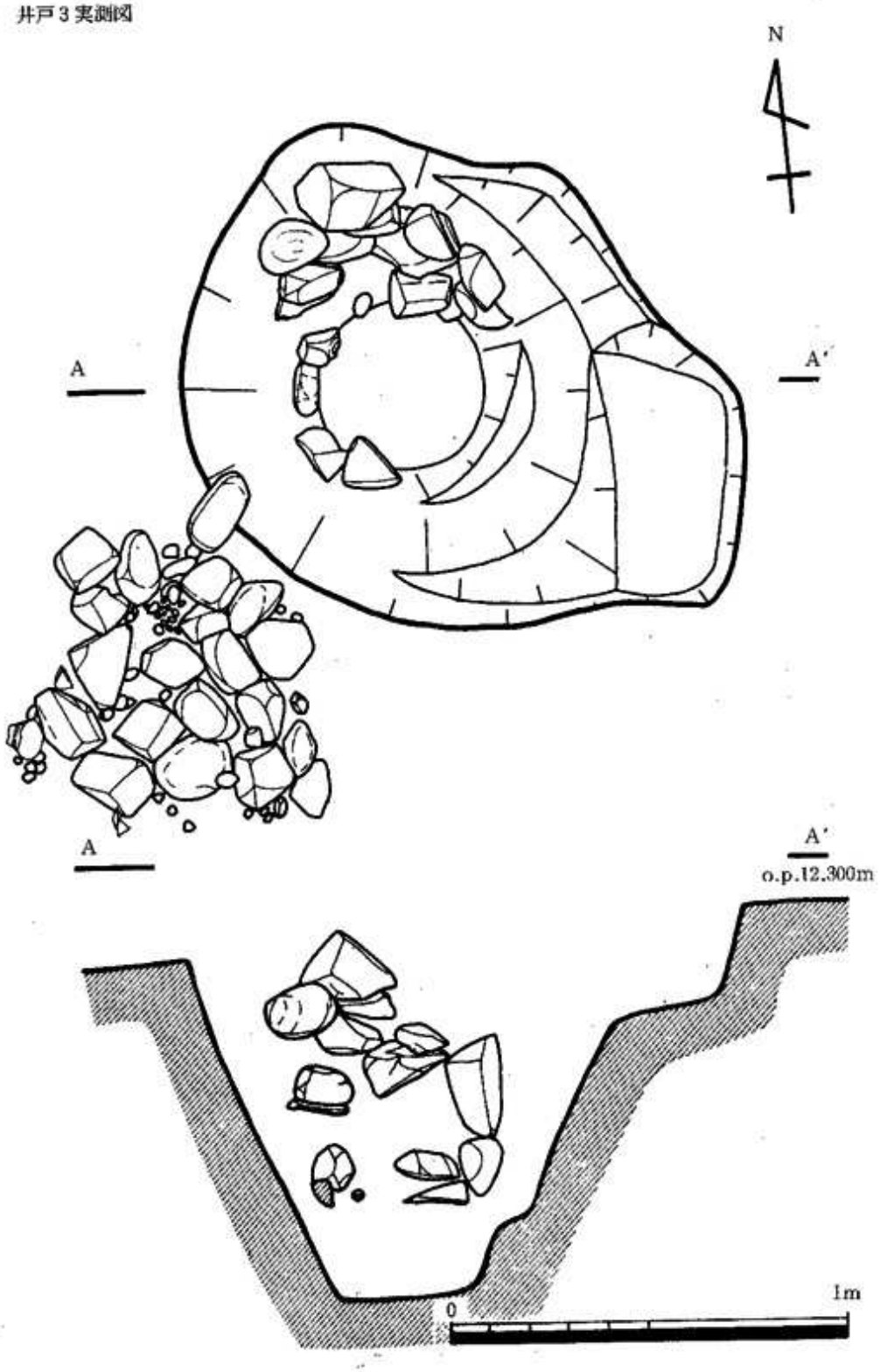
C－８地区で検出した直径1.7m深さ1.3m、底面で直径約１mを測るほぼ円形に近い掘り方で、枠組みは遺存しておらず素掘りの井戸である。井戸内堆積土上層の暗褐色砂質土層と暗茶褐色砂質土から須恵器と土師器の小破片が数点出土している。

挿図４　井戸１実測図



1. 灰色砂質土層
2. 灰黄褐色砂質土層
3. 灰褐色砂質土層
4. 黄色砂質土層
5. 黄灰色砂質土層
6. 黄灰褐色砂質土層
7. 茶褐色砂質土層
8. 暗褐色砂質土層
9. 灰色粘質土層
10. 暗灰色粘質土層

挿図5　井戸3実測図



井戸２（図版21～23）

E－６地区で検出した上端で長径2.7m、短径2.2mの変形の楕円形を呈している。深さ約3.1m、井戸底面は一辺0.8mの正方形を呈している。

井戸底に長さ0.85m、幅0.34m、厚さ0.03mの横板を二段組み合せた井筒を据え、その上に「コ」字形に木を刳り抜き組み合せて井筒としている。刳り抜き枠材の残存計測数値は長辺0.95m、短辺0.3m、高さ約1.7m、厚さ上部で１cm、底部で５cmを測り、材質は不明である。掘り方の内外から瓦器椀、瓦器皿、土師器が出土しており、枠内外の差異はほとんどみとめられない。

下の横板を組み合せた井筒上方で直径約16cmの墨書銘のある曲物が出土している。

井戸３（挿図５、図版24）

E－５地区で検出した長径1.4m、短径1.2m、深さ１m、底面0.4mの円形の石組をもつ井戸であるが、石組みの石は抜き取られたためか部分的にしか残存していない。直径５cm～20cmの花崗岩を使用している。井戸内から、高台付の須恵器の蓋杯、土師器が出土した。

この井戸に付随するかのように一辺約１m四方に15cm台の花崗岩を平坦に敷きつめた石組の施設を検出している。この石組から須恵器の蓋杯、土師器も同時に出土しており、井戸と同時期のものである。

3．土　壙（挿図６、図版26）

土壙１（挿図６、図版26）

D－８地区で検出し長径3.5m、短彩2.4mのやや楕円形を呈する。深さ0.5m底面で長辺1.6m、短辺1.2mの掘り方である。土壙上面近くと底面において瓦器椀が出土し、いずれも壙底から遊離した状況で出土しており、供献されたものと考えられる。棺の痕跡は認められなかったが、この土壙墓と考えられる。

土壙２（図版26）

土壙１の南２mのE－８区内に検出した。

長径３m短径２m、深さ0.25mを測る。底面は、平坦ではなく波打つような状況である。

土壙内から瓦器、土師器の小破片が出土している。

4．溝

調査区のほぼ全域において約110条の溝を検出している。そのほとんどが中世に掘ら

をたものであり、溝内から土師器、瓦器、土釜の破片等が出土している。

溝55（図版25）は、D—7、D—8、E—8地区にまたがる地域で検出し、流路の方向は北東から西南西方向を示している。

溝幅0.6～1m、深さ0.1、残存長17mを測るU字溝である。溝内から鏃、須恵器、土師器鉢が出土し、溝内にあるピット356から須恵器壺を出土している。

5. 柵

E—5、F—5地区で井戸3の西3.5mのところで同一方向に並ぶ4個の柱列を検出した。

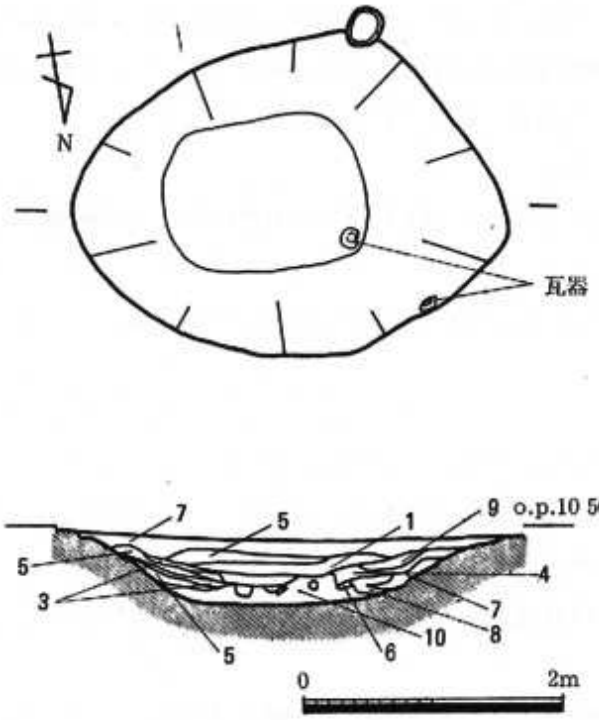
柱穴は、楕円形を呈し、直径0.6～0.9m、深さ0.3～0.7mを測り、柱間は北西から2.5、2.1、2.1mを測る。

6. その他

ピット62（挿図7、図版27）

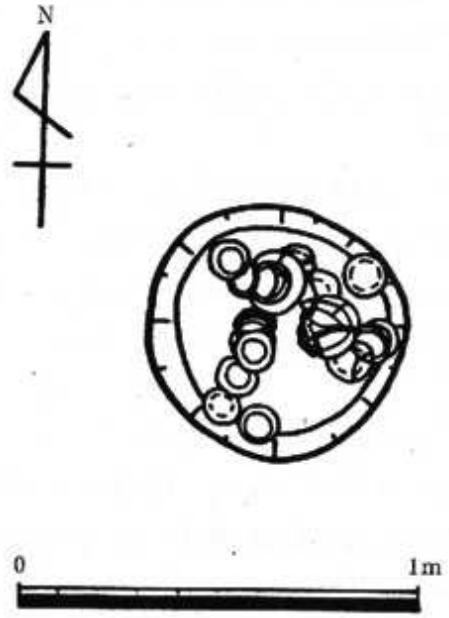
C—8地区で検出した直径0.6m、深さ0.1m底面直径0.5mを測る円形のピットである。このピット内から土師小皿19枚、土師中皿1枚、土師椀1枚が出土しており、すべてが燈明用に使用されていたのか、口縁部にすすの痕跡が残っている。その遺物の出土状況からみるとこれらはもともと重ねてこのピットに納められていたかのような様相を示している。

挿図6　土壙1実測図



1. 淡茶褐色砂質土層
2. 淡褐色砂質土層
3. 灰色砂質土層
4. 灰茶褐色砂質土層
5. 灰褐色砂質土層
6. 暗灰色砂質土層
7. 茶褐色砂質土層
8. 褐色砂質土層
9. 灰色粘質土層
10. 暗灰色粘質土層

挿図7　ピット62
土師皿出土状況



Ⅳ. 遺 物

今回の調査区域の井戸、溝、土壙、ピット、落ち込み、建物などの遺構、ならびに包含層からコンテナ約150箱分の遺物が出土している。出土遺物には、ナイフ形石器、石鏃、石錐、剥片等の石器類、須恵器、土師器、瓦器、土釜、砥石、瓦等がある。ナイフ形石器等の石器類の出土は、数点にすぎない。

遺物の時期は、平安時代初頭以前と平安時代末期から中世にかけての時期に大きく分けることができる。

また総ての遺物の整理を終えていないが、代表的な遺物について報告しておきたい。

須恵器

蓋杯（蓋）（図版5～7・28・30・31・45－1～10・30～47）

（1～8）は、天井部から口縁部にかけてなだらかなカーブを描き天井が低く平らに近い。口縁部はやや内傾し、端部は丸く仕上げている。

（9・10）は、天井部から口縁部にかけては外方向にのび、口縁端部は丸く仕上げている。

（30～34）は、蓋全体は丸みをもち、天井部中央に擬宝珠様のつまみを有し、蓋の内面には、口縁端部付近にかえりを有するが、口縁端部を結ぶ線から下方へ張り出さない。

（35～37）は、口縁端部のみの出土であるが、天井部に擬宝珠様の低いつまみを有する。天井部全体も低くやや偏平なものとなり基部径は大きくなっている。

内面のかえりは、やや中央部に移行している。

（38～44）は、天井部が平らに近く、天井中央部に擬宝珠様つまみがついている。器高も低い。

（45・46）は、器高は低く天井部も水平に近く、中央に擬宝珠様つまみがつく。天井部の端はZ字状のカーブを描き、その端部で下方へ屈曲させている。

（47）は、天井中央部は内側にくぼみ、上方へゆるやかに上り端部で下方へ屈曲している。天井部内面と口縁端部とはほぼ同一線上にきている。

蓋杯（杯身）（図版5・6・28～30・45－11～29）

高台を伴うもの（21～29）と伴わないもの（11～18）に別けられる。

（13～17）は、平らな底部で、口縁部は内彎気みにのび、端部はまるく仕上げている。

（18）は、平底で、口縁部は外反気みにのび、端部はまるく仕上げている。

（21～29）は、「八」の字の高台を付するもので底部からやや外反気みにのび、口縁

端部はまるくとじている。（21）は井戸３から出土したものである。

皿（図版６　—48）

口径に対して器高が低く、外反気みの口縁部を有している。

壺（図版７・31—49）

体部は球形を呈し、その最大径は½前後に求められる。体部の最大径をはかる部位のすこし上方に外方から内方へ穿孔され、その付近に１条の沈線がめぐっている。

短頸壺（図版７・31—50）

口頸部は比較的長く、上外方にのび、端部は丸くとじている。体部の最大径は中位に求めることができる。

高杯（図版７・31—51）

脚部は、まっすぐに下り脚部中位に二条の凹線を有し外下方に広がっていく。凹線の上にへら刻みによる細長いすかしが二方にみられる。

長頸壺（図版７・32—57）

頸部のみの出土である。

提瓶（図版７・32—58・59）

（58）は、頸部のみの出土である。（59）の口頸部は、基部より外反して上方にのび口縁部付近で垂直ぎみに立ち上がっている。体部は、口頸基部からゆるやかに下がり、肩部には２個１対の把手がつけられており、それは省略化された小さなものである。

土師器

高杯（図版９・34・35－73～77）

脚部（73～75、77）と杯部（76）が出土している。

甕（図版８・９・33・34－60～68、70～72）

縦長の体部に外反する「く」字形の口縁部がつくもの（60～64、71・72）と小型の甕（65～70）が出土している。

（60）は、口縁部が外彎しながら斜上方へ伸び、端部は丸くおさめられている。

（61・64）は、口縁部が外彎しながら斜上方へ伸び、端部は丸気味におさめ、端部外面は垂直に近い。（62・63・71）は、口縁部が外彎しながら斜上方に伸び、端部は尖り気味にして、端部に外傾する面を有する。（66・68・70）は、口縁部がゆるやかに外彎し、斜上方にのび、端部で丸くおさめている。（65）は、口縁部は外彎し、斜上方にのびる。端部に外傾する平担面を有する。（70）は、口縁部は外彎し、斜上方にのび、端部に外傾する面を有する。

鍋（図版8・34—69）

口縁部は直線気味に斜上方へのび、端部に外斜する面を有する。

蓋杯（蓋）（図版9・35—78）

蓋の天井部中央に付く擬宝珠様のつまみである。

直口壷（図版9・35—79）

口縁部は外反気味に上方にのび、体部は頸部基部からゆるやかに下る。底部は丸底である。体部には刷毛目がつく。

羽釜（図版9・35—80）

ピット内より出土した。口縁部が大きく外反している。

土師皿（図版10～12・36～42・1～63・69～89、91・96～98）

出土遺物の中で最も量的に多い土師皿は大皿（口径15㎝以上）と中皿（口径10～15㎝）と小皿（口径10㎝以下）の3種類に分かれ、小皿の出土量が最も多く、出土状況は、十数枚がまとまって出土している。

小皿は、その底部の形状により、丸みのあるもの（1～18、69～71、88）と平担なもの（19～45、72～83）歪みのあるもの（46～55、84～87）に大別できる。おおむね、口縁部を横なでし、短かい口縁部が斜上方へのび、整形は雑であるが、焼成及び胎土は良好で堅緻なものが多い。

中皿（56～62、89、91）も手法、整形、焼成、胎土等においては、小皿とほぼ同様である。（91）のみが明橙色であるが、他は白灰色である。

大皿（63、96～98）は、（63）は雑な整形のため底部は歪んでいる。色調は、白黄灰色である。（96～98）は丁寧な整形を施し、内面には放射状暗文を施している。色調は、明橙色である。

土師椀（図版11・12・40・42・43－64～68・90・92～95）

丸底のもの（93）と平底のものがある（64～68・90・92・94・95）（64・92）は体部直線気みにのび、他のものは外彎気みにのびている。整形は（93・95）以外は雑である。（94・95）については内面に、放射線状の暗文を施している。

瓦器（図版13・43・44－1～9）

瓦器は、椀と皿が出土している。

皿（9）は、底部が平担で、口縁部は外反気みにのび、内面には鋸歯状の暗文が施されている。井戸2の木枠内から出土したものである。

椀は口径14.7～15㎝、器高5～6㎝のもの（1～3）と、口径13.2～13.6㎝、器高3.5～4.1㎝（5～8）に別けられる。

（1）は、外に張り出す断面方形の安定した高台を付し、体部は内彎気みに立ち上がり口縁部は若干外反する。内外面の暗文も密に施されている。

（2）は、体部が内彎気みに立ち上がり口縁部は外反する。内外面の暗文も密で太く施されている。体部外面全体に指圧痕が残っている。

（3）は、安定した断面三角形の高台がつき、体部は内彎気みに立ち上がっている。内外面とも風化が著しいため暗文は不明である。

（4）は比較的安定した断面方形の高台のみの出土である。見込みには、連結輪状の暗文を施してある。井戸2木枠内の「保延六年」（1140年）と墨書名のある曲物の下に接するように出土した。

（5～8）は、断面三角形の小さな高台が付き、内外面の暗文は（8）以外省略気みになってくる。見込みには、連結輪状、螺施状の暗文がそれぞれ施されている。

砥石（図版13・44—10）

材質は不明であるが、四面とも非常によく使用されており中砥のものと思われる。

断面は、方形である。

曲物（図版48）

井戸2の下の横板井筒と上の刳り抜き井筒との境付近から出土した。

直径16㎝、高さ14㎝、厚さ0.5㎝を測り、板材を薄板状に削り、両端を合わせて円筒状にし、合せ目を桜皮で緊着し、さらに胴部外側の口縁部と底部に箍をはめている。

胴部中央に「保延六年□月十一日待近桶也」と墨書されており、その出土状況から祭祀等のために井戸内に投げ込まれたものと考えられる。曲物に接して瓦器椀底部が同時

に出土しており、中世瓦器椀の編年研究上また、井戸の祭祀及び宗教史上においても貴重な資料となるであろう。

石器（図版48－1～7）

ナイフ形石器（1・2）

（1）は、翼状剥片を素材としたものである。風化度はきわめて進んでいる。

（2）は、背部加工は一方向から施されている。素材は縦長の剥片である。

翼状剥片（3）

1点出土している。

石鏃（4・5）

2点出土しており、2点とも凹基無茎式のタイプのものである。（4）の側辺は中央に段を持ち真直ぐにのびる。周辺に小さな調整剥離を示す。（5）風化が激しく調整は不明である。逆刺は丸い。

石錐（6・7）

（6）は、頭部と錐部が明確に区別され、剥離は片面のみである。

（7）は、柳葉形を呈し、その下端尖頭部がそのまま錐部となる。全体に剥離調整を施している。

V．遺物観察表

須恵器蓋杯（蓋）

種類	図版番号	法量（cm）	特徴	備考
蓋杯（蓋）	5・28 1	口径 10.8 器高 3.2 （現存高） 天井部高 2.1 （現存高）	口縁部はほぼ垂直に下り、端部は丸い。天井は高く平ら。マキアゲ、ミズビキ成形 天井部½は回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　1㎜台の砂粒を含むが密 ・焼成　良好、堅緻 F－4　暗褐色砂質土層
	5・28 2	口径 11.1 器高 3.3 （現存高） 天井部高 2.0 （現存高）	口縁部はほぼ垂直に下り、端部は丸い。天井は高く平ら。マキアゲ、ミズビキ成形 天井部ヘラ切り未調整 他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　1㎜台の砂粒を含むが密 ・焼成　良好、堅緻 F－4　暗褐色砂質土層
	5・28 3	口径 11.1 器高 3.3 天井部高 2.7	口縁部はほぼ垂直に下り端部は丸い。天井部は高く、上面は平ら。マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部½は回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　青灰色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻 F－4　灰褐色砂質土層
	5・28 4	口径 10.3 器高 3.7 天井部高 3.0	口縁部は垂直に下り、端部は丸い。天井部は高く、上面平ら。マキアゲ、ミズビキ成形 天井部はヘラ切り未調整 他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 F－4　暗褐色砂質土層
	5・28 5	口径 10.3 器高 3.4 天井部高 2.1	口縁部はほぼ垂直に下り、端部は丸い。天井部は高く、上面は平らに近い。マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部⅔は回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　灰色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻 溝　65
	5・28 6	口径 10.2 器高 3.1 天井部高 2.4	口縁部はほぼ垂直に下り、端部は丸い。天井部は高く、丸みをもつ。マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面⅔は回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　灰青色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻 F－5　灰褐色砂質土層
	5・28 7	口径 10.7 器高 3.6 （現存高） 天井部高 2.8 （現存高）	口縁部はほぼ垂直に下り、端部は丸い。天井部は丸味をもつ。マキアゲ、ミズビキ成形 天井部回転ヘラ切り調整、他は回転ナデ調整。	・色調　灰青色 ・胎土　0.1～0.3㎜台の小砂粒を多く含む、密 ・焼成　良好、堅緻 F－5　灰褐色砂質土層
	5・28 8	口径 9.4 器高 2.95 （現存高） 天井部高 1.9 （現存高）	口縁部、体部はほぼ垂直に下り、端部は丸い。天井部は高く、上面は平ら。マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面⅔は粗い回転ヘラ削り調整。	・色調　灰青色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻 F－5　暗褐色砂質土層
	5・28 9	口径 9.4 器高 4.2 稜径 7.8 天井部高 0.9	口縁部は下外方に下り、端部は丸い。稜は鈍い。天井部は低く、平らに近い。マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面⅔は回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　灰青色 ・胎土　良質、1㎜以下の小砂粒を含む、密 ・焼成　良好、堅緻 F－5　灰褐色砂質土層
	5・28 10	口径 10.7 器高 3.1 天井部高 1.6	口縁部は下外方に下り、端部は丸い。天井部は高く、上面は平ら。マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面½は回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　灰青色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻 F－5　灰褐色砂質土層

須恵器蓋杯（身）

種類	図版番号	法量（cm）	特徴	備考
蓋杯（身）	5・28 11	口径 4.8 器高 2.5 たちあがり高 0.3 受部径 10.4 底体部高 2.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く、丸い。マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り。外面一部に自然釉付着、又は剥落。	・色調 灰青色 ・胎土 良質、密 ・焼成 良好、堅緻 F－5 暗褐色砂質土層
	5・28 12	口径 11.1 器高 3.8 受部径 13.3	立ちあがりは内傾してのび、端部は鋭い。受部は外上方にのび、端部は丸い。受体部は深く、丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形。 内面底部は一定方向のナデ調整。内面体部より上には回転ナデ調整、外面底体部½は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	・色調 灰青色 ・胎土 良質、密 ・焼成 良好、堅緻 F－5 暗褐色砂質土層
	5・28 13	口径 9.3 器高 3.9	底部は丸く、体部、口縁部は上外方にのびる。端部は丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形。 外面½は回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	・色調 灰青色 ・胎土 良質、密。 ・焼成 良好、堅緻。 F－5 暗褐色砂質土層
	5・45 14	口径 10.3 器高 3.4 （現存高）	体部、口縁部は内弯気味に立ちあがり端部は丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形 底部外面、回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調 灰色 ・胎土 密 ・焼成 良好 F－5 灰褐色砂質土層
	5・29 15	口径 9.5 器高 3.25 （現存高）	体部、口縁部は内弯ぎみに上外方にのび、端部は丸い。底部は平ら。 マキアゲ、ミズビキ成形。内面底部中央には乱方向にナデ調整を行う。 他は回転ナデ調整。	・色調 暗灰褐色 ・胎土 良質、密。 ・焼成 不良、軟。 F－5 暗褐色砂質土層 砂質土層
	5・29 16	口径 9.7 器高 3.2 （現存高）	体部、口縁部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平ら。 マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ切り調整。他は回転ナデ調整。	・色調 青灰色 ・胎土 密 ・焼成 良好、堅緻 P８８４
	5・29 17	口径 9.7 器高 3.7 （現存高）	体部、口縁部は内弯気味に上外方にのび、端部は丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形 底部外面は回転ヘラ切り調整、他は回転ナデ調整	・色調 灰青色 ・胎土 密 ・焼成 良好、堅緻 166 ～ 167 番地斜面
	5・29 18	口径 11.2 器高 3.9	体部、口縁部は、上外方にのび、端部は丸い。 底部は平ら。 マキアゲ、ミズビキ成形 底部外面、ヘラ切り未調整、他は回転ナデ調整	・色調 灰青色 ・胎土 1㎜以下の砂粒を含む密 ・焼成 良好、堅緻 F－4 暗褐色砂質土層
	5・29 19	口径 10.9 器高 3.0 （現存高）	底部は平らで、体部、口縁部は上外にのび、端部は丸い。内面底部中央にはナデ調整が行われ、内面及び外面体部より上には回転ナデ調整が行われ、外面底部には、ヘラ削りが行われる。	・色調 灰青色 ・胎土 良質、密。 ・焼成 良好、堅緻。

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
蓋杯（身）	5・29 20	口　径 15.5 3.3	体部、口縁部は上外方にのび、端部は丸い。 底部は平ら。 マキアゲ、ミズビキ成形 底部外面回転ヘラ切り未調整 他は回転ナデ調整	・色調　暗灰色 ・胎土　密。0.1～0.3㎜台の砂粒含む。 ・焼成　良好 E－5　暗褐色砂質十層

須恵器蓋杯（高台付）

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
蓋杯（身）	5・29 21	口　径 14.0 器　高 4.75 高台径 9.9 高台高 0.75	体部は上外方に立ち上がり、端部は丸い。底部端よりやや内側にハの字形に高台を付す。高台は内側で接地する。マキアゲ、ミズビキ成形。内外面とも回転ナデ調整。	・色調　外黒灰色　内灰色 ・胎土　良質、密。 ・焼成　良好、堅緻。 井戸3
	5・29 22	口　径 16.9 器　高 5.3 高台径 12.8 高台高 0.5	体部は上外方にのび、端部は尖る。底部端よりやや内側にハの字形に高台を付し、高台は内側で接地する。マキアゲ、ミズビキ成形。内外面とも回転ナデ調整。	・色調　灰色 ・胎土　良質、密。 ・焼成　良好、堅緻。 E－7　暗褐色砂質土層
	5・29 23	口　径 13.0 器　高 4.1 高台径 10.2 高台高 0.55	体部は上外方にのび、端部はやや鋭い。平底で底部端にほぼ垂直な高台を付す。高台は外側で接地する。 マキアゲ、ミズビキ成形。 内面底部中央は一定方向のナデ調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　青灰色 ・胎土　良質、密。 ・焼成　良好、堅緻。 E－7　暗褐色砂質土層
	5・29 24	口　径 18.0 器　高 5.45 高台径 14.1 高台高 0.8	体部は外上方に立ち上がり、端部は丸い。底部は平底で、底部端にハの字形に高台を付し、高台は内側で接地する。 マキアゲ、ミズビキ成形。 外面底部中央部に乱方向のナデ調整。 他は回転ナデ調整。	・色調　灰青色 ・胎土　良質、密。 ・焼成　良好、堅緻。 D－9　暗褐色粘質土層 落ち込み状遺構
	6・30 25	口　径 13.8 器　高 4.1 （現存高） 高台径 10.2 高台高 0.5	体部、口縁部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平ら。 底部端に八の字形の高台を付し、端部の外側で接地する。 マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	・色調　灰青色 ・胎土　良質、密。 ・焼成　良好、堅緻。 D－9　暗褐色粘質土層 落ち込み状遺構
	6・30 26	口　径 14.4 器　高 4.3 高台径 11.1 高台高 0.6	体部は内弯ぎみに上外方に立ち上がり、端部は丸い。底部端にハの字に高台を付し、高台は外側で接地する。 マキアゲ、ミズビキ成形。 内外面とも回転ナデ調整。	・色調　青灰色 ・胎土　良質、密。 ・焼成　良好、堅緻。 F－6　暗褐色粘質十層
	6・30 27	高台径 9.3 高台高 0.6	底部端部付近に八の字形の高台を付し、端部外側で接地する。 底部外面、回転ヘラ切り未調整、他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密。1㎜台の砂粒を含む ・焼成　良好、堅緻。 F－4　灰褐色砂質十層
	6・30 28	高台径 10.8 高台高 0.6	高台端部は内傾する凹面を成し外側で接地する。 底部外面、回転ヘラ削り調整 他は、回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　2～3㎜台の砂粒を含む。密。 ・焼成　良好、堅緻 F－4　暗褐色砂質土層

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
盞杯（身）	6・30 29	口　径 18.1 器　高 5.5 高台径 13.1 高台高 0.8	体部、口縁部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平ら。 底部端よりやや内側に八の字形の高台を有し、外側で接地する。 マキアゲ、ミズビキ成形 底部外面、回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	◦色調　灰色 ◦胎土　密 ◦焼成　良好、堅緻。 D－9　暗褐色砂質土層 落ち込み状遺構
蓋杯（蓋）	6・30 30	口　径 10.4 器　高 3.4 つまみ径 1.7 つまみ高 1.0	口縁部は外下方に下り、端部は丸く、内傾するかえりを有し、かえり端部はやや丸い。天井部は丸い。天央部中央には擬宝珠様のつまみを付す。 マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面⅔は回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整。	◦色調　青灰色 ◦胎土　良質、密。 ◦焼成　良好、堅緻。 F－5　灰褐色砂質土層
	6・45 31	口　径 11.4 器　高 1.9 （現存高）	口縁部は外下方に下り、端部は丸く、内傾するかえりを有し、かえり端部は鋭い。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部は回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	◦色調　青灰色 ◦胎土　1㎜以下の小砂粒多く含む。密。 ◦焼成　良好、堅緻。 P845
	6・45 32	口　径 9.8 器　高 2.2 （現存高）	口縁部は外下方に下り、端部は丸く、内傾するかえりを有し、かえり端部は鋭い。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	◦色調　外黒灰色　内青灰色 ◦胎土　密 ◦焼成　良好　堅緻 F－5　暗褐色砂質土層
	6・30 33	つまみ径 1.9 つまみ高 1.5	天井部は丸味をもち、中央部に擬宝珠様のつまみを付す。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部外面ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	◦色調　青灰色 ◦胎土　1㎜台の砂粒含む。密 ◦焼成　良好、堅緻。 F－4　灰褐色砂質土層
	6・30 34	つまみ径 2.3 つまみ高 1.4	天井部は丸味をもち、中央部に擬宝珠様のつまみを付す。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部外面ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	◦色調　青灰色 ◦胎土　1㎜台の砂粒含む。密 ◦焼成　良好、堅緻。 F－4　暗褐色砂質土層
	6・45 35	口　径 15.5 器　高 1.7 （現存高）	口縁部は外下方に下り、端部は丸く、内傾するかえりを有し、かえり端部は鋭い。 マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ調整	◦色調　暗灰色 ◦胎土　密 ◦焼成　良好、堅緻 F－5　灰褐色砂質土層
	6・30 36	口　径 16.1 器　高 1.9 （現存高）	口縁部は外下方に下り、端部は丸く、内傾するかえりを有し、かえり端部は丸い。 天井部は丸味をもつ。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部½はヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	◦色調　灰褐色 ◦胎土　密 ◦焼成　良好、堅緻 F－5　暗褐色砂質土層
	6・45 37	口　径 16.3 器　高 2.1 （現存高）	口縁部はやや垂直に下り、端部は丸い。内傾するかえりを有し、かえり端部は丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	◦色調　灰青色 ◦胎土　密 ◦焼成　良好、堅緻 F－4　灰褐色粘質土層

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
蓋	6・45 38	口　径 15.8 器　高 1.7	口縁部は外傾し、端部は丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部外面回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調　灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好 F－5　暗褐色砂質土層
	6・30 39	つまみ径 3.2 つまみ高 0.6	天井部のみ、天井部中央に偏平な擬宝珠様つまみを付す。 天井部外面、回転ヘラ削り調整 内面はナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密。0.1～0.3㎜台の小砂粒を含む。 ・焼成　良好、堅緻 F－4　P574
	6・45 40	口　径 15.8 器　高 2.5	口縁部は垂直で、端部は丸い。 マキアゲ、ミズビキ成形 天井部ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密　0.1～0.3㎜台の小砂粒を含む ・焼成　良好、堅緻 E－5　暗褐色砂質土層
杯（蓋）	6・30 41	口　径 14.9 器　高 2.0 つまみ径 2.5 つまみ高 0.9	口縁部はやや外傾し、端部は丸い。 天井は平ら。天井部中央に偏平な擬宝珠様のつまみを付す。 天井部½回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調　暗灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好 D－9　暗褐色粘質土層 落ち込み状遺構
	6・45 42	口　径 15.5 器　高 1.6	口縁部は外傾し、端部は丸い。 天井は平ら。 天井部回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 D－9　暗褐色粘質土層 落ち込み状遺構
	6・45 43	口　径 16.1 器　高 1.1	口縁部は外傾し、端部は丸い。 天井は平ら。 天井部回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 D－9　暗褐色粘質土層 落ち込み状遺構
	6・45 44	口　径 18.6 器　高 1.8 （現存高）	口縁部はほぼ垂直で凹面を成し、端部は丸い。 天井部調整不明、他は回転ナデ調整 内面に自然釉	・色調　灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 E－5　灰褐色砂質土層
	6・31 45	口　径 16.9 器　高 1.2 （現存高）	口縁部は外傾する凹面を成し端部は丸い。天平部は平ら。 マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面½回転ヘラ削り調整 他は回転ナデ調整	・色調　暗灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 E－5　灰褐色砂質土層
	6・45 46	口　径 15.7 器　高 1.3 （現存高）	口縁部は短く外反して下り、端部は丸い。天井部は平らで丸く屈曲し外反して下る。 マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻
	6・31 47	口　径 18.5 器　高 1.1 （現存高）	口縁部は外傾し、端部は丸い。天井部は平らに近い。天井部外面½は回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整 マキアゲ、ミズビキ成形	・色調　灰青色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻 D－9　暗褐色粘質土層 落み込み状遺構
蓋杯（身）	6・31 48	口　径 9.0 器　高 1.5	口縁部は外弯ぎみに外傾し、端部は外傾する平面を有す。端部の器厚は厚い。底部は浅く平ら。 マキアゲ、ミズビキ成形	・色調　灰色 ・胎土　良質、密 ・焼成　良好、堅緻

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
			底部外面⅓はヘラ削り調整。底部⅔は不整方向のナデ調整。他は回転ナデ調整。	

須　恵　器

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
壺	7・31 49	器　高　9.7 （現存高） 体部最大径 8.8	口頸部は外反して立ち上る。肩部は口頸基部より内弯気味に外下方に下り1条の凹線が施されている。体部最大径は½前後に求められる。 マキアゲ、ミズビキ成形 肩部は回転ナデ調整 体部は回転ヘラ削り調整	・色調　灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 溝55A
短頸壷	7・31 50	口　径　6.6 器　高　13.1	口頸部は比較的長く、上外方にのび、端部は丸くとじている。体部の最大径は中位に求める。 マキアゲ、ミズビキ成形 体部下方回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 E－7　落ち込み状遺構
高杯	7・31 51		脚部は垂直に下り、脚部中位?に2条の凹線をめぐらし、その上にヘラ刻みにより細長いスカシが1対みられる。 マキアゲ、ミズビキ成形	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 D－7　P232
甕	7・31 52	口　径　24.3 器　高　8.1 （現存高）	口頸基部より外反して立上がり、更に外上方へ外弯気味にひろがり、端部は狭小な面を呈す。口縁部に浅い狭小な凹線が1条施されている。 マキアゲ、ミズビキ成形。口頸部はハリツケ 回転ナデ調整	・色調　灰黒色 ・胎土　密。0.1～0.3㎜台の砂粒を含む ・焼成　良好、堅緻 溝72
	7・32 53	口　径　25.8 器　高　8.3 （現存高）	口頸部は外傾して外方に立ち上り、口縁部で外方へ屈曲し、肥厚させている。 肩部は口頸部とほぼ直角に下外方へ張り出す。 口頸部側面に「レ」のヘラ記号有り マキアゲ、ミズビキ成形 肩部外面、格子タタキ調整、肩部内面、青海波タタキの後すり消し 他は回転ナデ調整	・色調　灰青色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻
	7・31 54	口　径　25.2 器　高　9.8 （現存高）	口頸部は外弯気味に立ち上り、口縁部付近で屈曲しほぼ直立し、端部はやや丸い。 肩部は100°を成して張り出す マキアゲ、ミズビキ成形 肩部外面平行タタキ後、カキ目調整、肩部内面、青海波タタキ、他は回転ナデ調整 口縁内面に「////」のヘラ記号有り	・色調　灰青色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 F－4　灰褐色砂質土層
	7・32 55	口　径　21.5 器　高　10.9 （現存高）	口頸部は外上方にのびたのち端部近くで垂直に立ちあがる。肩部はなだらかに円弧を描きながら下る。 マキアゲ、ミズビキ成形 肩部外面、平行タタキ後、カキ目調整、肩部内面、青海波タタキ 他は回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 C－8　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）

種類	図版番号	法量（cm）	特徴	備考
壷	7・32 56	残存高 25.3 胴径 29.2 口径 16.2	口頸部は基部より大きく外反しながら立ち上がる。口縁端部は方形である。 肩部は、ゆるやかなカーブで下外方に下り底部に至る。 マキアゲ、ミズビキ成形 肩部外面、平行タタキ後カキ目調整、肩部内面青海波タタキ調整	・色調　灰色 ・胎土　密 ・焼成　良
長頸壷	7・32 57		頸部のみ、口頸基部より外弯気味に立ち上がる。	・色調　灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 F－4　暗褐色砂質土層
提瓶	7・32 58	口径 6.6 器高 4.4 （現存高）	口頸部のみ、体部は不明 外弯気味に外上方へのびる 回転ナデ調整	・色調　青灰色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻 溝55A
	7・32 59	口径 9.4 体部最大径23.4 器高 32.8	口頸部は基部より外反して上方にのび、口縁端部で垂直気味に立ちあがる。 体部は基部からゆるやかに下り、肩部に1対の省略気味の把手がつく。 マキアゲ、ミズビキ成形後、側面に穴を穿って口頸部はりつけミズビキ成形 把手はハリツケ 体部正面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整	・色調　外青灰色　内灰青色 ・胎土　密 ・焼成　良好、堅緻

上師器

種類	図版番号	法量（cm）	特徴	備考
甕	8・33 60	口径 26.6 器高 8.2 （現存高）	口縁部はゆるやかに外弯しながら斜上方にのび、端部は丸くおさめつまんで調整している。 風化が著しく調整は不明であるが、外面に刷毛目が残る。内面はナデ調整	・色調　淡黄褐色 ・胎土　0.1～0.3㎜の砂粒を含む　精良 ・焼成　良好 D－9　落ち込み状遺構
	8・33 61	口径 27.5 器高 12.7 （現存高）	口縁部は外弯しながら斜上方にのび、端部は丸気味で、端部外面は垂直に近い面を有する。 胴部外面全体に刷毛目が施され、内面はナデ調整	・色調　淡黄褐色 ・胎土　精良 ・焼成　良好 D－9　落ち込み状遺構
	8・33 62	口径 28.1 器高 7.8 （現存高）	口縁部は外弯しながら斜上方に伸び、端部は尖り気味にして、端部に外傾する面を有す。 胴部外面は、縦方向の刷毛目、内面は一部横方向の刷毛目が残る。他はナデ調整	・色調　淡黄褐色 ・胎土　0.1～0.3㎜の砂を含む ・焼成　良好 F－4　暗褐色砂質土層
	8・33 63	口径 24.3 器高 9.5 （現存高）	口縁部は外弯しながら斜上方に伸び、端部は尖り気味にして、端部に外傾する凹面を有する。口縁部中央付近がふくらんでいる。 胴部外面、刷毛目、内面風化の為調整不明	・色調　淡黄褐色 ・胎土　1㎜台の砂粒を含む ・焼成　良好 F－5　暗褐色砂質土層
	8・33 64	口径 29.0 器高 8.0 （現存高）	口縁部は外弯しながら斜上方に伸び、端部は方形ぎみにおさまり、つまんで調整している。 調整は風化が著しいため不明である	・色調　淡黄褐色 ・胎土　1㎜以下の砂粒を含む ・焼成　良好 F－4　暗褐色砂質土層

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
			が、胴部外面に縦方向の刷毛目が一部残っている。	
甕	8・33 65	口　径 15.8 器　高 6.3 （現存高）	口縁部は外弯し、斜上方にのびる。口縁部中央がふくらんでいる。端部に外傾する平担面を有する。胴部外面に縦方向の刷毛目、口縁部内面及び胴部内面は横方向の刷毛目、他はナデ調整を施す	・色調　灰白褐色 ・胎土　精良 ・焼成　良好 F－5　暗褐色砂質土層
	8・33 66	口　径 14.8 器　高 14.5 （現存高）	口縁部はゆるやかに外弯し上方にのび、端部で丸くおさめられている。胴部外面に刷毛目、他は風化が著しいため不明である。	・色調　茶褐色 ・胎土　0.3㎜台の砂粒を含む ・焼成　良好 D－9　落ち込み状遺構
	8・33 67	口　径 14.3 器　高 10.9 （現存高）	口縁部は外弯して斜上方にのびる、口縁端部はつまんで調整している。胴部外面は縦方向となな日方向の刷毛目、口縁部内外面ともナデ調整、胴部内面に指圧痕が残る。	・色調　淡黄褐色 ・胎土　精良 ・焼成　良好 D－9　落ち込み状遺構
	8・33 68	口　径 12.2 器　高 10.1 （現存高）	口縁部は外弯し、短かく斜上方にのびる。端部は丸くおさめている。胴部外面は縦方向の刷毛目、口縁部内部は横方向の刷毛目、胴部内面には、粘土紐の段が残っている。	・色調　茶褐色 ・胎土　0.1～1㎜台の砂粒含む ・焼成　良好 F－4　暗褐色砂質土層
鍋	8・34 69	口　径 36.1 器　高 8.1 （現存高）	口縁部は直線気味に斜上方へのび、端部に外傾する面を有する。風化が著しく調整は不明であるが、胴部外面に縦と横方向の刷毛目が一部残っている。	・色調　淡黄褐色 ・胎土　1㎜台の砂粒多く含む ・焼成　良好 F－4　暗褐色砂質土層
甕	8・34 70	口　径 14.5 器　高 8.1 （現存高）	口縁部は外弯して斜上方にのび、端部で丸くおさめられている。口縁部中央がややふくらみをもつ。胴部外面に一部刷毛目が残る、他は不明	・色調　暗褐色 ・胎土　1㎜台の砂粒を多く含む ・焼成　良好 D－9　落ち込み状遺構
	9・34 71	口　径 21.5 器　高 6.7 （残存高）	口縁部は外弯して斜上方にのび、端部で丸くおさめられている。胴部外面に刷毛目、口縁部はナデ調整、他は不明	・色調　淡明橙色 ・胎上　精良 ・焼成　良好 D－9　落ち込み遺構
	9・34 72	口　径 22.5 器　高 12.7 （残存高）	口縁部は直線ぎみに斜上方にのび、端部で丸くおさめられている。風化が著しく調整不明	・色調　淡黄褐色 ・胎土　0.1～0.3㎜台の砂粒多く含む ・焼成　良好 D－8　P226
高杯	9・34 73		中空の柱状部のみの遺存である。	・色調　淡黄褐色 ・胎上　0.1～1㎜台の砂粒を多く含む ・焼成　良好 F－5　黄灰色砂質土層
	9・34 74		中空の柱状部のみの遺存である。	・色調　白黄褐色 ・胎土　小砂粒を多く含む ・焼成　良 F－5　灰褐色砂質土層
	9・35 75		中空の柱状部と杯部底部のみの遺存	・色調　明橙色 ・胎上　良質 ・焼成　良好 F－5　暗褐色砂質土層

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
高杯	9・35 76	口　径 17.1 器　高 4.2	斜上方に内弯気味に立ち上がる杯部のみの遺存 口縁端部は丸くとじる。	◦色調　明橙色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 F－4　暗褐色砂質土層 砂質土層
杯	9・35 77		中空の柱状部と杯部底部のみの遺存である。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　小砂粒を多く含む ◦焼成　良 F－5　灰褐色砂質土層
蓋杯（蓋）	9・35 78	つまみ径　4.0 つまみ高　2.5	擬宝珠様のつまみのみ	◦色調　明橙色 ◦胎土　精良 ◦焼成　良好 F－5　P519
長頸壺	9・35 79	口　径 5.8 胴部最大径 13.4 器　高 13	口縁部は外反気味に上方にのび、体部は頸部基部からゆるやかに下る。底は丸底である。胴部に乱方向の刷毛目	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好
羽釜	9・35 80	口　径 28.9 器　高 5.9 （現存高）	大きく外反する口縁部である。 横方向にのびる幅3.5㎝の鍔がつく	◦色調　明橙色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 F－4　P579

土師皿・椀

種類	図版番号	法量(cm)	特徴	備考
皿	10・36 1	口径 9.0 器高 1.8	丸みをもつ底部。 底部と体部の境界は不明確。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 2	口径 9.4 器高 1.9	丸みをもった底部をもち、体部は外反する。端部は上方に肥厚して丸くとじる。内外面体部には、ナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 3	口径 9.1 器高 1.6	底部はやや波打ち、底部と体部の境界は不明確。内外面とも全面にナデ調整。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好、硬。 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 4	口径 9.6 器高 1.5	丸味をもつ底部を有し、体部はゆるやかに立ち上がる。 内面及び外面口縁端部はナデ調整。 底部外面は一部指圧痕が残る。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色 砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 5	口径 9.4 器高 1.7	丸みをもった底部で、体部との境界は、はっきりせず、体部は内弯ぎみ立ち上がり、口縁は端部で丸くとじる。内面は全体にナデ調整。外面は体部より上はナデ調整を行うが、底部は風化の為不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好、硬。 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 6	口径 10.6 器高 1.8	丸みをもった底部。底部と体部の境界は不明確で、体部はやや外反する。内面及び外面とも体部より上に粗くナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 7	口径 9.4 器高 1.7	丸みをもった底部で体部と底部との境界は不明確。体部はやや外反ぎみで端部は丸くとじる。内面及び体部中途よりナデ調整を行い、外面底部は、指頭圧整形の為の痕が残る。	・色調 内淡黄褐色 外淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好、硬。 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 8	口径 8.8 器高 1.8	やや丸みをもった底部を有し、体部と底部との境界は不明確。体部は内弯ぎみ。端部はやや肥厚し、丸くとじる。内面体部より上には反時計方向回りのナデ調整。外面底部は指頭圧整形の後、不整方向に粗いナデ調整を行う。他はナデ調整。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質（雲母を含む） ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 9	口径 9.1 器高 1.7	丸みをもった底部をもち、底部と体部の境界は不明確。ゆるやかなカーブで体部は立ち上がり、端部は丸くとじる。内面全体にはナデ調整を行うが、底部内面には一部刷毛目が残る。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・36 10	口径 9.2 器高 1.8	丸みをもった底部。体部と底部の境界は不明確、体部は外反する。外面及び内面には粗くナデ調整を行う。	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好、硬。 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）

種類	図版番号	法量 (cm)	特徴	備考
皿	10・36 11	口径 8.8 器高 1.6	底部は丸みをもつ。体部は内弯ぎみに立ち上がり、端部返くで若干外反する。端部は丸くとじる。内面体部より上、及び外面にはナデ調整が行われるが、内面底部は磨耗の為不明	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・36 12	口径 9.8 器高 2.2	丸みをもった底部をもち、底部と体部との境界は不明確。内弯して立ち上がる体部は中位より外反し、端部は上方に肥厚して丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行い、外面底部は不明。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・36 13	口径 9.3 器高 1.7	丸みをもった底部。底部と体部の境界は不明確で、体部は端部近くで外反し、端部は丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行うが底部は磨耗の為、不明確。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・36 14	口径 9.1 器高 1.5	丸みをもった底部を有し、体部はゆるやかなカーブで立ち上がる。端部は丸くとじる。内面体部より上は時計方向にナデ調整を行う。内面底部は一定方向にナデ調整を行う。外面体部より上はナデ調整を行い、外面底部は、指頭圧による調整後、粗くナデ調整を行う。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・37 15	口径 9.2 器高 1.8	丸みをもった底部を有し、体部は内弯して立ち上がり、端部は丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行う。外面底部は磨耗の為、不明。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・37 16	口径 10.0 器高 1.8	丸みをもった底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行う。外面底部は不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・37 17	口径 8.9 器高 1.6	丸みをもった底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。内外面にナデ調整を行う。	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質。雲母を含む。 ・焼成 やや火むらあり。 E－7 暗褐色粘質土層（鉄分混じり）
	10・37 18	口径 10.4 器高 1.9	丸みをもった底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。 端部は丸くとじる。 内外面にナデ調整	・色調 内暗灰色 外灰褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 溝58
	10・37 19	口径 8.8 器高 1.6	平坦な底部。体部はやや内弯ぎみで端部は丸くとじる。内、外面とも全体にナデ調整	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 20	口径 9.6 器高 1.4	平坦な底部。底部と体部の境界は不明確で内弯ぎみに立ち上がった体部をもち、端部は丸くとじる。内面全体と外面体部にはナデ調整を行い、外面底部は指頭圧整形後、粗いナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 21	口径 9.7 器高 1.5	ほぼ平坦な底部を有し、体部は内弯ぎみで、端部近くで肥厚する。端部は丸くとじる。内面底部は不整方向	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好

種類	図版番号	法　量（cm）	特　徴	備　考
			にナデ調整を行い、部分的に刷毛目が残る。内面底部より上には時計方向回りにナデ調整、外面底部は指頭圧整形の後、粗くナデ調整を行い、他はナデ調整を行う。	E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 22	口　径　9.6 器　高　1.6	平坦な底部。体部はやや内弯ぎみに立ち上がり、端部近くで若干肥厚し、端部は丸くとじる。外、内面ともにナデ調整を行う。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 23	口　径　9.4 器　高　1.6	やや波打つ底部。ゆるやかに立ち上がる体部は端部近くで開く、体部は底部より肥厚し、端部は、上方に肥厚して端部は尖りぎみにおわる。内面及び外面とも体部中位より上にナデ調整を行う。外面底部には指頭圧痕が残る。	◦色調　白黄色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 24	口　径　8.9 器　高　1.9	平坦な底部。ゆるやかなカーブで立ち上がる。端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整	◦色調　白黄色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層
	10・37 25	口　径　9.0 器　高　1.7	平坦な底部。ゆるやかなカーブで立ち上がり、体部はやや内弯ぎみ。端部は丸くとじる。内外面とも全体にナデ調整。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
皿	10・37 26	口　径　9.3 器　高　1.5	ほぼ平坦な底部。体部は外反ぎみに立ち上がり、体部中位で上方に立ち上がり、外反する。端部は上方に若干肥厚して丸くとじる。内面及び外面体部中位より上にはナデ調整を行う。外面底部には、指頭圧痕が残るか磨耗が激しい。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 27	口　径　10.2 器　高　1.8	ほぼ平底で、体部は外反ぎみに立つ部分と、内弯ぎみな部分とがある。端部は丸くとじる。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・37 28	口　径　8.8 器　高　1.3	ほぼ平坦な底部を有し、ゆるやかに立ち上がった体部をもつ。端部は上方に肥厚して、外上方にのび丸くとじる。内外面ともナデ調整を行う。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質 ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・38 29	口　径　9.1 器　高　1.5	ほぼ平坦な底部を有し、体部はまっすぐに立ち上がり、端部は丸い。外面底部は指頭圧成形の後、粗くナデ調整を行い、他は内、外面ともナデ調整。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質（雲母を含む） ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・38 30	口　径　9.2 器　高　1.5	平坦な底部を有し、体部はゆるやかに立ち上がり、端部は丸い。外面底部は指頭圧成形の後、粗くナデ調整を行い、他は内、外面ともにナデ調整。 内面口縁部の一部にススが付着。	◦色調　淡黄褐色 ◦胎土　良質（雲母を含む） ◦焼成　良好 E－7　暗褐色砂質土層

種類	図版番号	法量(cm)	特徴	備考
皿	10・38 31	口径 9.8 器高 1.9	平坦な底部をもち、底部と体部の境界は不明確。外反ぎみの体部、端部は丸くとじる。外面体部及び内面体部には、ナデ調整を行うが、他は風化の為不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・38 32	口径 9.8 器高 1.7	ほぼ平坦な底部。体部との境界は不明確。体部は直線的な部分と直線的にのびた後、中位で内側に方向を変え、外に開き端部に至る部分がある。端部は上方に肥厚後、水平にのび、尖りぎみにおわる。器厚は薄い。内面及び外面体部にはナデ調整を行い、外面底部は指頭圧整形の後、粗くナデ調整。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・38 33	口径 8.5 器高 1.7	平坦な底部を有し、体部は内弯ぎみに立つ。端部は丸くとじる。内面底部及び外面体部には、ナデ調整が行われるが、他は風化の為、不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	10・38 34	口径 9.6 器高 1.9	平坦な底部。体部は外反ぎみに立ち上がった後、体部中位より内弯して端部に至る。端部は丸くとじる。内面底部は一定方向に、内面体部には反時計方向にナデ調整が行われる。外面体部にナデ調整が行われる。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・38 35	口径 9.2 器高 1.4	平坦な底部を有し、体部は外反して端部に至る。端部は上方に肥厚して丸くとじておわる。内面体部より上方にはナデ調整を行い、部分的に刷毛目が残る。外面は全体にナデ調整が行われる。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・38 36	口径 9.6 器高 1.6	平坦な底部を有し、体部は内弯して立つ。端部近くで水平にのび端部は上方に肥厚して丸くとじる。内外面体部中位より上にはナデ調整を行い、内面体部には、部分的に刷毛目が残る。又、底部内面にも刷毛目が残る。外面底部は磨耗の為、不明。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・38 37	口径 10.4 器高 1.5	平坦な底部を有し、体部は内弯気みに立ち上がり、口縁で外反気味に立ち上がる。端部は丸くとじる。内面ナデ調整、外面口縁端部以外未調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・38 38	口径 9.4 器高 1.7	平坦な底部を有し、底部と体部の境界は不明確。体部は内弯ぎみに立ち上がり、端部は丸くとじる。内面及び外面体部にナデ調整を行う。外面底部は風化の為、不明確だが、部分的に刷毛目が残る。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	10・38 39	口径 10.0 器高 1.6	ほぼ平坦な底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行い、外面底部は指頭圧整形の後、ナデ調整を粗く行う。	・色調 内淡黄褐色 外灰褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層

種類	図版番号	法量(cm)	特徴	備考
皿	11・38 40	口径 10.4 器高 1.6	ほぼ平坦な底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整を行う。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色 黒色粘質土層
	11・38 41	口径 9.8 器高 2.0	平坦な底部を有し、体部はゆるやかに立ちあがり、端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－6 暗褐色砂質土層
	11・45 42	口径 9.4 器高 2.0	平坦な底部を有し、体部はゆるやかに立ちあがり、端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－6 暗褐色砂質土層
	11・39 43	口径 9.1 器高 1.9	平坦な底部を有し、体部はゆるやかに立ちあがる部分と直線的に立ちあがる部分とがある。内外面ともナデ調整を行うが、内面底部には部分的に刷毛目が残る。	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－5 灰褐色砂質土層
	11・39 44	口径 8.8 器高 1.8	平坦な端部を有し、体部はゆるやかに立ちあがる。端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－6 暗褐色粘質土層（鉄分混じり）
	11・39 45	口径 9.4 器高 1.4 (現存高)	体部はゆるやかにカーブして立ち上がり、端部近くで外反する。端部は上方に肥厚した後、丸くとじる。外、内面にナデ調整を行う。	・色調 内淡黄褐色 外黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 （やや火むらあり） F－6 暗褐色粘質土層（鉄分混じり）
	11・39 46	口径 9.6 器高 1.6 (現存高)	ひずみのある底部を有し、体部はゆるやかに立ち上がる。端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－6 暗褐色粘質土層（鉄分混じり）
	11・39 47	口径 9.0 器高 1.5	ひずんだ底部を有し、底部よりゆるやかなカーブを描いて立ち上がった体部は体部中位より、直線的に端部に至る。端部はやや尖りぎみにおわる。内面全体及び外面体部にはナデ調整。外面底部は指頭圧整形後、ナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	11・39 48	口径 8.9 器高 1.5	ひずんだ底部で体部は外反ぎみに立ち上がり、端部は丸くとじる。外面の体部より上方及び内面はナデ調整を行い、底部外面には指頭圧整形の痕が残る。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	11・39 49	口径 8.7 器高 1.7	ひずんだ底部。底部と体部の境界は不明確で体部は、やや内弯ぎみであり、端部は丸くとじる。内、外面とも全体にナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	11・39 50	口径 9.25 器高 1.6	ややひずんだ底部を有し、体部はゆるやかに立ち上がる。端部は尖りぎみ。外面底部は指頭圧成形の後、ナデ調整、他は内、外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質（雲母を含む） ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）

種類	図版番号	法量(cm)	特徴	備考
皿	11・39 51	口径 9.3 器高 1.4	ひずんだ底部を有し、体部との境界は不明確。体部は直線ぎみに立ち上がる部分と内弯ぎみに立ち上がる部分とがある。端部は丸くとじる。内面及び外面体部より上にはナデ調整を行い、外面底部は粗いナデ調整を行う。	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	11・39 52	口径 9.2. 器高 1.8	ひずんだ底部を有し、体部は外反ぎみに立ち上がる。端部はやや水平にのび、丸くとじる。内面体部より上には反時計まわりにナデ調整を行い、その上に部分的に刷毛目が残るが、磨耗の為、不明確である。外面体部中位より上にはナデ調整を行う。外面底部は磨耗の為、不明。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	11・39 53	口径 9.0 器高 1.4	ひずみのある平坦な底部をもち、体部はゆるやかに上外方にのびる。端部は丸くとじる。内面はナデ調整、外面底部未調整	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	11・39 54	口径 9.2 器高 1.5	ひずんだ底部をもち、体部はゆるやかに外上方にのびる。端部は口縁付近で肥厚になる。内外面ナデ調整	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層
	11・39 55	口径 9.3 器高 1.6	ひずんだ底部で、体部は内弯ぎみに立ち上がり、端部は上方に、肥厚して尖りぎみにおわる。外面体部にナデ調整を行うが、他は風化の為、不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 軟 E－7 暗褐色砂質土層
	11・39 56	口径 11.2 器高 2.3	丸味をもった底部で、体部は内弯気味に立ち上がり、口縁端部付近で外反ぎみにのびる。端部は丸くとじる。外面ナデ調整、内面磨耗のため調整不明	・色調 白黄色 ・胎土 良質 1㎜くらいの砂粒を含む ・焼成 良好 F－6 暗褐色粘質土層（鉄分混じり）
	11・42 57	口径 11.5 器高 2.5	体部は内弯して立ち上がり、端部は丸くとじる。内、外面ともナデ調整を行い、外面体部下位には指頭圧痕が残る。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 C－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	11・40 58	口径 14.5 器高 2.9	やや尖りぎみの底部。底部と体部の境界は不明確で、体部はゆるやかなカーブで端部に至る。端部は丸くとじる。内面の調整は風化の為、不明。外面にはナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	11・40 59	口径 14.2 器高 2.8	平坦な底部を有し、体部はゆるやかなカーブを描いて立ち上がる。端部は丸くとじる。外面体部中位より上にナデ調整の痕跡が認められる他は磨耗の為、不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）
	11・40 60	口径 15.1 器高 2.7	ほぼ平坦な底部。体部はゆるやかなカーブを描いて立ち上がり、端部は丸くとじる。内、外面体部にナデ調整を行うが、他は風化の為、不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 E－7 暗褐色砂質土層（鉄分混じり）

種類	図版番号	法量(cm)	特徴	備考
皿	11・40 61	口径 15.0 器高 2.5 (現存高)	平坦な底部をもち、体部はゆるやかなカーブを描いて立ち上がり、端部は丸くとじる。体部外面にはナデ調整を行う。内面と外面底部は、磨耗の為、不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－6 暗褐色粘質土層(鉄分混じり)
	11・40 62	口径 13.8 器高 2.6 (現存高)	底部は丸く、体部は内弯して立ち上がる。端部は丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行う。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好、やや軟。 E－7 暗褐色砂質土層
	11・40 63	口径 17.8 器高 2.9	平坦な底部をもち、体部はゆるやかに内弯して上外方にのびる。端部は丸くとじる。磨耗の為調整不明。	・色調 明橙色 ・胎土 1㎜大の砂粒を多く含む ・焼成 良好 D－9 落ち込み状遺構
椀	11・40 64	口径 13.8 器高 4.0	平坦な底部をもち、体部は内弯して上外方にのび、端部は丸くとじる。内面調整は磨耗の為不明 外面はナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－4 暗褐色砂質土層
	11・40 65	口径 16.6 器高 4.0 (現存高)	平坦な底部をもち、体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 内外面ともナデ調整	・色調 内淡黄褐色 外明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 D－9 落ち込み状遺構
	11・40 66	口径 19.1 器高 4.5 (現存高)	平坦な底部をもち、体部はゆるやかなカーブを描いて立ち上がる。端部は細い面をもってとじる。内外面ナデ調整	・色調 内淡黄褐色 外明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 D－9 落ち込み状遺構
	11・40 67	口径 14.4 器高 4.2	平坦な底部をもち、体部はゆるやかなカーブを描いて立ち上がる。端部は丸くとじる。体部内面及び外面に横ナデ調整を行う。他は風化の為、不明。	・色調 明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－4 暗褐色砂質土層
	11・40 68	口径 17.1 器高 5.3 (現存高)	平坦な底部をもつ。体部はゆるやかなカーブで立ち上がり、端部近くで外反する。端部内側に一条の沈線が巡る。器厚は薄い。 内面底部はナデ調整が行われているが、風化の為、はっきりしない。また、内面体部中位より上には時計回り方向にナデ調整が行われ、その後、内面体部下位から中位にかけて、内から外に刷毛目が残る。外面底部より体部中位にかけては、指頭圧痕が残りいびつである。その上より乱方向に粗く、ナデ調整が行われる。他は風化の為、不明。	・色調 明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好。硬。 F－5 暗褐色砂質土層
皿	12・41 69	口径 9.6 器高 2.0	丸みをもった底部を有し、底部と体部との境界は不明確。内弯ぎみの体部をもち、端部は丸くとじる。内、外面とも全体にナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質(雲母を含む) ・焼成 良好 P62
	12・41 70	口径 9.8 器高 1.9	丸みをもった底部を有し、体部はゆるやかなカーブで立ち上がり、端部近くで外に開く。端部は水平に若干のびた後、尖りぎみにおわる。内面体部より上には時計方向回りにナデ調整を行い、外面体部中位より上にはナデ調整を行う。口縁内面に油痕が残る。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62

種類	図版番号	法量 (cm)	特徴	備考
皿	12・41 71	口径 9.7 器高 1.7	底部は丸味をもち体部はゆるやかに立ち上り、口縁部で外反する。端部は丸くとじる。 内外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 72	口径 9.7 器高 1.7	平坦な底部、体部は内弯ぎみに立ち上がり、端部は丸くとじる。 磨耗の為調整不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 73	口径 9.4 器高 2.0	平坦な底部。体部は内弯ぎみに立ち上がり、端部は丸くとじる。外面体部にナデ調整を行う。内面及び外面底部は磨耗の為、不明。内面口縁部に油痕が残っている。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 74	口径 9.8 器高 1.9	平坦な底部を有し、体部はゆるやかなカーブで立ち上がり、端部近くで外反する。端部は丸くとじる。内面及び外面体部にはナデ調整を行い、外面底部には粗くナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 75	口径 9.7 器高 1.9	平坦な底部。体部は外反ぎみに立ち上がり、端部は丸くとじる。内面体部及び外面体部はナデ調整を行い、外面底部には粗くナデ調整を行う。内面底部は磨耗の為、不明。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 76	口径 9.8 器高 1.7	ほぼ平坦な底部を有し、内弯ぎみの体部は、端部近くで外反し、端部は上方に若干肥厚後、上外方にのび、丸くとじる。全体にナデ調整を行う。内面口縁部に一部油痕が残る。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質（雲母を含む） ・焼成 良好 P62
	12・41 77	口径 10.0 器高 1.7	ほぼ平坦な底部を有し、ゆるやかに立ち上がった体部は、口縁部で外に開く。端部は水平にのびた後、尖りぎみにとじる。外、内面ともにナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 78	口径 9.3 器高 1.3	平坦な底部を有し、体部はゆるやかにカーブしながら立ち上がる。端部は丸くとじる。外、内面ともにナデ調整を行い、内面体部及び底部には一部刷毛目を有する。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 79	口径 9.5 器高 1.8	ほぼ平坦な底部を有し、体部は直線的にゆるやかに立ち上がる。内面体部より上は反時計回り方向にナデ調整を行い、内面底部は、ほぼ一定方向にナデられている。外面体部にはナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 80	口径 10.5 器高 1.5	ほぼ平坦な底部を有し、体部は内弯気味に立ち上がる。端部は丸くとじる。 内外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・41 81	口径 9.4 器高 1.7	ほぼ平坦な底部。体部はゆるやかなカーブで立ち上がり、口縁部近くで外反する。端部は丸くとじる。口縁部には油痕を残す。内面及び外面体部にはナデ調整を行い、外面底部には粗いナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62

種類	図版番号	法量(cm)	特徴	備考
皿	12・41 82	口径 9.5 器高 1.8	ほぼ平坦な底部を有し、体部は直線的にゆるやかに立ち上がる。端部は丸くとじる。器厚は薄い。内面及び外面体部より上にはナデ調整を行う。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・42 83	口径 9.9 器高 1.3	ほぼ平坦な底部を有し、体部はやや外反ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。内面は底部を一方向にナデた後に、底部中位より体部を時計回りにナデ調整し、外面は底部にナデ調整と体部に反時計回りのナデ調整を行う。	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・42 84	口径 9.6 器高 1.6	ひずんだ底部をもち、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。外、内面ともにナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・42 85	口径 9.6 器高 1.8	ひずんだ底部を有し、内弯ぎみの体部は端部近くで外反する。端部は上方に肥厚した後、水平にのび丸くとじる。内面口縁部に一部油痕が残る。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質(雲母を含む) ・焼成 良好 P62
	12・42 86	口径 9.7 器高 1.7	ややひずんだ底部を有し、体部はゆるやかなカーブで立ち上がる。端部は丸くとじる。内面及び外面体部より上にはナデ調整を行うが磨耗の為、不明確、内面底部に部分的に刷毛目を残す。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・42 87	口径 9.8 器高 1.3	ひずんだ底部で体部はゆるやかに立ち上がる。端部は丸くとじる。内面にナデ調整。外面体部より上には時計方向にナデ調整。外面底部には粗くナデ調整を行う。内面底部に一部ススが付着。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・42 88	口径 9.8 器高 1.8	丸味をもった底部で、体部はゆるやかに立ち上がる。端部は丸くとじる。内面及び外面口縁部はナデ調整 底部外面指圧痕残る。	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 井戸2(木枠内)
椀	12・42 89	口径 14.9 器高 3.1	ひずんだ底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。内外面ともナデ調整	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P62
	12・42 90	口径 14.9 器高 4.0	ひずんだ底部を有し、体部は内弯ぎみに立ち上がる。端部は丸くとじる。全体にナデ調整を行う。内面口縁部の一部に油痕が残る。	・色調 淡黄褐色 ・胎土 良質(雲母を含む) ・焼成 良好 P62
杯	12・45 91	口径 12.8 器高 1.5 (残存高)	平坦な底部を有し、体部は外反して立ち上がり、端部は丸くとじる。内面及び外面口縁部は回転ナデ調整、底部外面、ヘラ削りの後、ナデ調整	・色調 白黄色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 井戸2(下)
椀	12・42 92	口径 13.8 器高 4.1 (残存高)	平底で直線的な体部を有している。内、外面にはナデ調整を行う。 外面底部及び内面底部に油痕が残る。	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 井戸2(下)
	12・43 93	口径 9.4 器高 3.6	底部は丸みをもち、内弯して口縁部にのびている。 内面にヘラミガキ暗文が施されている。	・色調 明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－5 暗褐色砂質土層

種類	図版番号	法量 (cm)	特徴	備考
椀	12・43 94	口径 16.5 器高 5.3	底部は平坦であるが、中央部が内部へ盛り上がっている。体部はゆるやかなカーブを描き立ち上がっている。内面に放射線状のヘラミガキ暗文を施し、体部下方はヘラミガキ、他はナデ調整	・色調 明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 F－4 暗褐色砂質土層
椀	12・42 95	口径 12.2 器高 3.9	平坦な底部を有し、ゆるやかに立ち上がる体部は肥厚し、口縁端部は薄くなっている。 内面に放射線状のヘラミガキ暗文を施し、外面下方は雑なナデ調整を施している。	・色調 明橙色 ・胎土 良質 ・器高 良好 F－4 暗褐色砂質土層
皿	12・43 96	口径 25.2 器高 3.8	平坦な底部を有し、体部はゆるやかに立ち上がり端部は丸くとじる。 内面に放射線状のヘラミガキ暗文を施す。 底部外面雑なヘラ削り調整	・色調 明橙色 ・胎土 良質 1㎜くらいの砂粒を含む。 ・焼成 良好 F－5 暗褐色砂質土層
皿	12・42 97	口径 22.8 器高 3.7	平坦な底部を有し、体部は内弯して立ち上がり、口縁部で外反してとじる。風化のため内外面の調整は不明	・色調 淡明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 P 4 4 5
皿	12・43 98	口径 24.9 器高 2.8 高台径 20.1 高台高 0.4	平坦な底部を有し、体部は内弯して立ちあがり、口縁部で大きく外反してとじる。底部端付近に断面台形の高台を付す。 内面及び外面口縁部付近ナデ調整、底部外面ヘラ削りの後ナデ調整	・色調 明橙色 ・胎土 良質 ・焼成 良好 D－9 落ち込み状遺構

瓦　　器

種類	図版番号	法　量（cm）	特　　徴	備　　考
瓦器椀	13・43 1	口　径 14.9 器　高 5.6 高台径 6.9 高台高 0.7	体部は内弯気みに立ち上り、口縁部は若干外反する。 内外面の暗文は太くて密 外側に張り出す断面方形の高台を付す。 内面に太目の連結輪状の暗文を施す 口縁端部内面に沈線	◦色調　灰黒色 ◦胎土　灰白色、精良 E－7　暗褐色砂質土層
	13・43 2	口　径 14.7 器　高 5.0	体部は内弯気みに立ち上り、口縁部は外反する。 内外面の暗文は太くて密 体部外面全体に指圧痕を残す。 内面の暗文不明 口縁端部内面に沈線	◦色調　灰黒色 ◦胎土　灰白色、精良。 P172
	13・43 3	口　径 15.0 器　高 7.2 高台径 6.7 高台高 0.7	体部は丸味をもって立ち上がり、口縁部で斜上方へのびる。 口縁端部に沈線 内外面の暗文は風化がはげしく不明 断面方形に近い高台を付ける。	◦色調　灰黒色 ◦胎土　灰白色、精良 溝170
	13・44 4	高台径 5.4 高台高 0.6	底部のみで断面三角形の高台を付す。 底部内面に省略ぎみの螺旋状の暗文	◦色調　黒灰色 ◦胎土　灰白色、精良 井戸2　曲物直下
	13・44 5	口　径 13.5 器　高 4.2 高台径 5.3 高台高 0.3	体部は内弯気みに立ちあがり、端部で外反する。 口縁端部内面に沈線 内外面とも間隔のあく暗文 内面に連結輪状の暗文 断面三角形の細い高台がつく	◦色調　黒灰色 ◦胎土　灰白色　精良 土坑1
	13・44 6	口　径 13.3 器　高 3.5 高台径 5.4 高台高 0.5	体部は内弯気みに立ち上がり口縁部で斜上方へのびる。 口縁端部に細い沈線 内外面とも間隔のあいた暗文 底部内面にうず巻状暗文 断面三角形の細い小さな高台がつく	◦色調　灰黒色 ◦胎土　灰白色、精良 土坑1
	13・44 7	口　径 13.4 器　高 4.9 高台径 4.6 高台高 0.4	体部はゆるやかに内弯気みに立ちあがり口縁部で斜上方へのびる。 口縁端部に沈線 内側は間隔があく暗文、外側は数条の暗文のみ 断面三角形の小さな高台がつく 底部内面に連結輪状の暗文	◦色調　黒灰色 ◦胎土　灰白色、精良。 E－7　暗褐色砂質土層
	13・44 8	口　径 14.8 器　高 5.0 高台径 不明 高台高 0.4 （現存高）	体部は内弯気味に立ちあがり、口縁部は外反する。口縁端部に沈線。 内側は細いていねいな暗文、外側は間隔のあく細い暗文 底部内面に連結輪状の暗文 断面三角形の細い高台が付く	◦色調　黒灰色 ◦胎土　灰白色、精良 E－5　暗褐色砂質土層
瓦器皿	13・44 9	口　径 10.3 器　高 1.9 （現存高）	体部はわずかに丸味をもち口縁部は短く斜上方へのびる。 外面横なで 平底で内面に鋸歯状の暗文を施す	◦色調　黒灰色 ◦胎土　灰白色、精良 井戸2（上）
砥石	13・44 10	最大長 9.7 最大幅 6.6	断面方形、四面とも著しく使用されている。 中砥	

石　器

種　類	図版及び図版番号	現存長（㎜）	最大幅（㎜）	厚み（㎜）	重量（g）	石質	備　考
ナイフ形石器	48－1	25	10	4	7.0	サヌカイト	素材は翼状剥片
〃	48－2	66	18	10	12.75	〃	素材は縦長剥片
翼状剥片	48　3	60	25	10	0.9	〃	
石　鏃	48－4	24	15	3.5	0.6	〃	
〃	48－5	17.5	15	3	0.9	〃	
石　錐	48－6	22	16	4	0.95	〃	錐長（残存）12㎜ 錐径6㎜×3㎜ 錐部断面は三角形
〃	48－7	41	11	5	2.55	〃	錐径6㎜×4㎜ 錐部断面は円形に近い形菱形

Ⅵ. ま と め

今回は、丘陵頂上部付近と丘陵端部付近の調査を実施した。

丘陵頂部付近については、高宮廃寺の西への広がりを確認するとともに、神社遺構及び巨大な柱穴をもつ掘立柱建物群を中心として形成された集落遺跡と高宮廃寺の関係、すなわち寺院造営に直接かかわった古代氏族の居住地と氏寺氏神社造営地との関連を調査することを目的として実施した。

過去数次に且って実施してきた発掘調査によりその都度興味深い成果を上げ、この高宮の丘陵上に高宮廃寺を造営した古代氏族によって形成された巨大な掘り方の柱穴をもつ掘立柱建物群を中心とする古代の集落の姿が明らかになりつつあり、氏寺造営のために自からの居住区域を提供した事実も判明してきた。集落形成時及び氏寺造営時に、その地にあった小谷を埋め版築して平担に整地するという古代における土木事業を考える上においても問題を提起することとなった。

今回の調査で第３トレンチ、第４トレンチを設定した地は、位置的には高宮廃寺跡南門推定地の南西で、南門から西に延びると推定される西側築地の南であり、寺院伽藍の外にあたる所である。これら第３トレンチ、第４トレンチの断面観察から、深さ２ｍ以上にもおよぶ版築された整地の跡を検出した。昨年、今回調査地の北側の畑地で実施した第４次調査でも同様の版築の跡を検出しており、今回はその整地の範囲のひろがりを確認するとともに資料を加えるものである。

丘陵端部付近の調査では、掘立柱建物跡４棟、井戸３基、土壙３基、溝約110条、柵列１箇所を確認し、その他ピットの数は数百に及んでいる。

掘立柱建物跡については、その時期が丘陵頂部に形成された高宮廃寺を建立した古代氏族の柵列で囲まれた巨大な柱穴をもつ掘立柱建物群と同時期と考えられ、飛鳥・白鳳時代におけるこの集落の広がりを示すものであり、さらに西及び南に遺跡の範囲が広がる可能性を示唆するものである。この集落は、今回出土した多数の遺物から奈良時代末あるいは平安時代初頭まで存続形成されていたことが判明した。このことは、高宮廃寺が廃絶した時期とも一致しており、何らかの理由によりこの高宮の丘陵一帯を居住区としていた氏族が奈良時代末あるいは平安時代初頭に滅亡あるいは移動したのではないかと考えられ、古代氏族とその氏寺経営を考える上においての今後の検討課題となるであろう。

次に人々がこの地に集落を形成するのは平安時代末期以降である。その時期の遺構として、木枠の施設をもつ井戸、土壙、溝があげられる。

木枠の施設をもつ井戸は、横板二段の井筒の上に「コ」字形に刳り抜いた井筒材を二枚組み合せて据えた、刳抜＋横板井戸である。

横板の井筒内より、直径16cm、高さ14cmの墨書銘のある曲物の桶が出土している。この曲物の外側に墨書で書かれている銘は、「保延六年□月十一日待近桶也」と読め、「保延六年」は西暦1140年にあたる。同時に曲物の直下から瓦器椀も出土しており、瓦器椀の編年研究上貴重な資料となるものである。また、この曲物の桶は、日常生活用品として使用されていた桶とは考えにくく、特別なものとして使用されこの井戸内に投げ入れられたものと考えられ、井戸の祭祀等の研究においても新たな資料として寄与するものである。

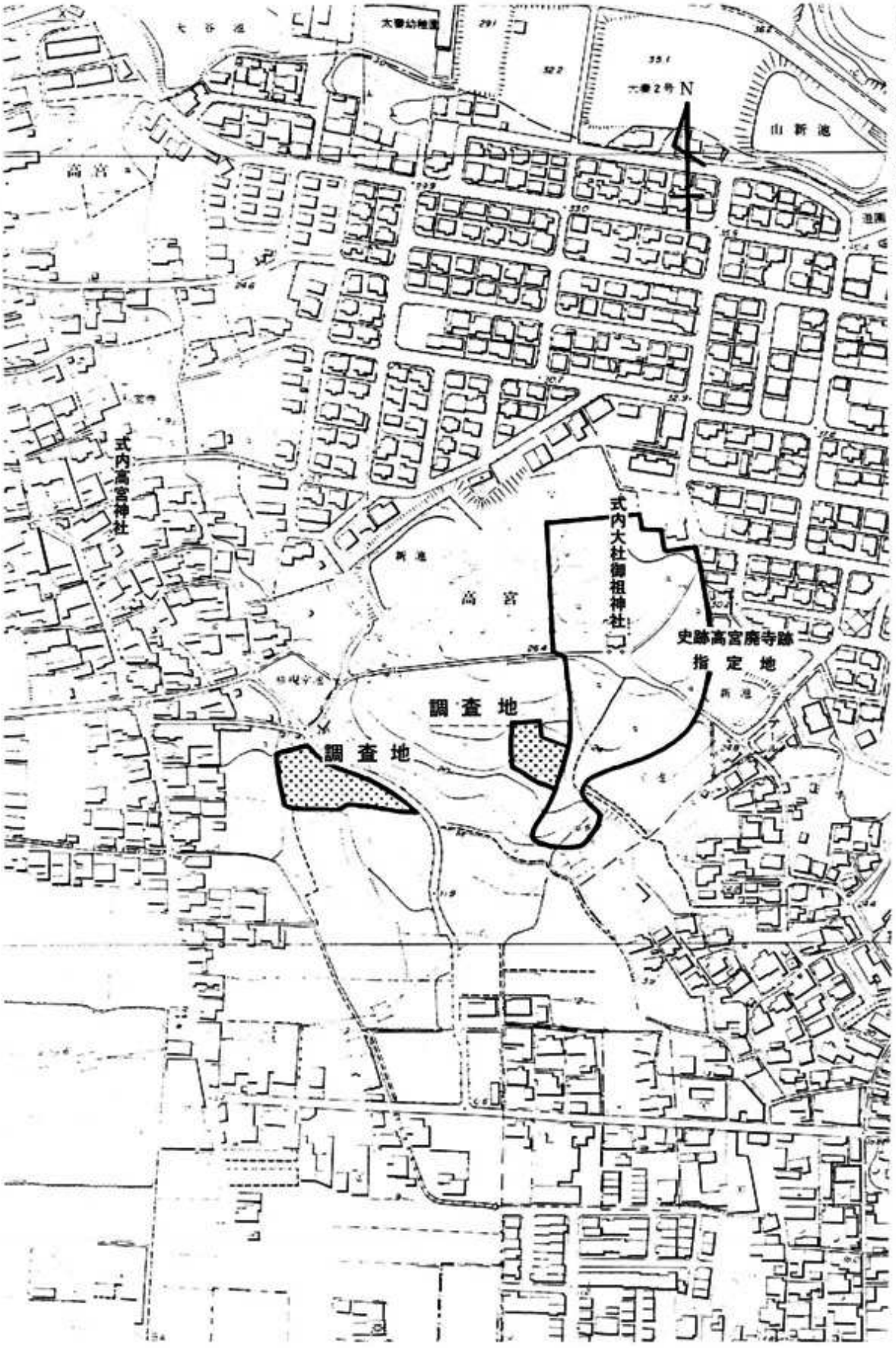
墨書名のある曲物は、八尾市津堂遺跡から康和四年（1102年）の年号の入った解文が井筒として使用されて出土している。

図　版

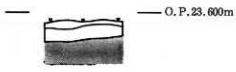
図版1　高宮廃寺跡周辺跡分布図

1. 三井南遺跡　2. 秦山遺跡　3. 秦河勝の墓　4. 池の瀬遺跡　5. 寝屋遺跡
6. 寝屋東遺跡　7. 延喜式社内細屋神社　8. 廻シ塚古墳　9. 太秦北遺跡　10. 太秦1号墳
11. 寝屋南遺跡　12. 神宮寺跡　13. 太秦廃寺跡　14. 動物ハニワ出土地　15. 太秦遺跡・太秦古墳群
16. トノ山(高塚)古墳　17. 寝屋古墳　18. 打上遺跡　19. 雷神石(石棺の身)　20. 高良(打上)神社
21. 打上神社古墳群　22. 石の宝殿古墳(史跡)　23. 国守西遺跡　24. 国守遺跡　25. 延喜式内社高宮神社
26. 高宮遺跡　**27. 高宮廃寺跡(史跡)**　28. 延喜式内社大杜御祖神社　29. 小路遺跡　30. 更良川遺跡・讃良寺跡
31. 北口遺跡　32. 忍ケ岡古墳・延喜式内社忍陵神社　33. 更良岡山古墳群　34. 坪井遺跡　35. 忍ケ丘駅前遺跡

図版2　調査地位置図

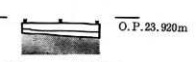


第1トレンチ西断面図

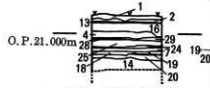


第1トレンチ南断面図

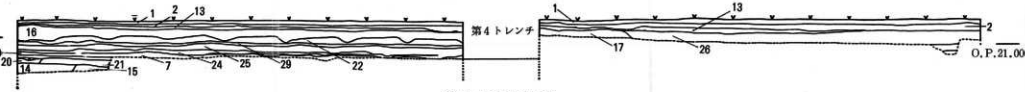
第2トレンチ北断面図



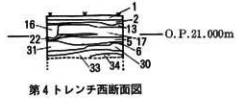
第2トレンチ東断面図



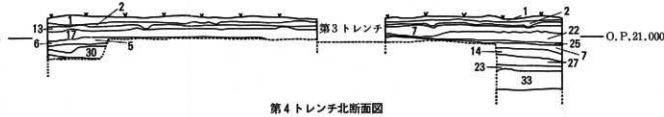
第3トレンチ南断面図



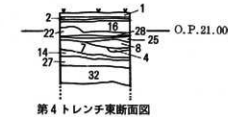
第3トレンチ西断面図



第4トレンチ西断面図



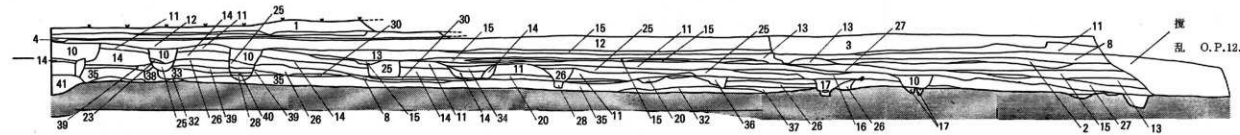
第4トレンチ北断面図



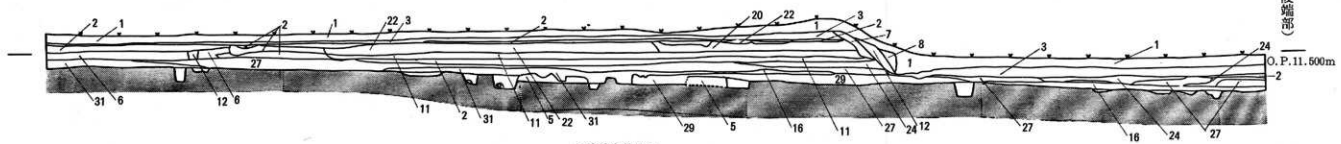
第4トレンチ東断面図

1.	耕土	2.	床土	3.	明黄灰色砂質土層	4.	明灰褐色砂質土層	5.	明黄灰褐色砂質土層	6.	明黄灰褐色砂質土層（22より灰色強）
7.	明黄灰茶褐色砂質土層	8.	明茶褐色砂質土層	9.	灰褐色砂質土層	10.	青灰色砂質土層	11.	黄灰褐色砂質土層	12.	黄茶褐色砂質土層
13.	黄褐色砂質土層	14.	茶褐色砂質土層	15.	茶褐色砂質土層（14より暗）	16.	赤褐色砂質土層	17.	赤褐色砂質土層（4より粘性強）	18.	暗灰褐色砂質土層
19.	暗灰茶褐色砂質土層	20.	暗茶褐色砂質土層	21.	暗褐色砂質土層	22.	明灰褐色粘質土層	23.	黄色粘質土層	24.	黄灰色粘質土層
25.	青灰褐色粘質土層	26.	青黄灰色粘質土層	27.	青灰茶褐色粘質土層	28.	黄灰褐色粘質土層	29.	茶褐色粘質土層	30.	赤褐色粘質土層
31.	暗赤褐色粘質土層	32.	青灰色粘土	33.	黄灰色粘土	34.	暗灰褐色粘土				

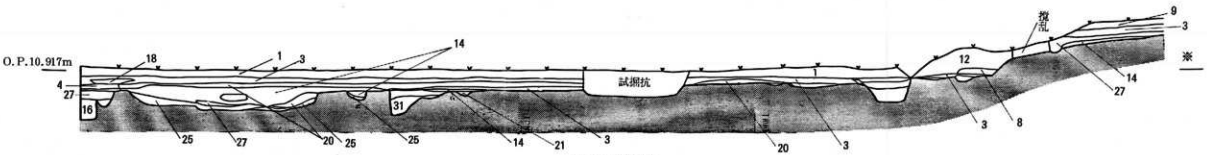
図版4 調査地断面図（丘陵端部）



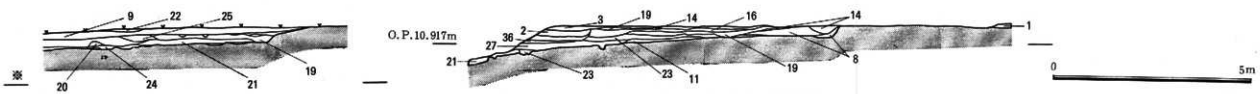
調査地南断面図



調査地南断面図

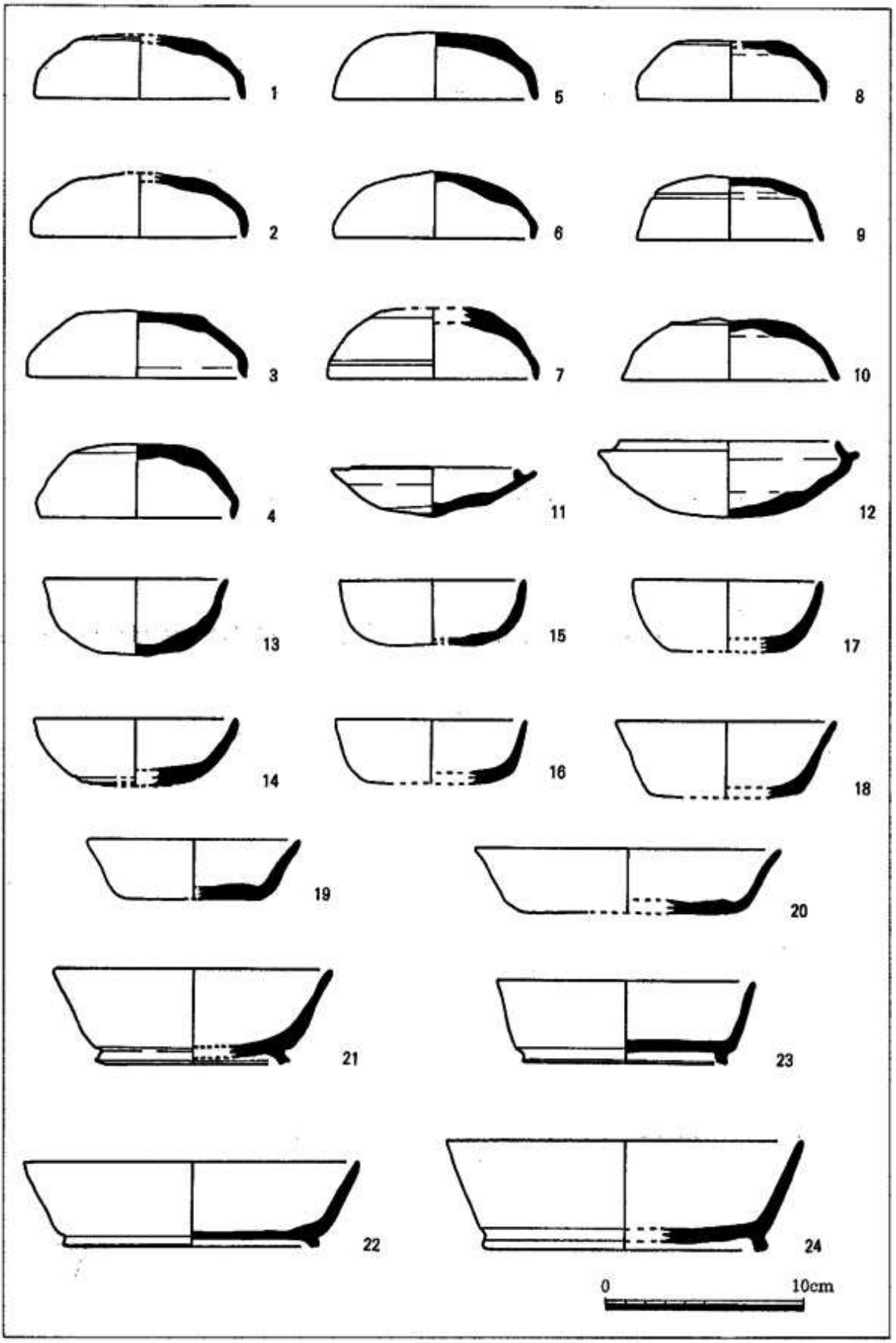


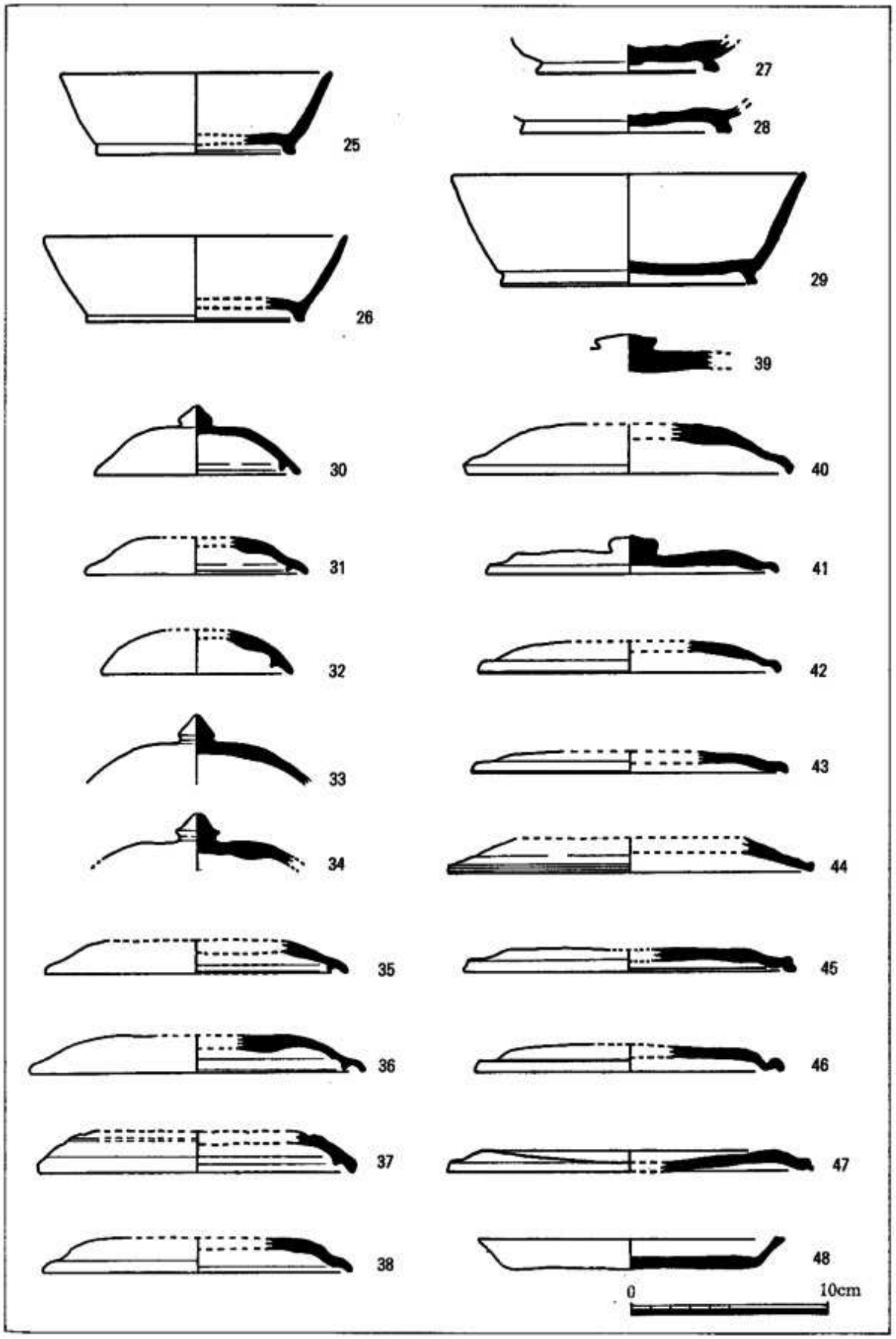
調査地西断面図

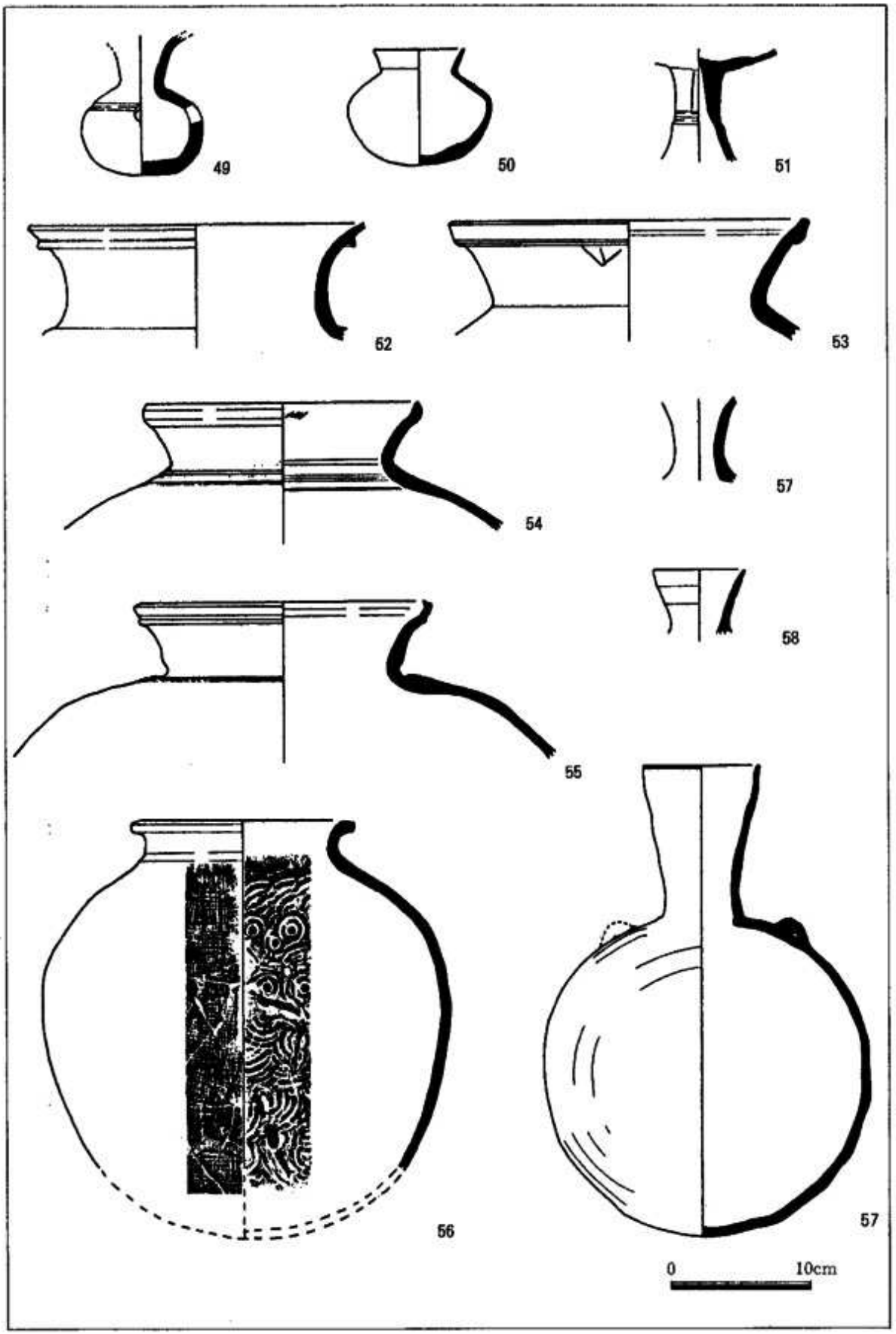


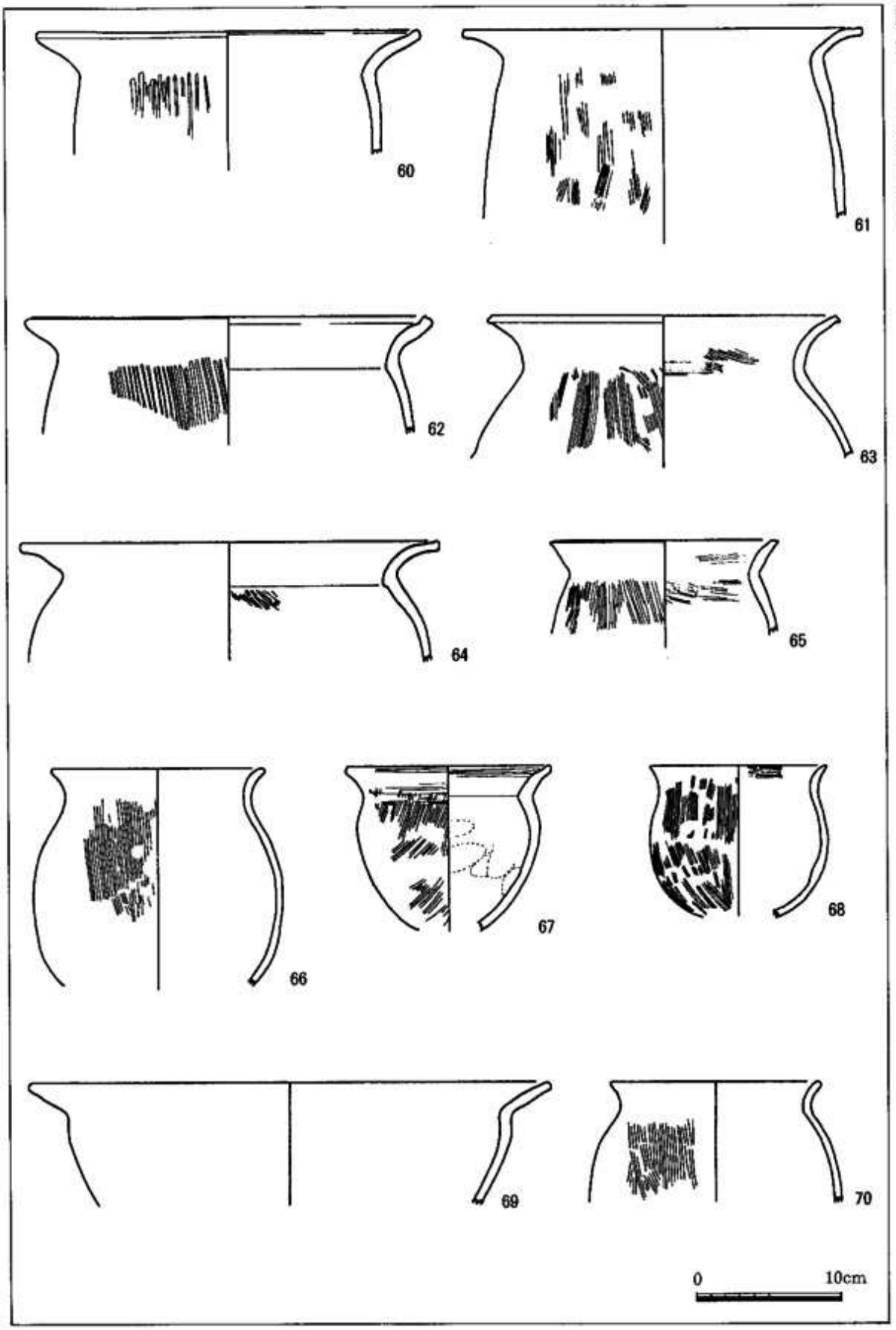
B－8，C－8ブリッジ断面図

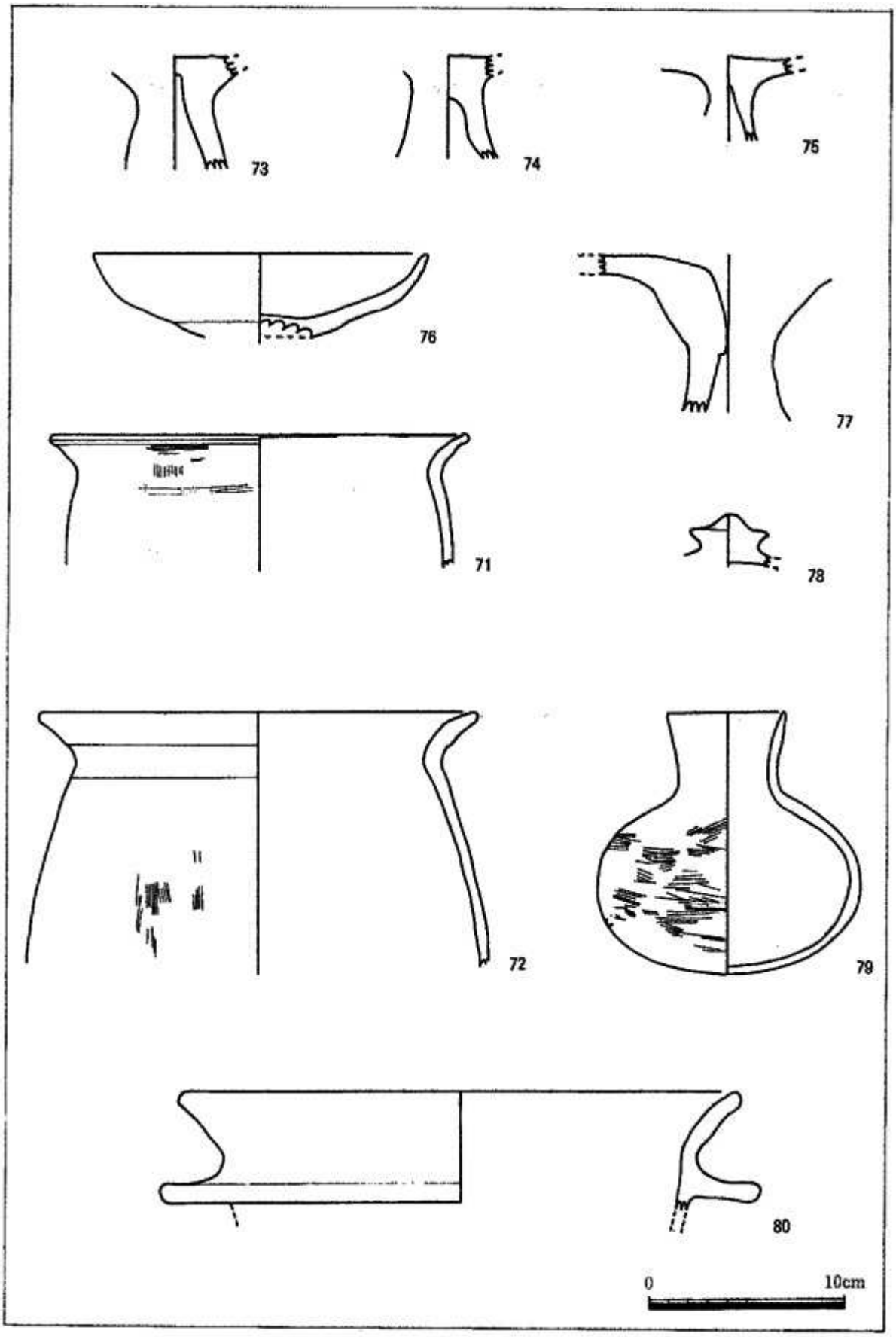
1.	耕土	2.	赤黄褐色砂質土層	3.	赤褐色砂質土層	4.	マンガン層	5.	淡茶褐色砂質土層	6.	淡茶褐色砂質土層 鉄分まじり
7.	淡黄茶褐色砂質土層	8.	灰色砂質土層	9.	灰淡黄褐色砂質土層	10.	灰淡褐色砂質土層	11.	灰褐色砂質土層 鉄分まじり	12.	灰黄褐色砂質土層
13.	灰黄褐色砂質土層 鉄分まじり	14.	灰茶褐色砂質土層	15.	灰黄茶褐色砂質土層 鉄分まじり	16.	灰暗褐色砂質土層	17.	灰暗褐色砂質土層 砂まじり	18.	灰赤褐色砂質土層
19.	黄灰褐色砂質土層	20.	黄茶褐色砂質土層	21.	黄褐色砂質土層	22.	黄褐色砂質土層 鉄分まじり	23.	茶褐色砂質土層	24.	茶褐色砂質土層 鉄分まじり
25.	暗灰褐色砂質土層	26.	暗褐色砂質土層	27.	暗褐色砂質土層 鉄分まじり	28.	暗褐色砂質土層 灰色粘土まじり	29.	黒灰色砂質土層	30.	黒黄褐色砂質土層
31.	黒色砂質土層	32.	淡灰色粘質土層	33.	淡灰黄褐色粘質土層	34.	淡灰茶褐色粘質土層	35.	灰色粘質土層	36.	灰色粘質土層
37.	灰暗褐色粘質土層	38.	灰黒色粘質土層	39.	黒灰色粘質土層	40.	黒黄褐色粘質土層	41.	黒色粘質土層		

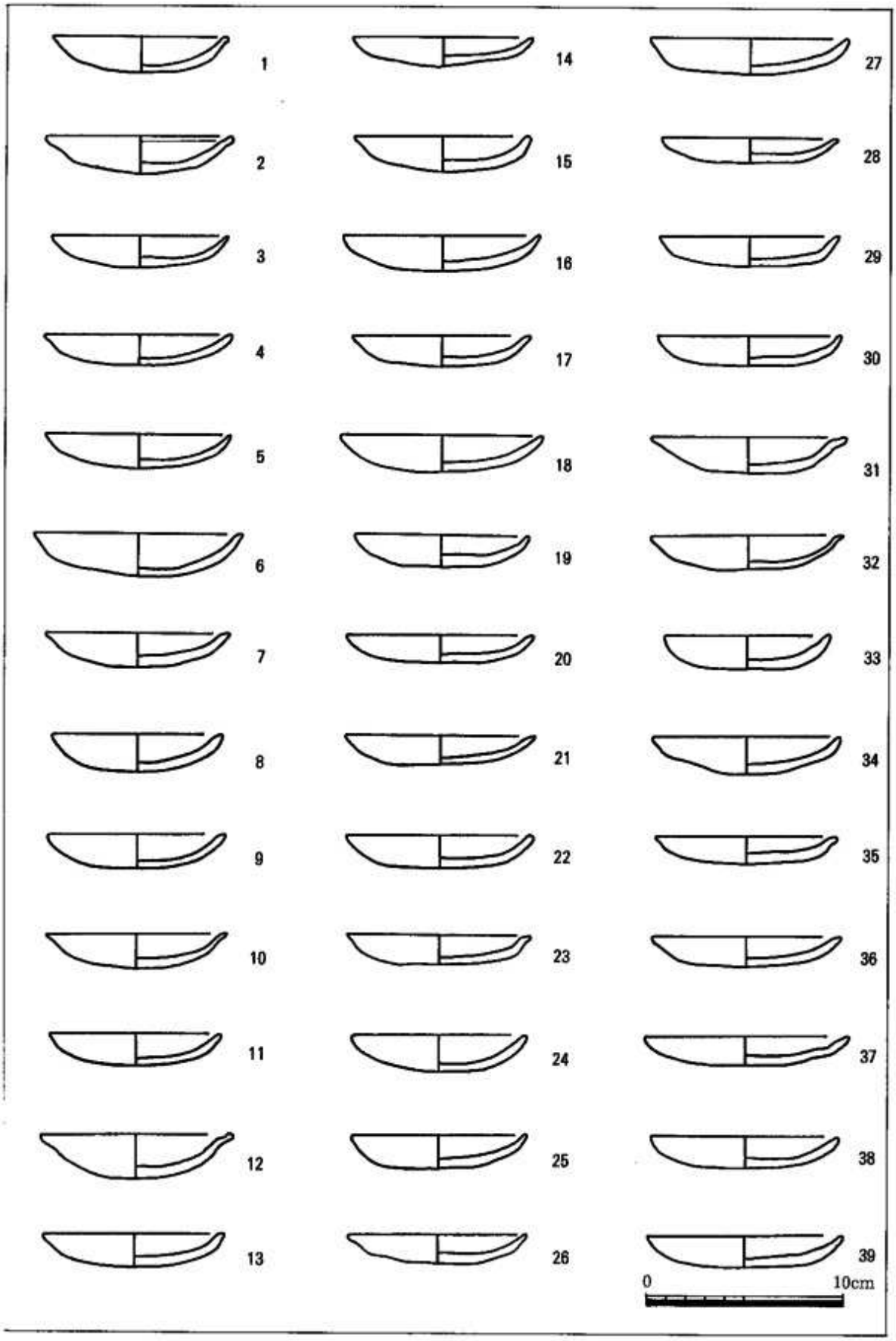

1
5
8
2
6
9
3
7
10
4
11
12
13
15
17
14
16
18
19
20
21
23
22
24
0
10cm

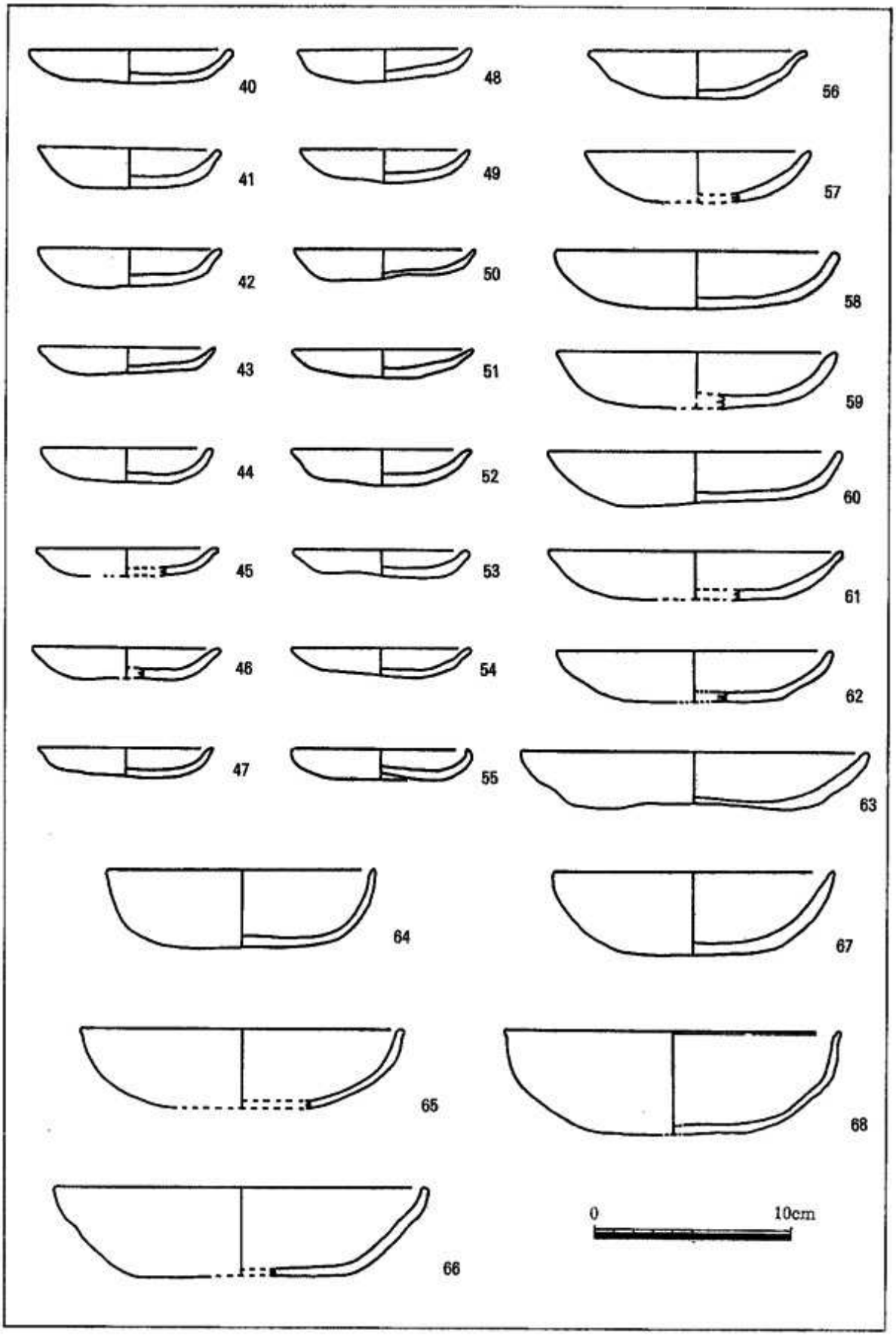

25
26
27
28
29
39
30
40
31
41
32
42
33
43
34
44
35
45
36
46
37
47
38
48
0
10cm

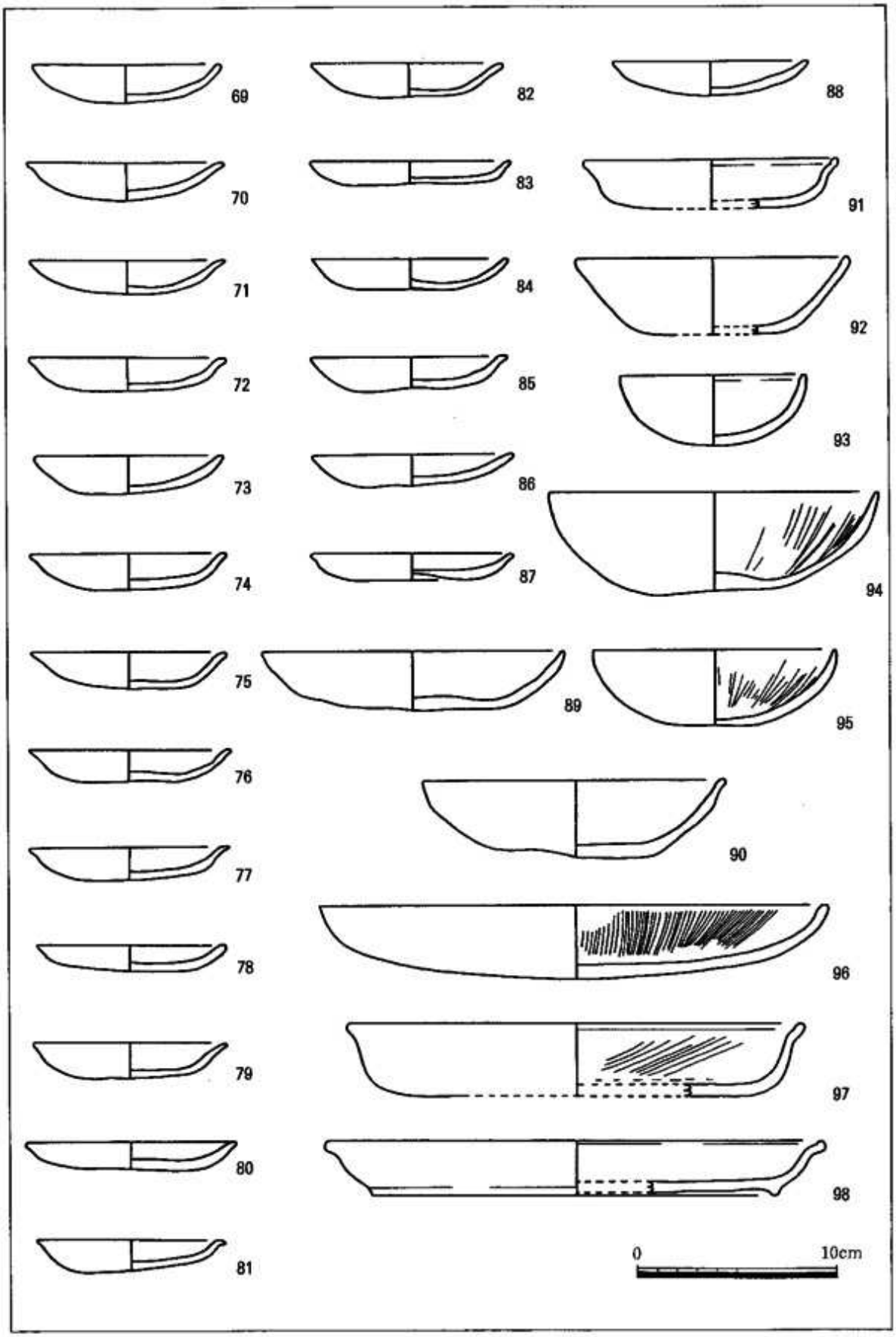

49
50
51
52
53
54
57
58
55
56
57
0
10cm

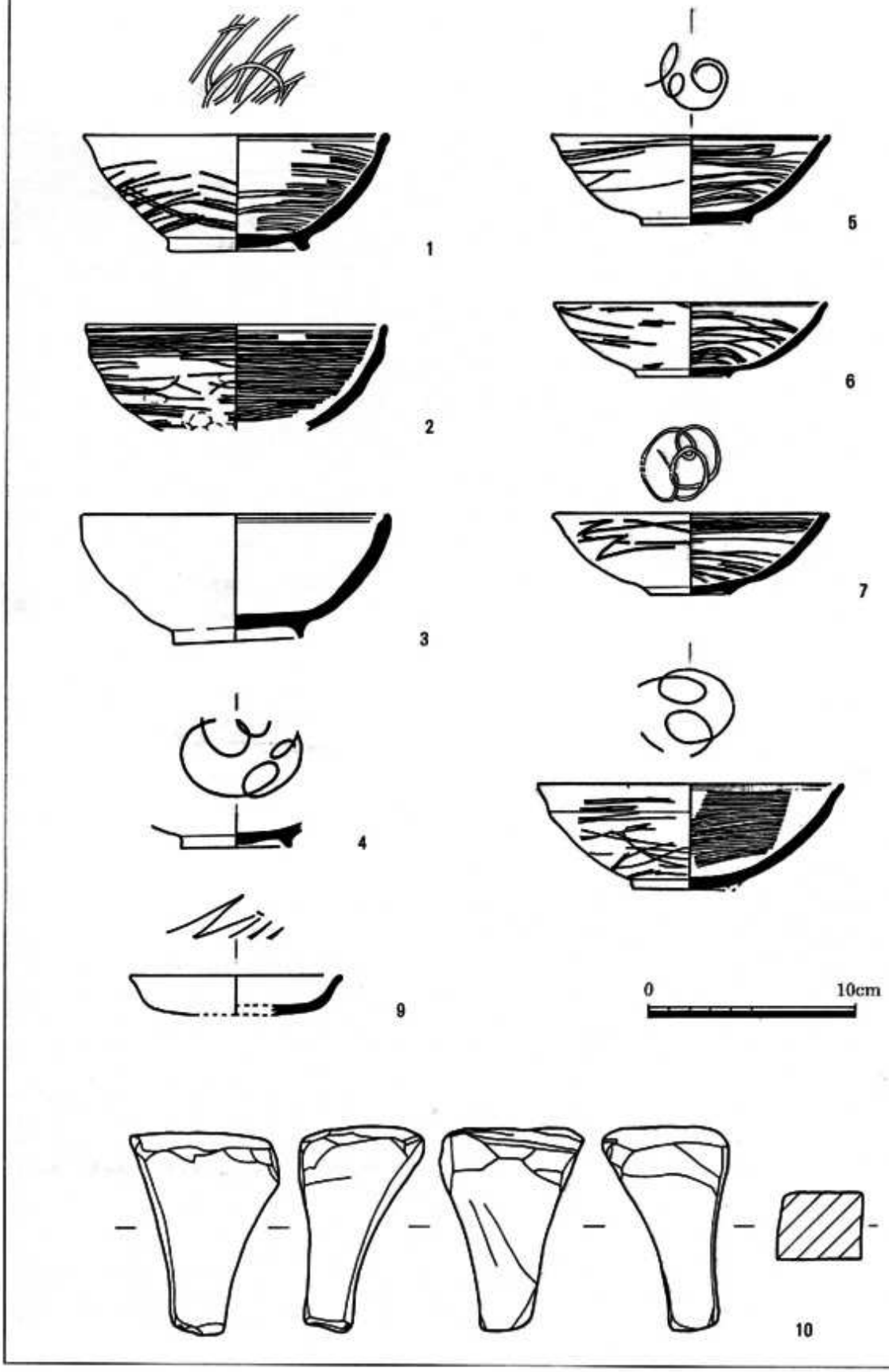

60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
0
10cm


73
74
75
76
77
71
78
72
79
80
0
10cm


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
0
10cm


40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
0
10cm


69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
0
10cm

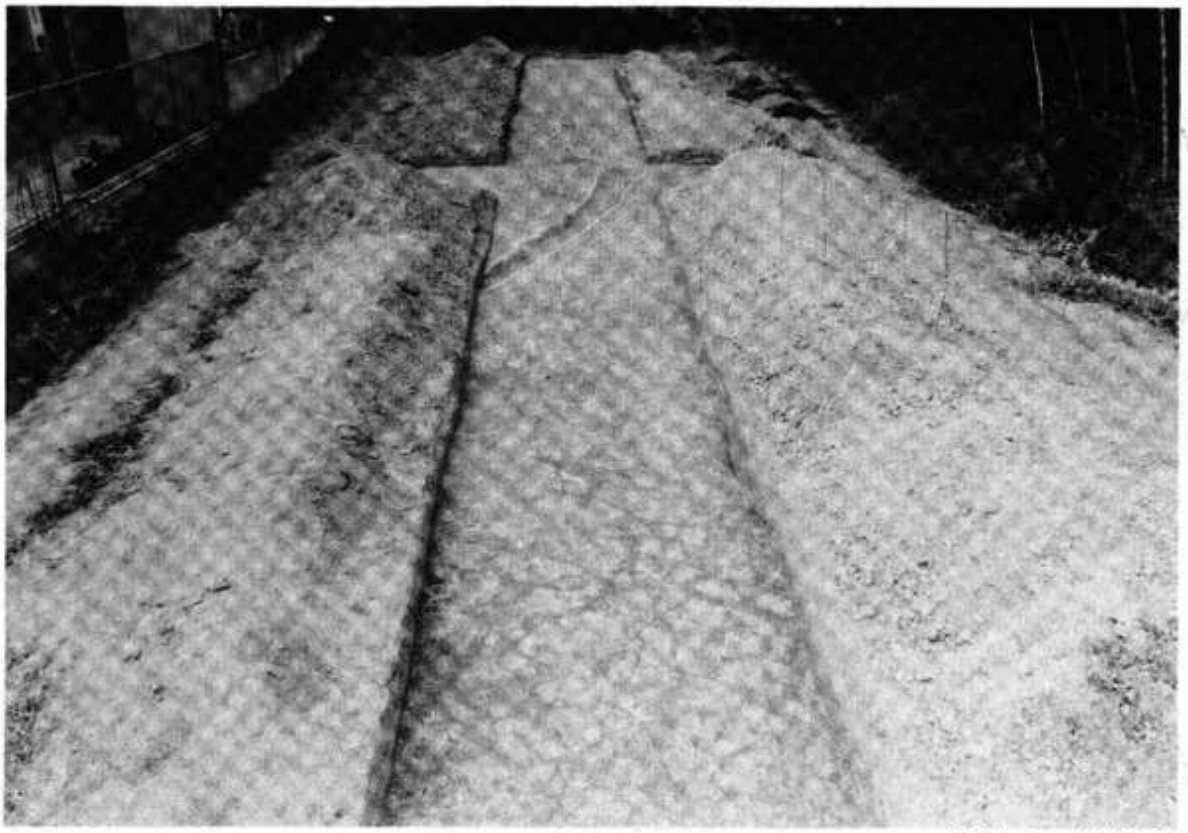

1
2
3
4
5
6
7
9
0
10cm
10

図版14　調査地遠景

丘陵頂上地区（後ろの森は高宮廃寺跡）

丘陵端部地区

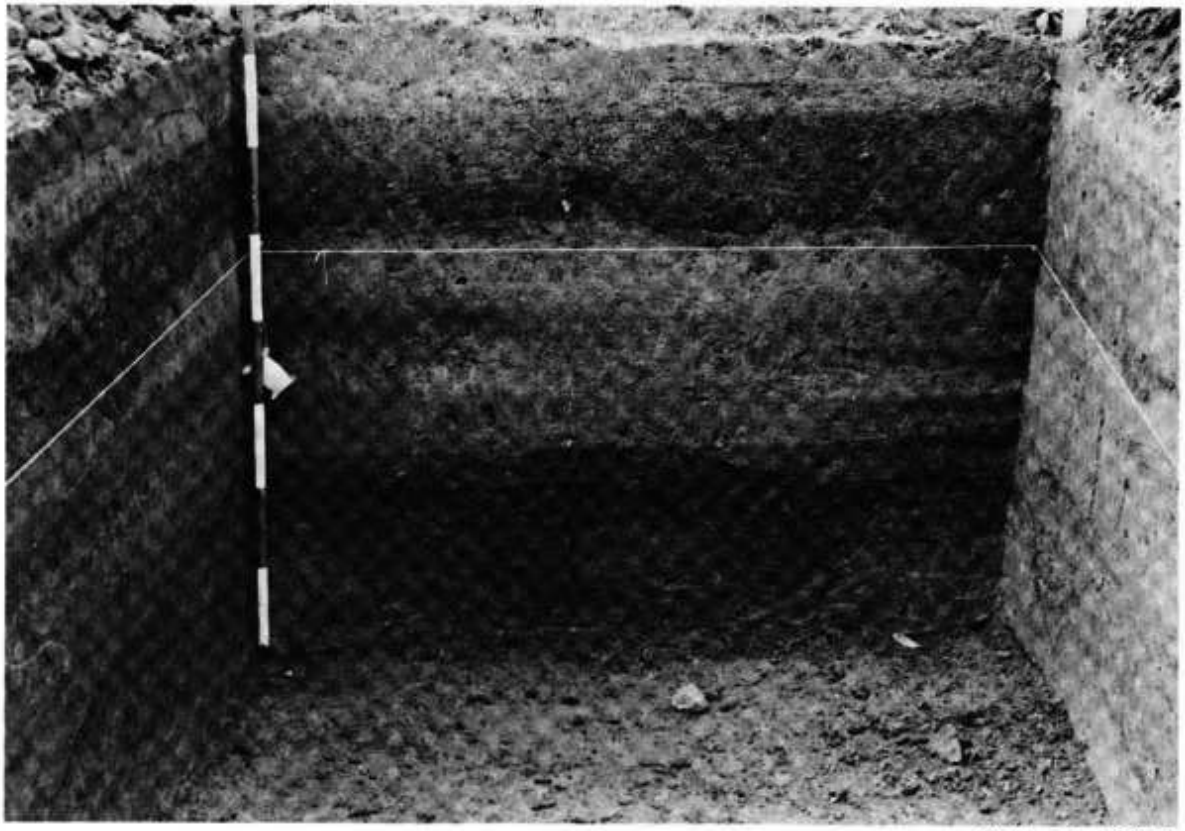
図版15　第1トレンチ・第2トレンチ



第1トレンチ(南より)

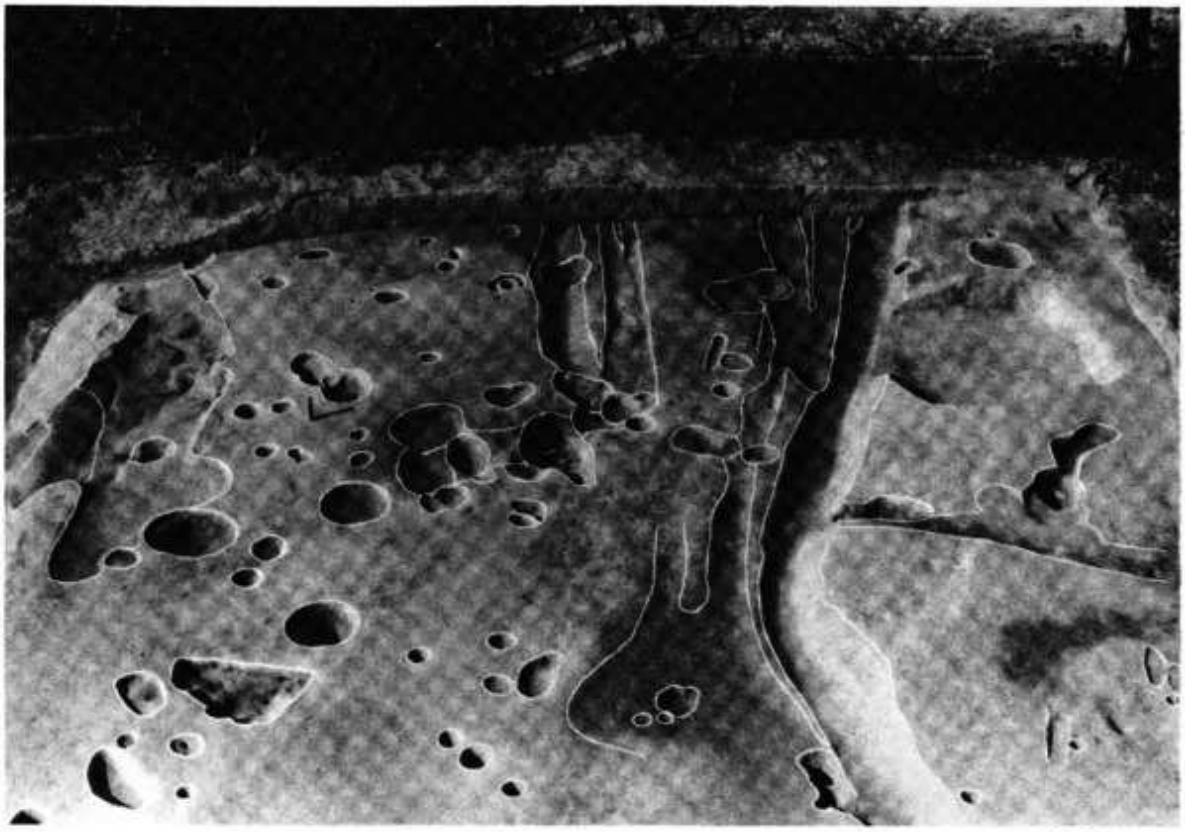
第2トレンチ(東より)

図版16　第3トレンチ・第4トレンチ

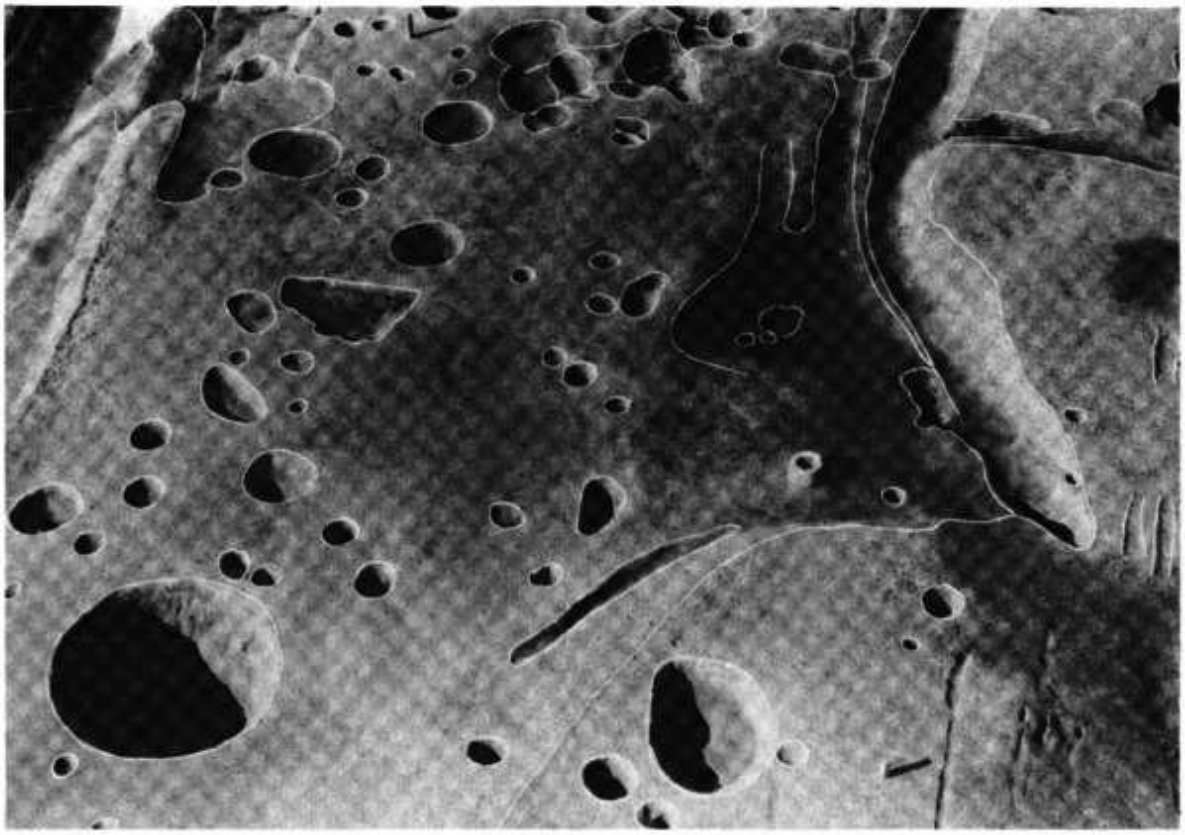


第3トレンチ南断面

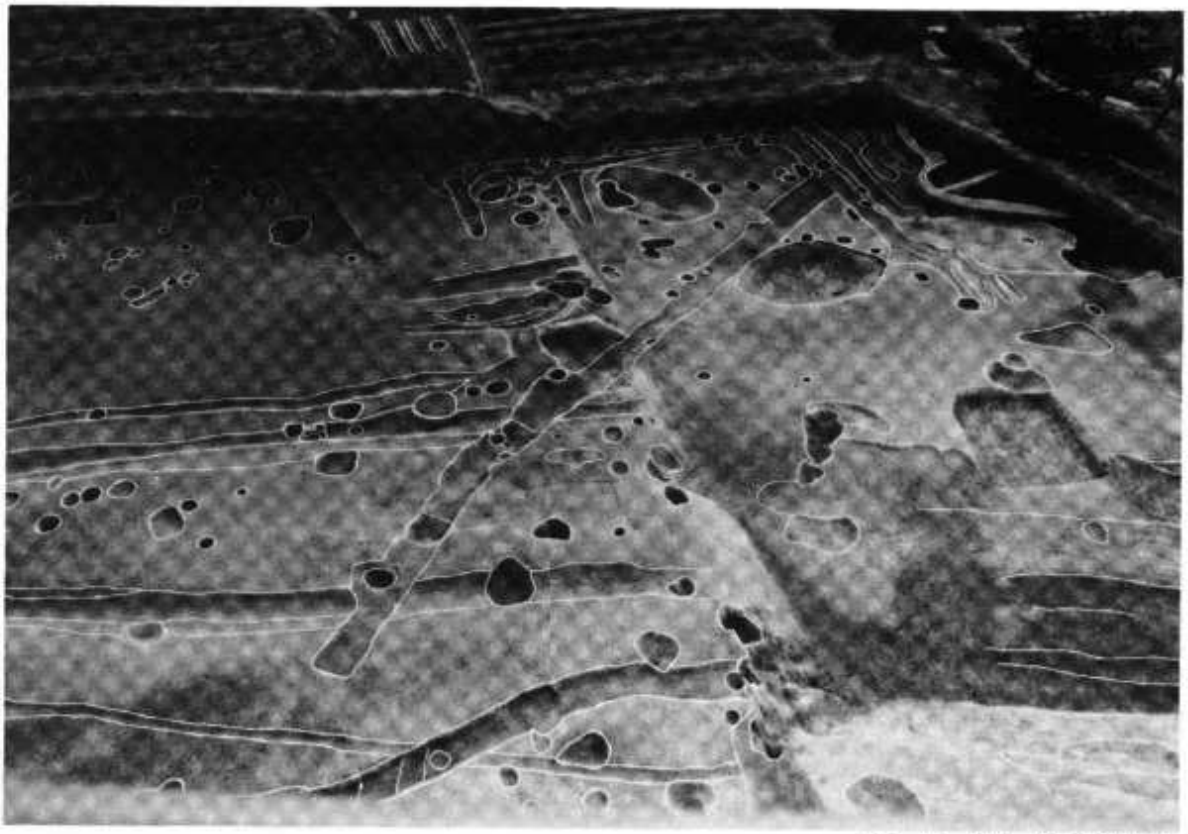
第4トレンチ東断面



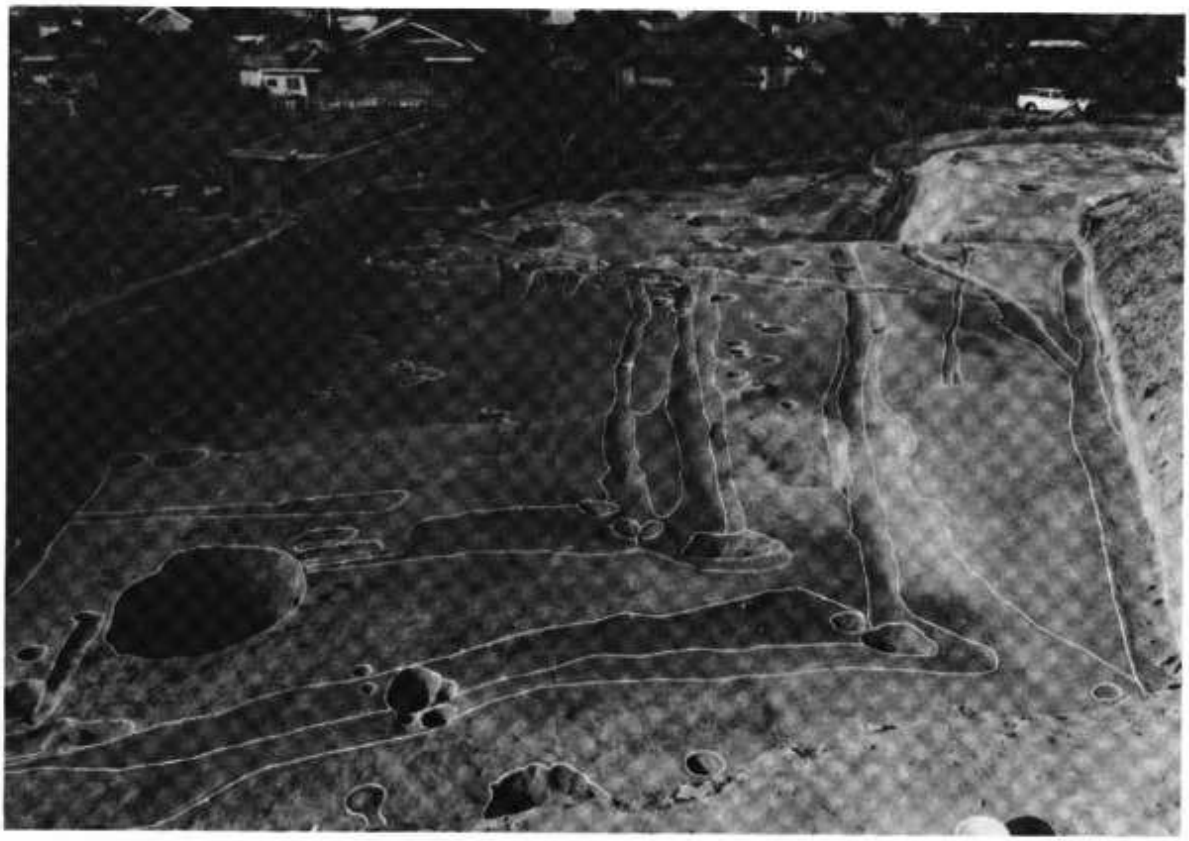
B-8，B-9，C-8，C-9地区（東より）



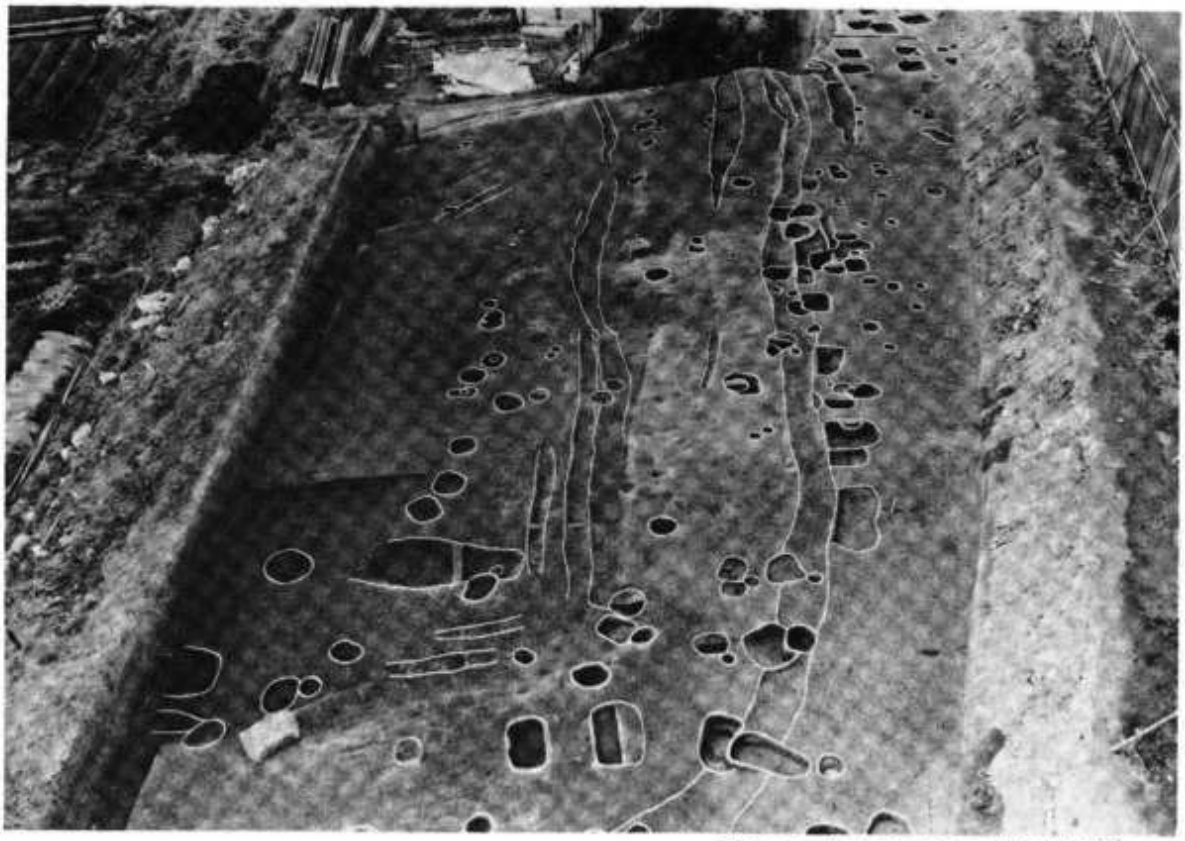
B-8，C-8地区（東より）



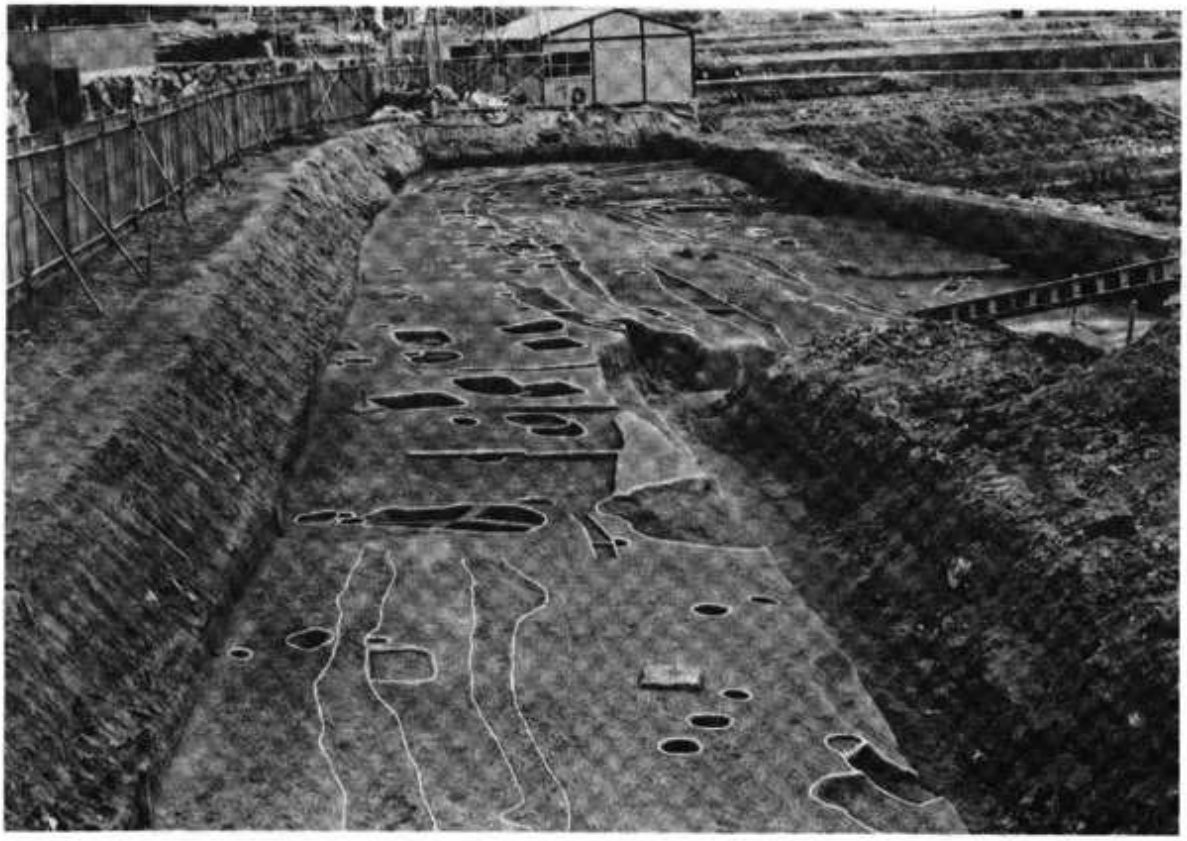
D-7~9，E-7~9地区（北より）



D-6~9，E-6~9，F-7地区（東より）



E-4~6, F-3~6, G-3~4地区上層(東より)

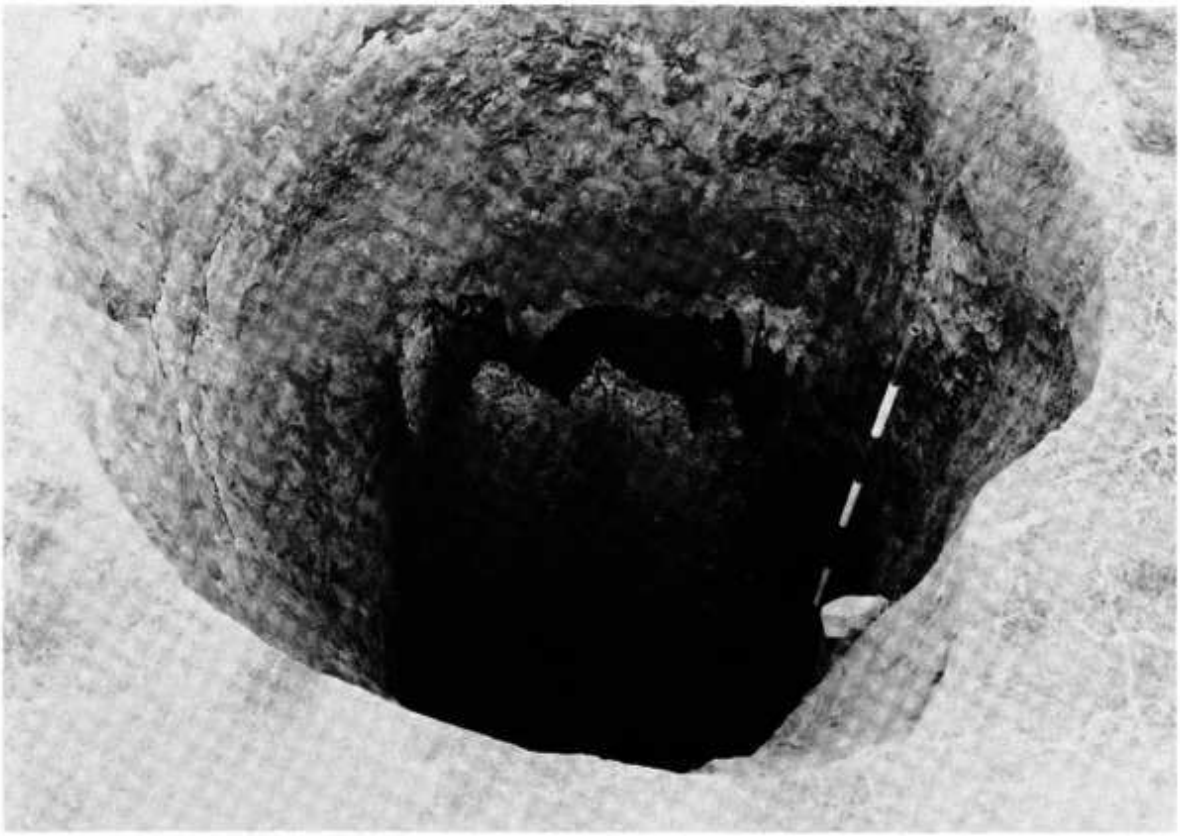


C-7, D-5~7, E-4~6, F-3~6, G-3, 4地区上層(西より)

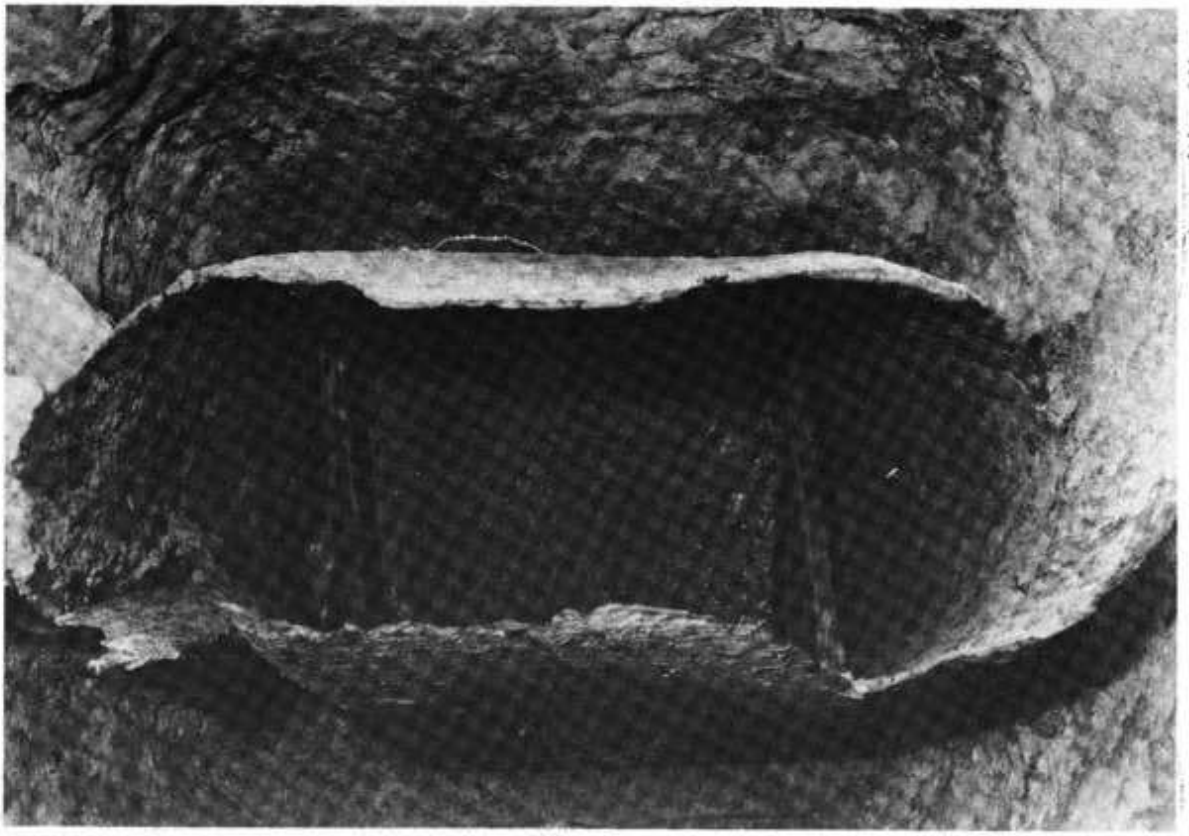
D-5, E-4~6, F-4~6下層(東より)

D-5, E-4, 5, F-3~6, G-3, 4地区下層(西より)

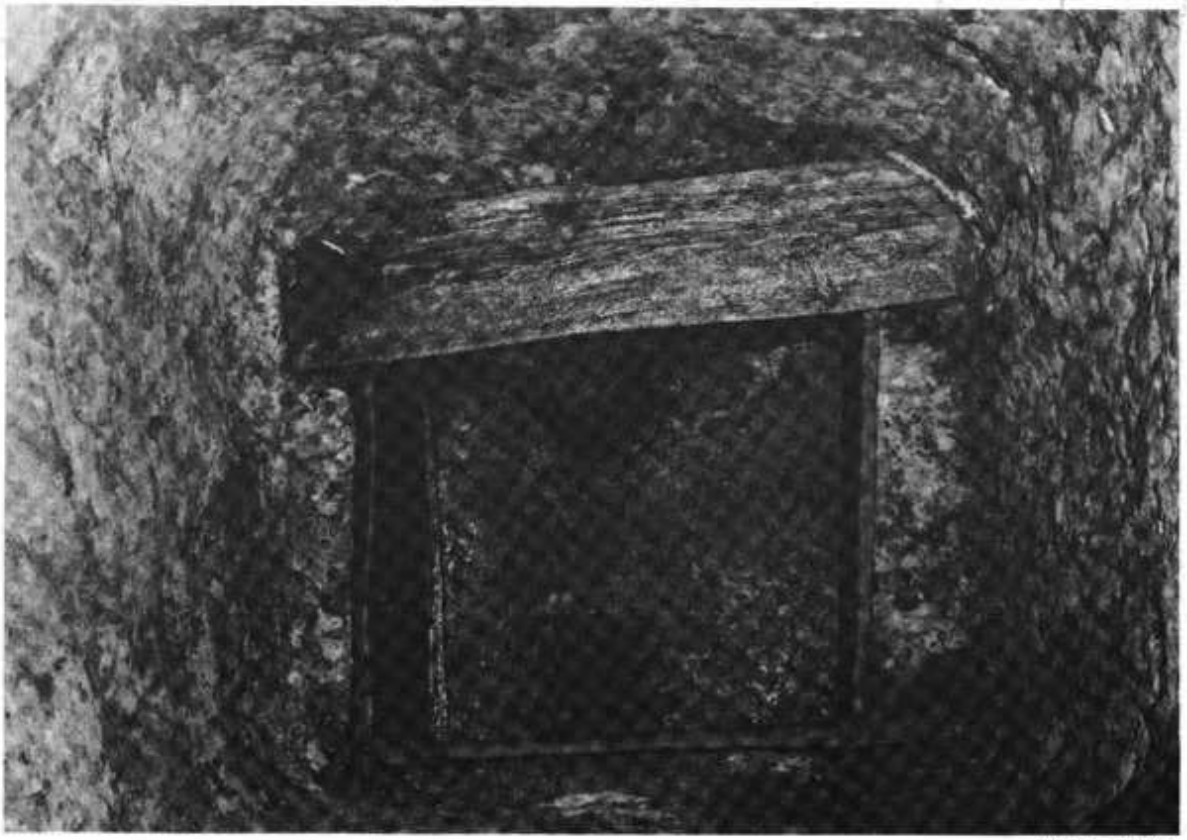
井戸1　断　面



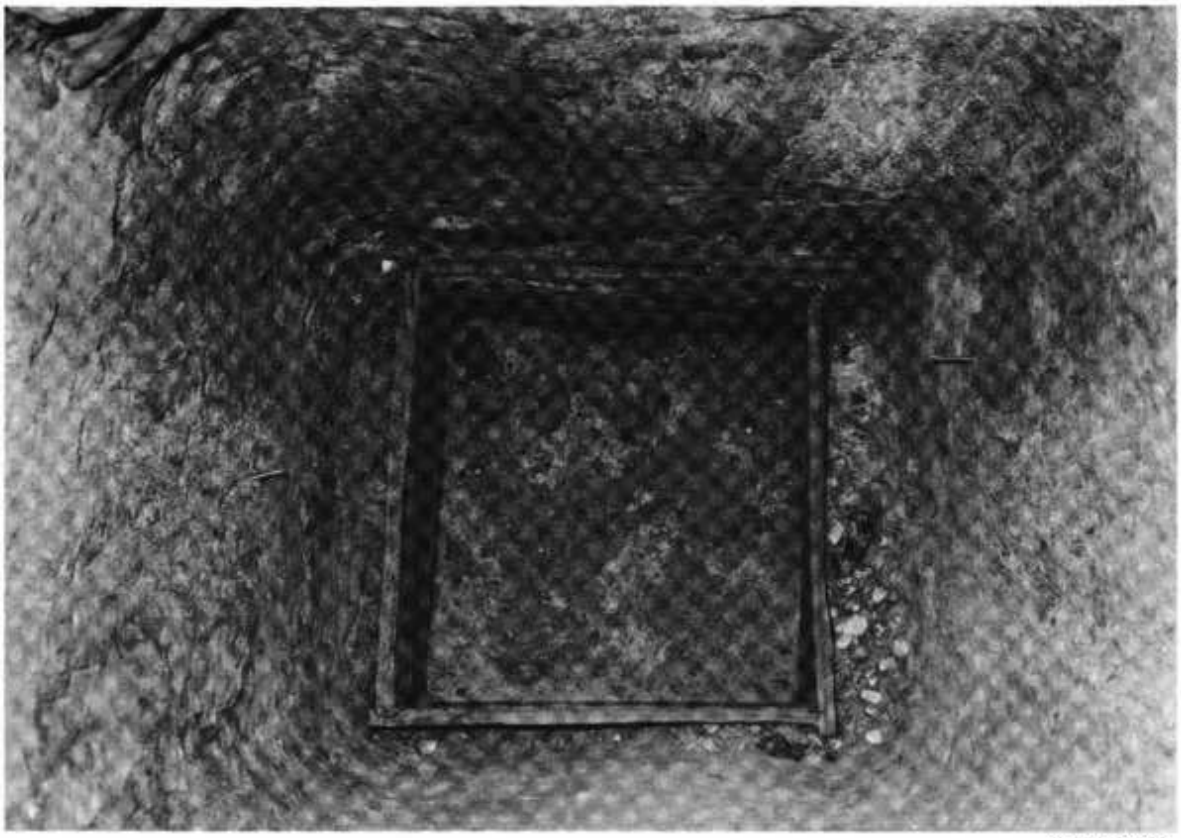
井戸2　検出状況



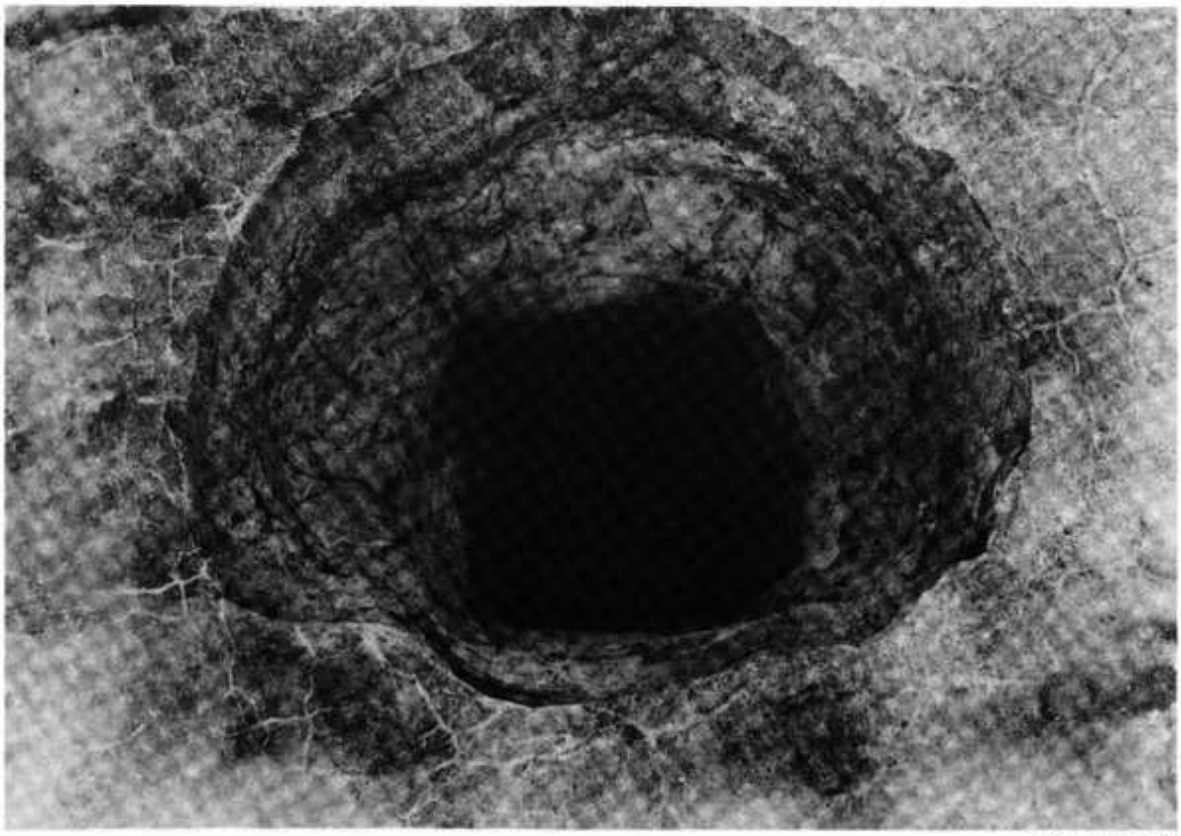
刳り抜き井筒内部



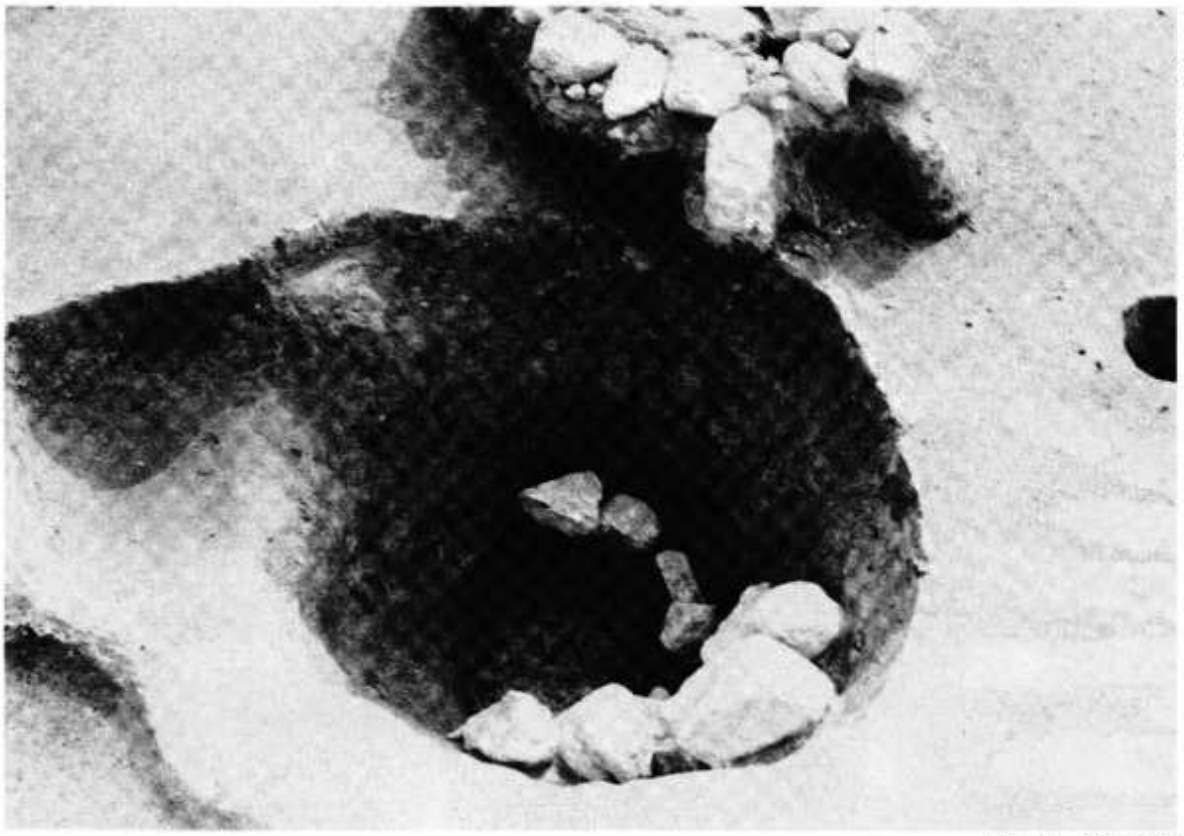
曲物出土状況



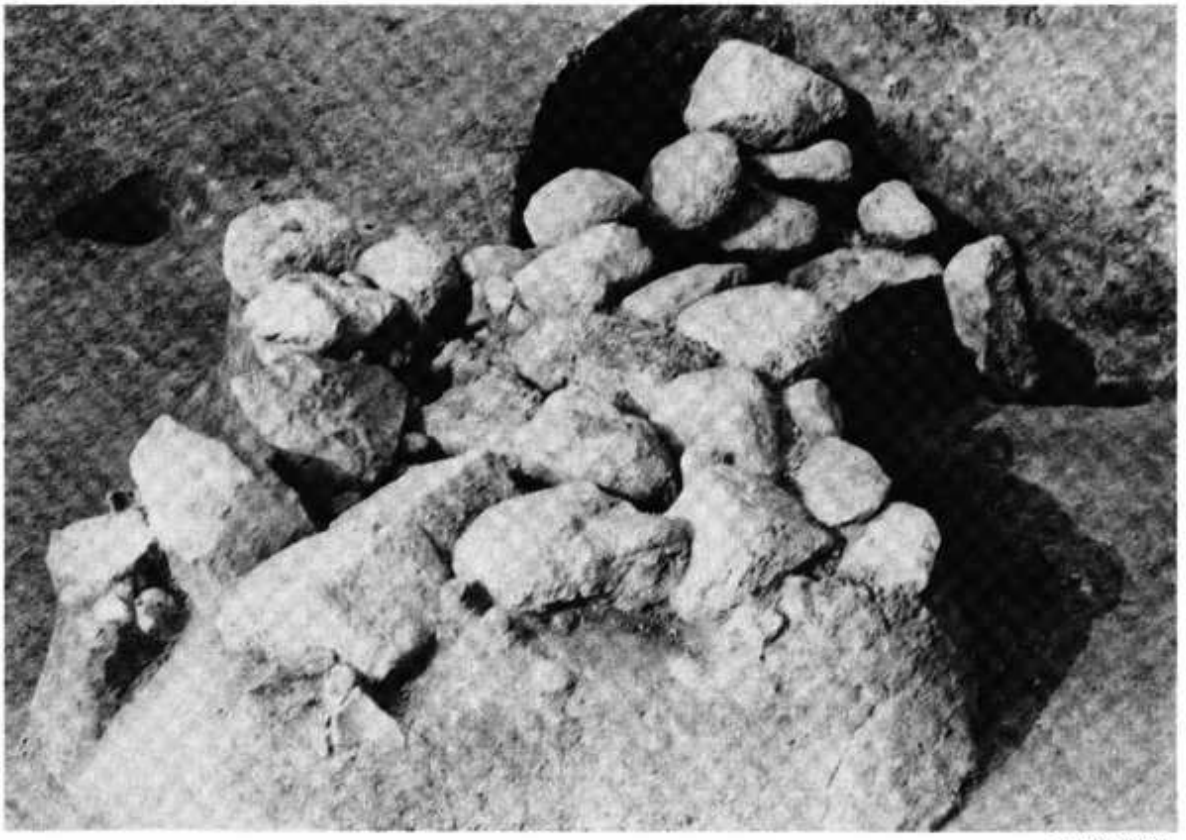
横板井筒



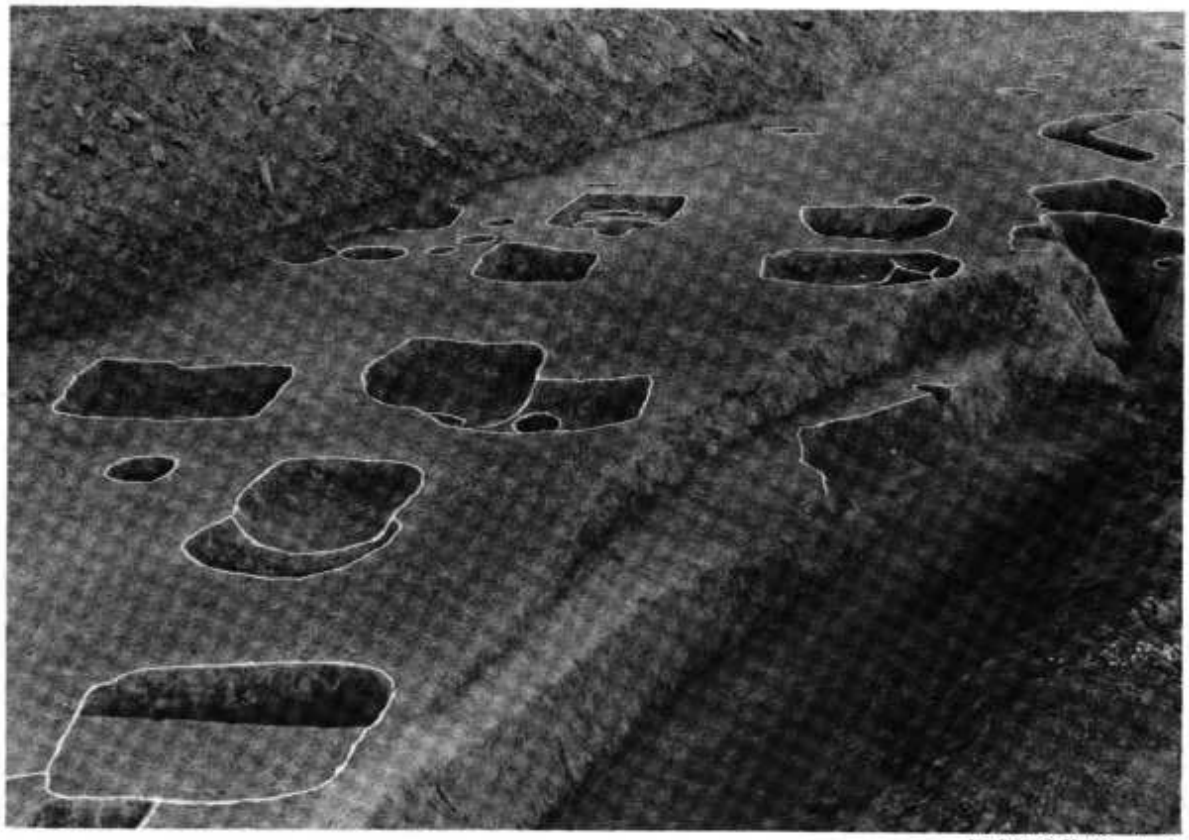
掘り上り状況



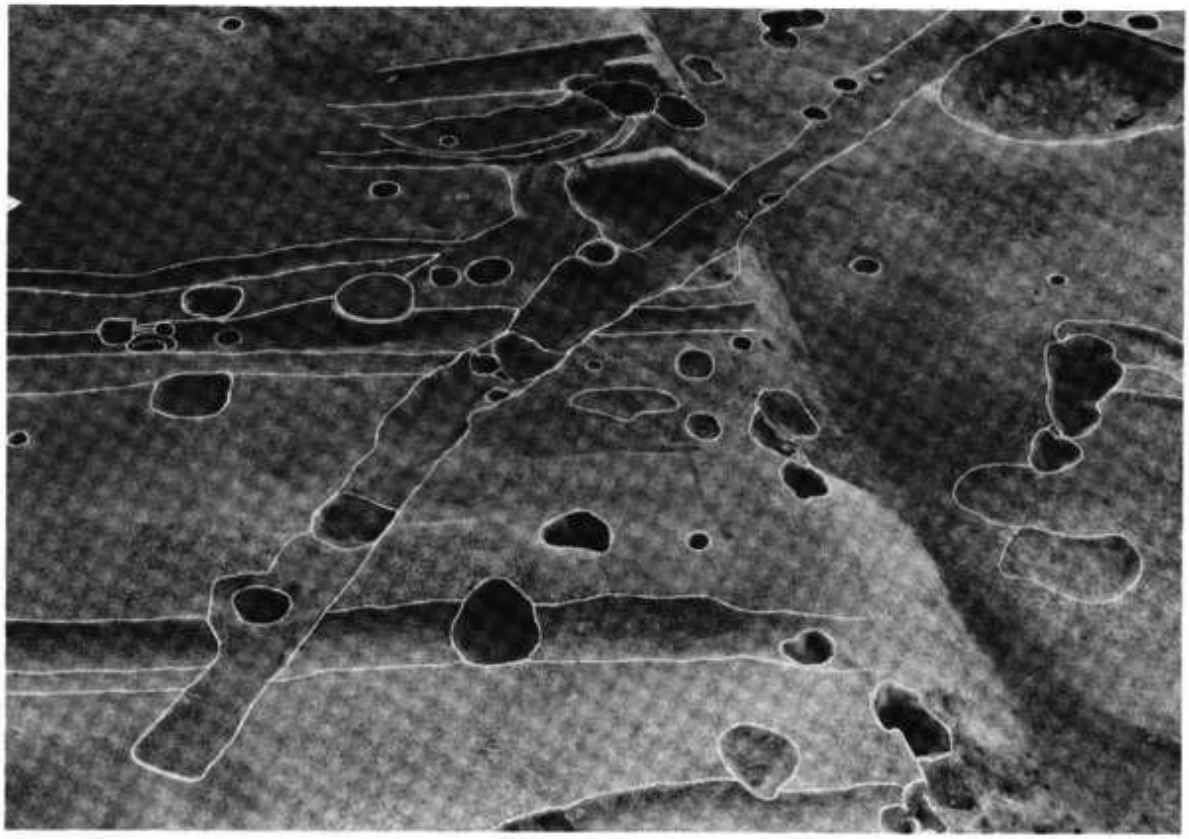
井戸3　検出状況



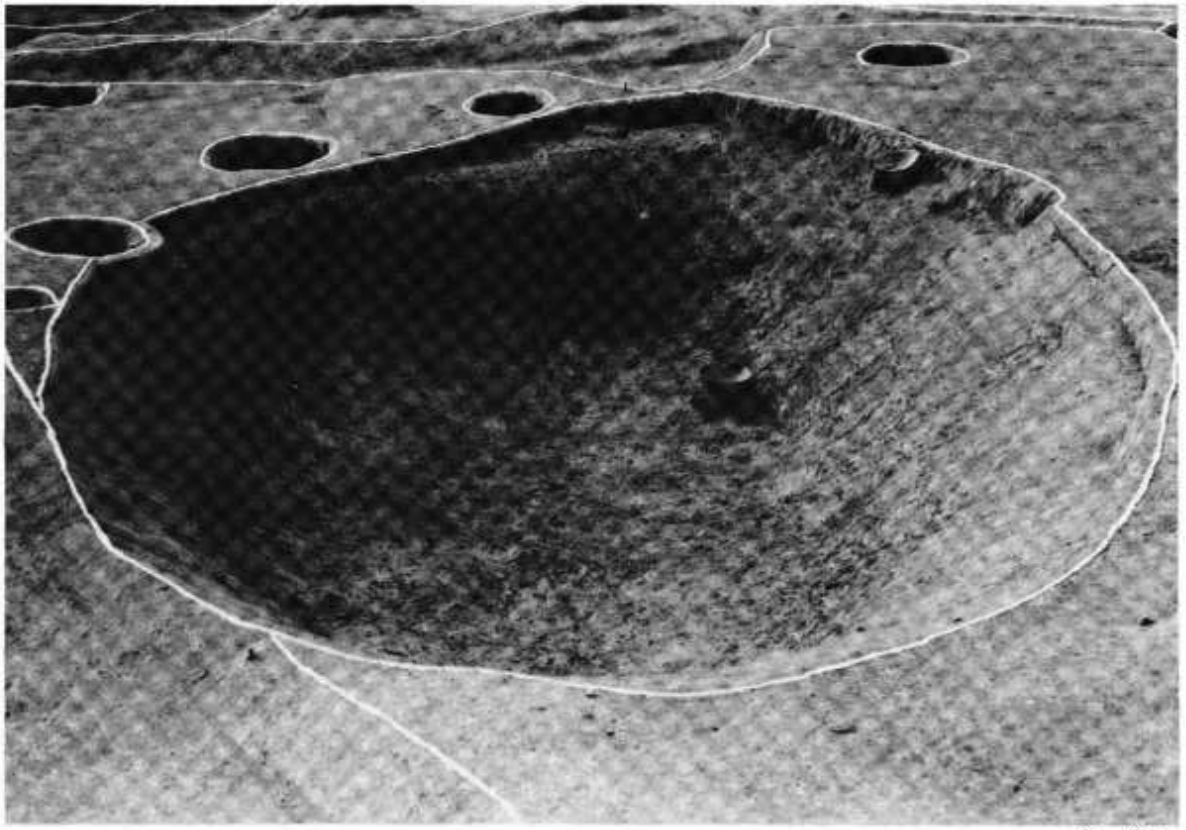
石組遺構



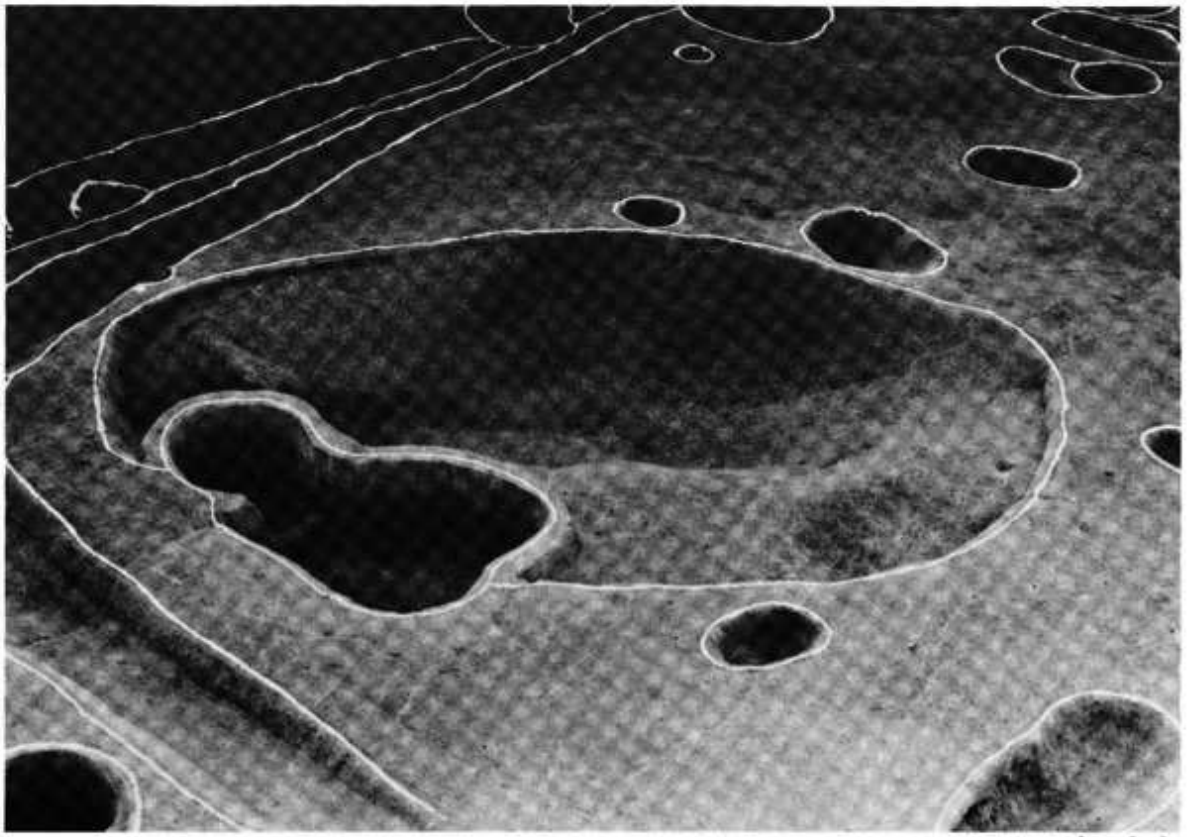
掘立柱建物跡 2・3



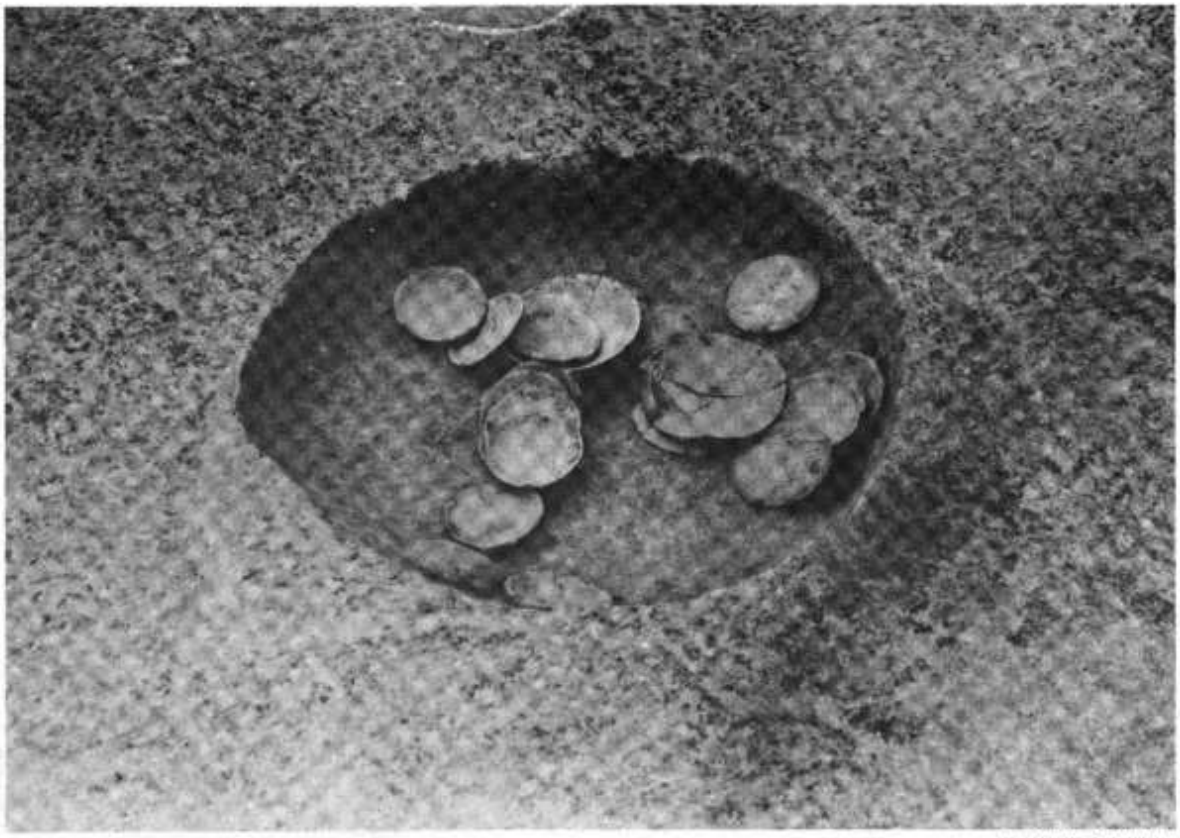
溝 55



土 壙 1



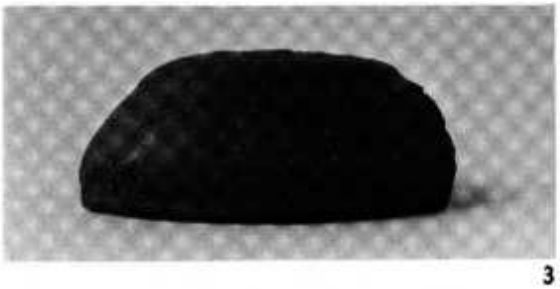
土 壙 2

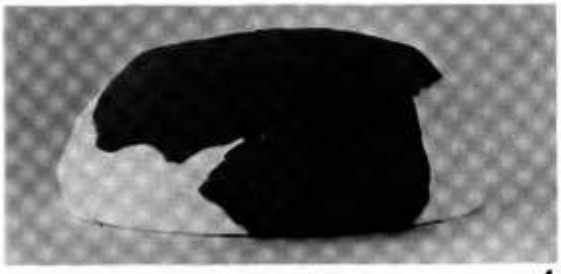


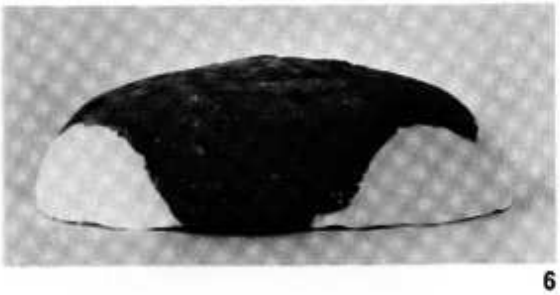
ピット62遺物出土状況

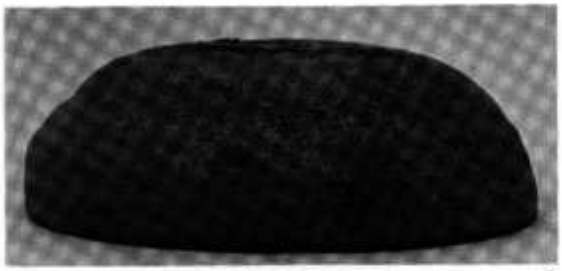
土師皿出土状況

1


3

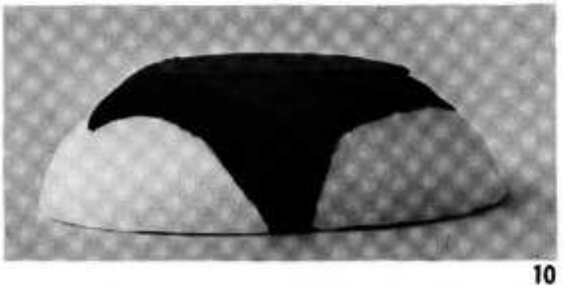

4


6

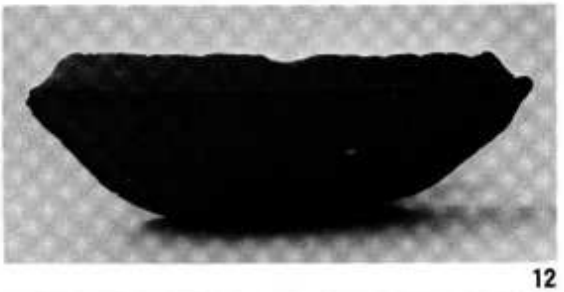

5

8

9


10

11


12

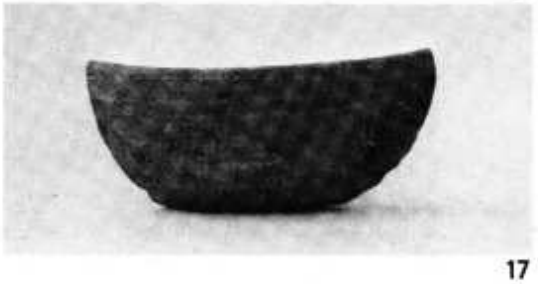
13

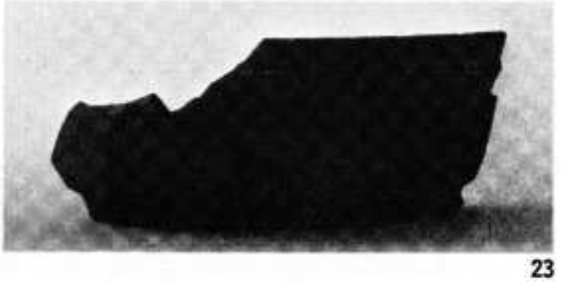
15

21

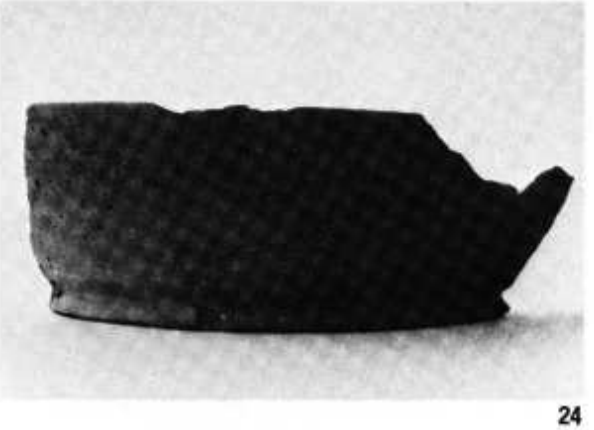
16

22


17


23

18


24

19

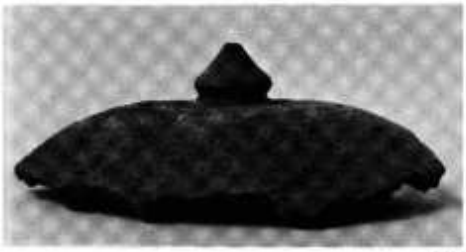
20

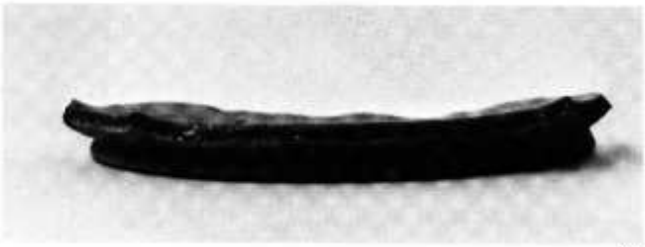
25

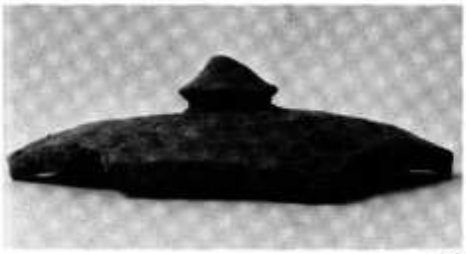
30

26

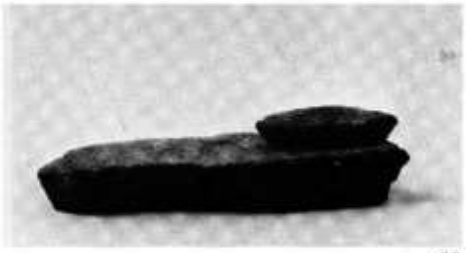
27


33

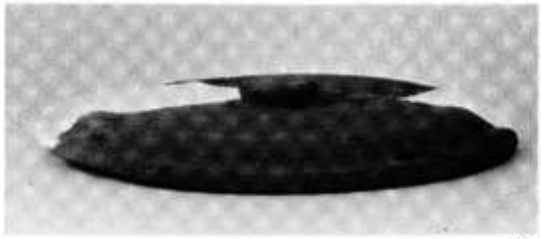

28


34

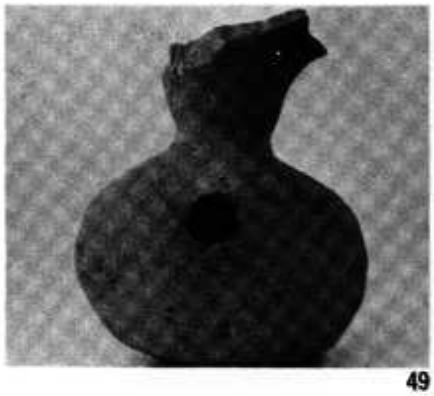
29


39

36

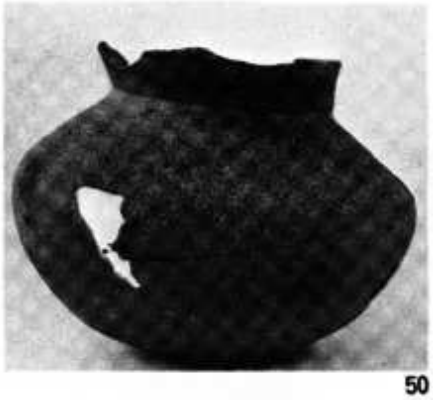

41

45

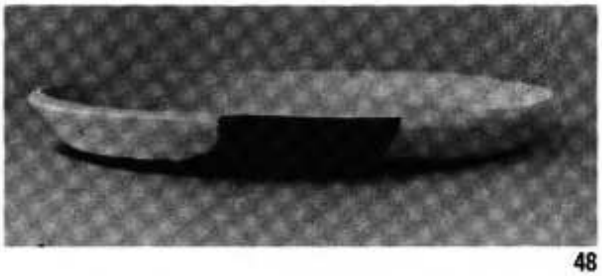


49

47



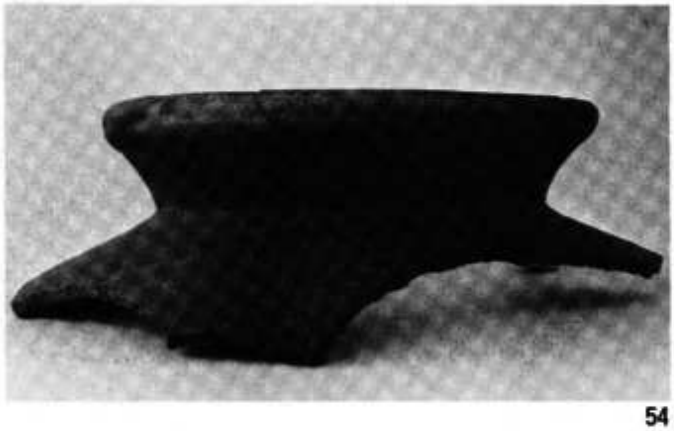
50



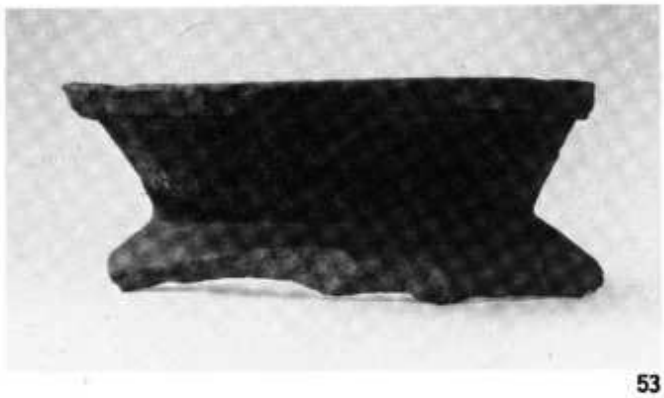
48

51

52



54

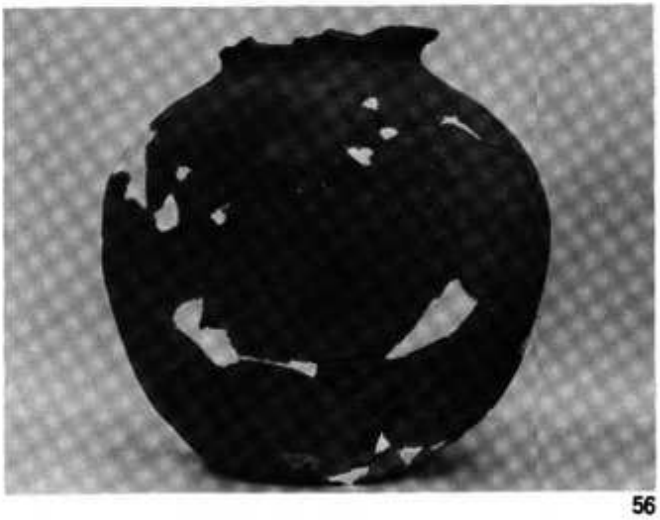


53

58

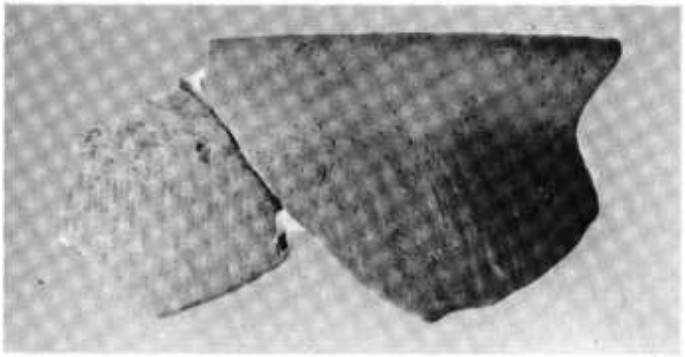
55

57

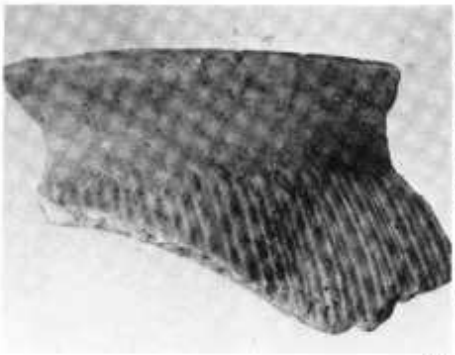


56

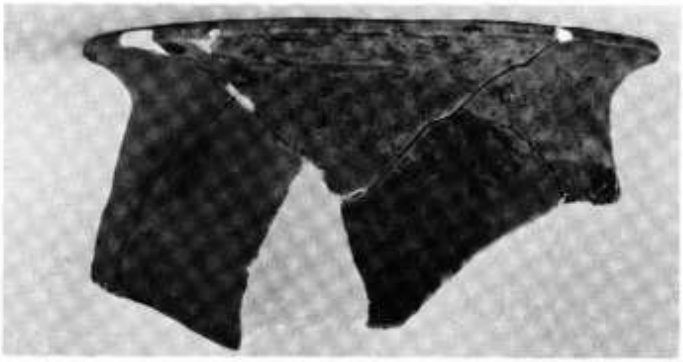
59



60



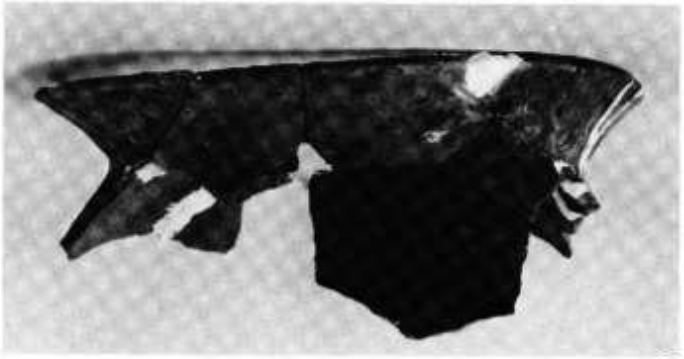
62



61

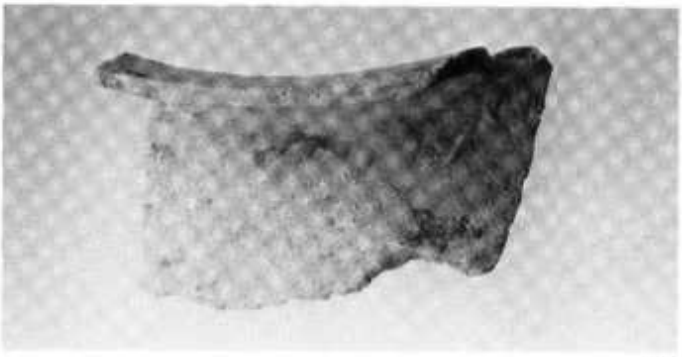
65

66



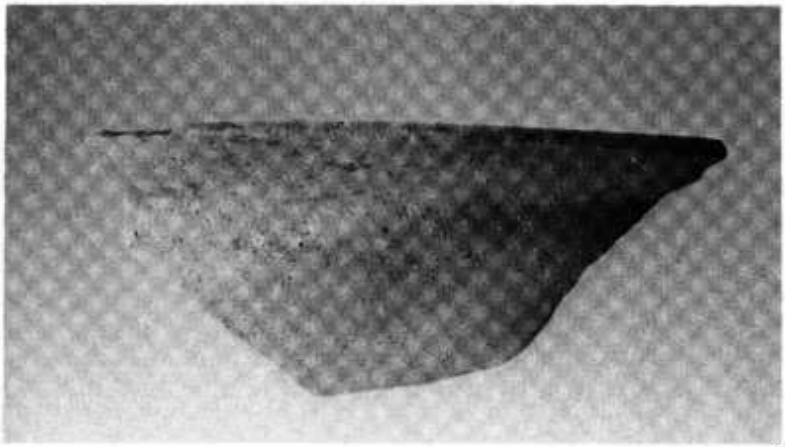
63

67



64

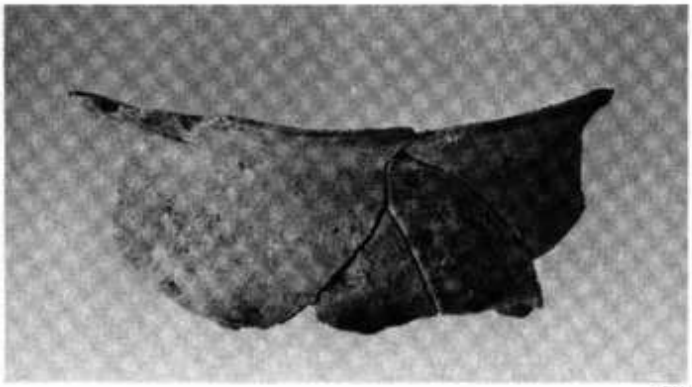
68



69

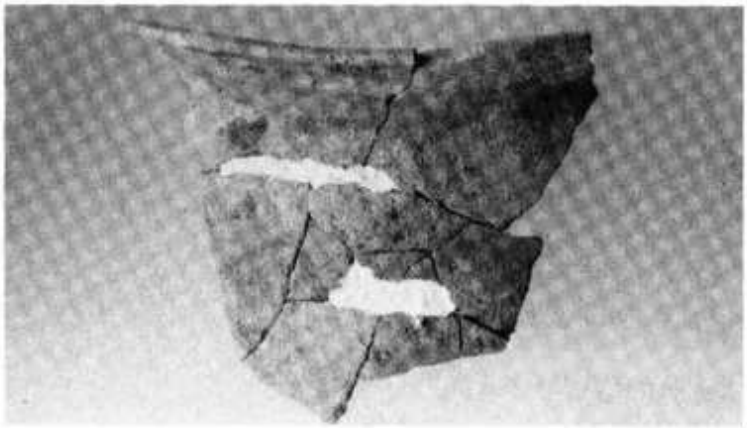
70

73



71

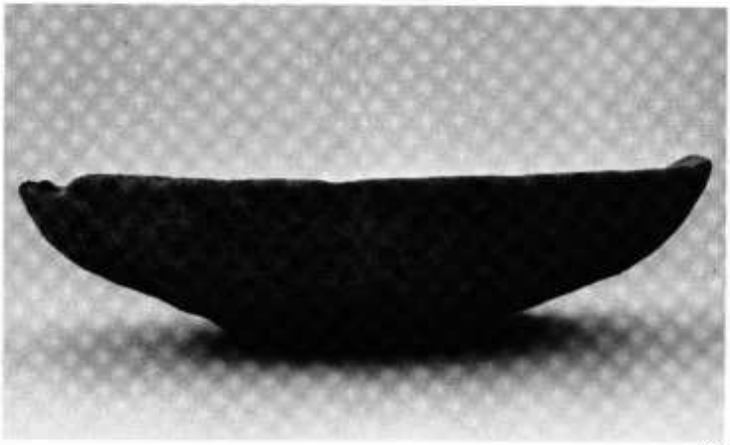
74



72

75

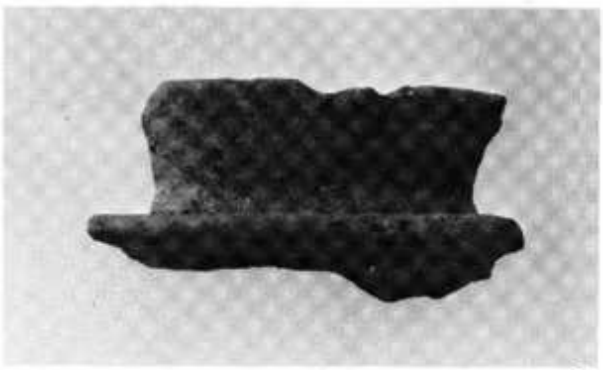
77



76

78

79



80

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

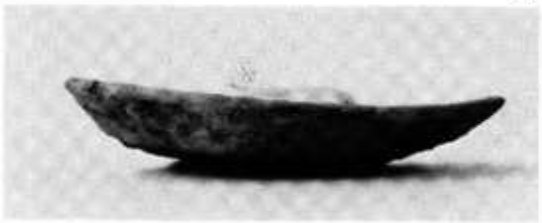
13

14

15

16

17


18

19

20

21

22

23

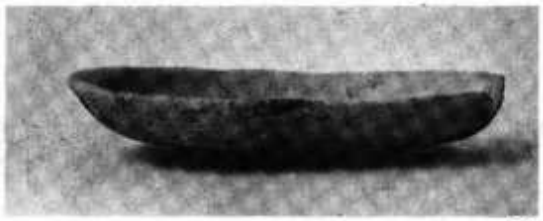
24

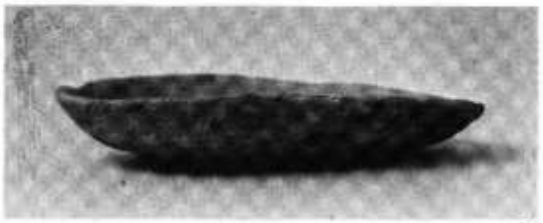
25

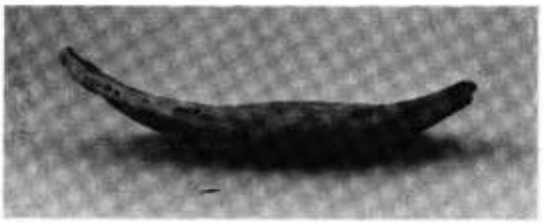
26

27

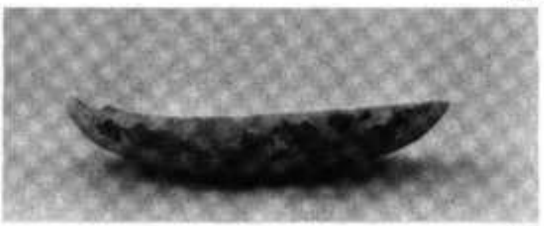
28


29


30


31

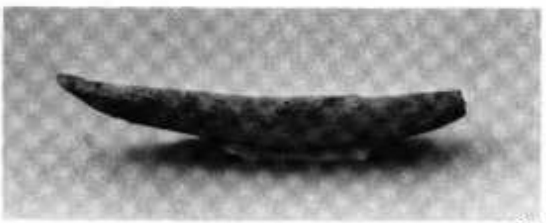
32


33

34

35

36


37

38

39

40

41

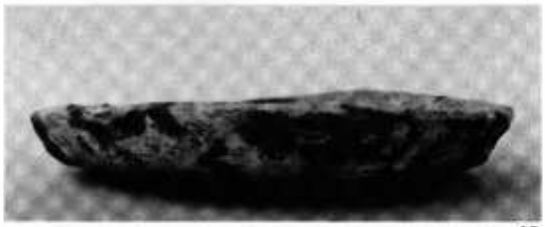
43

44

45

46

47


48

49

50

51

52

53

54

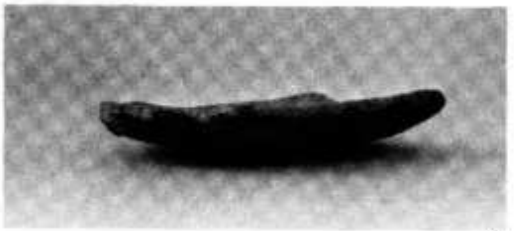
55

56

59

63

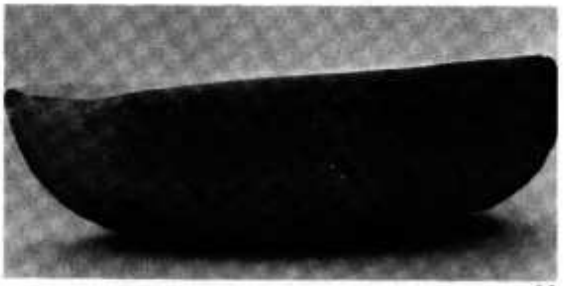
58


61

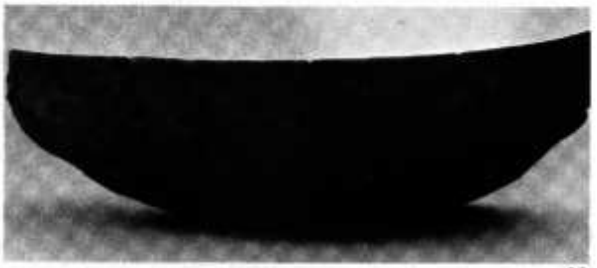
60

62

67


64

65


68

66

69

70

71

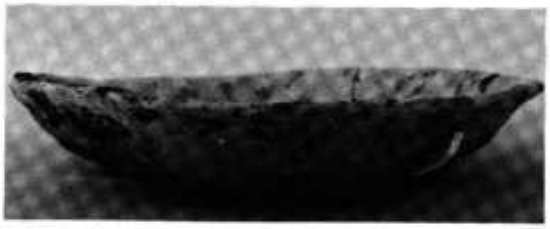
72

73

74

75

76


77

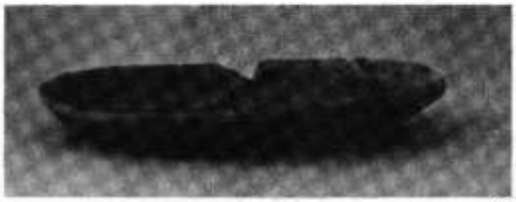
78

79

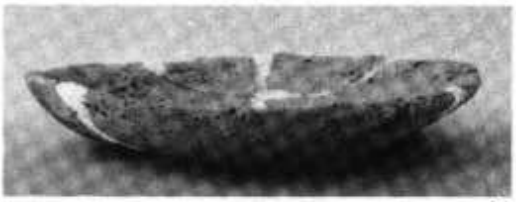
80

81

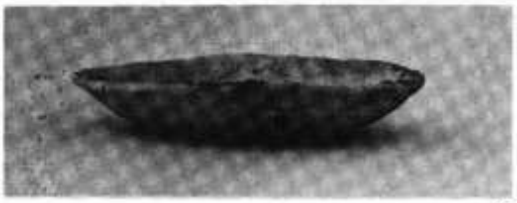
82

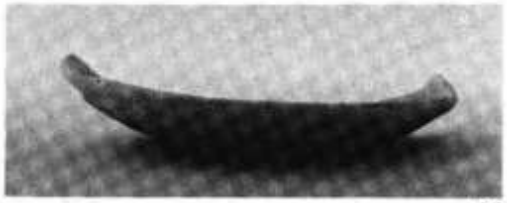

83

86


84

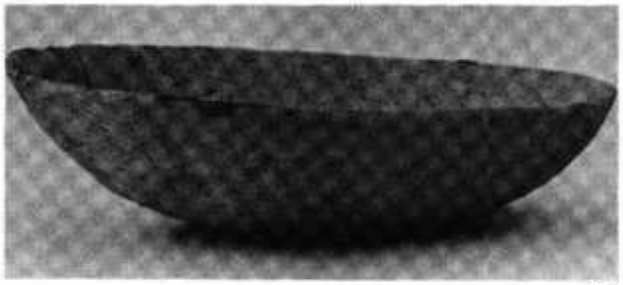
87

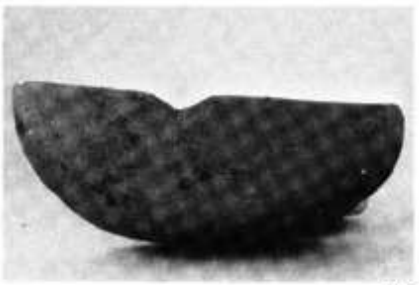

85


88

89

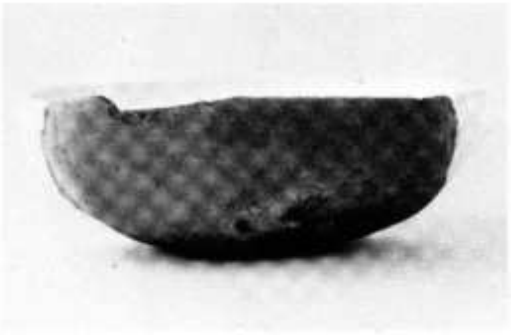
57


90

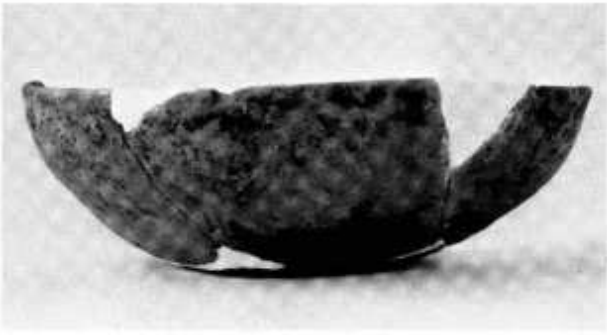

95

92

97

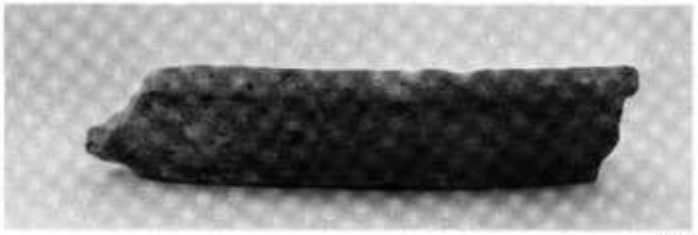


93



94

96



98

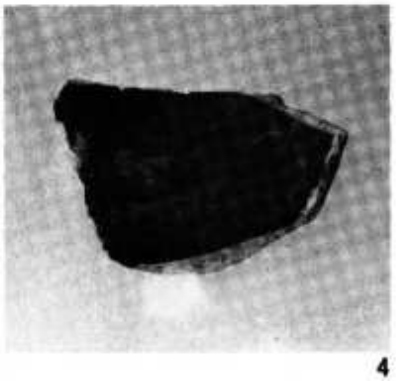
1

2

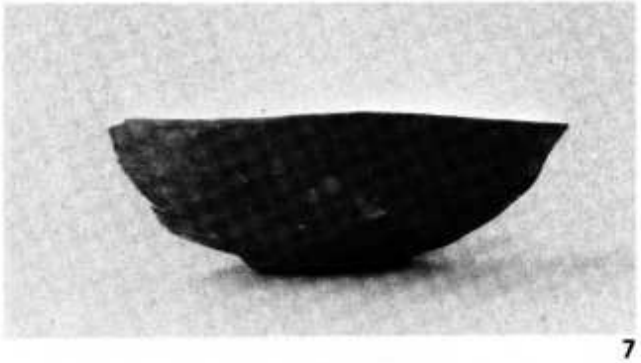
3

5

6

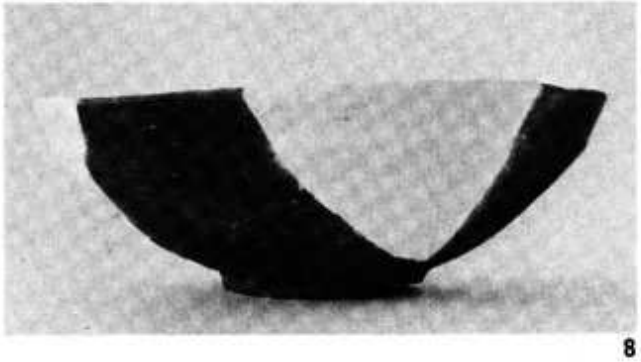


4



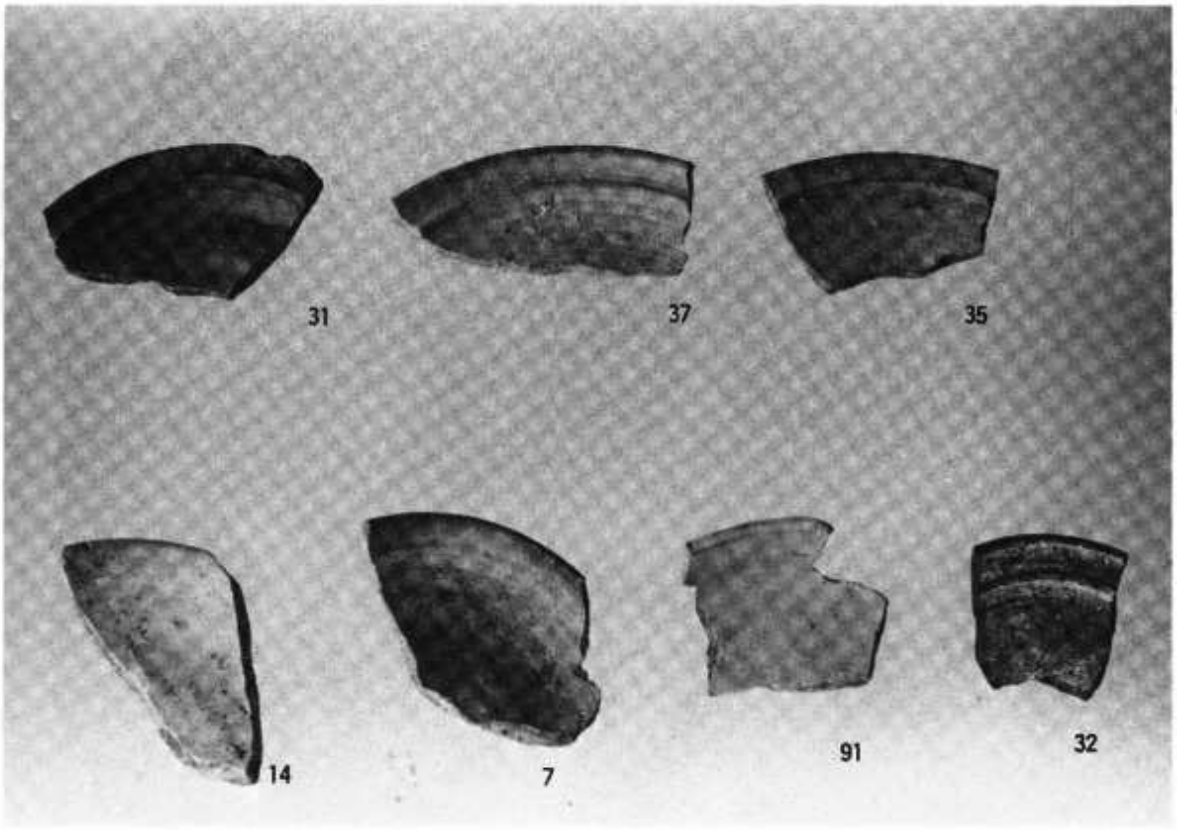
7

9

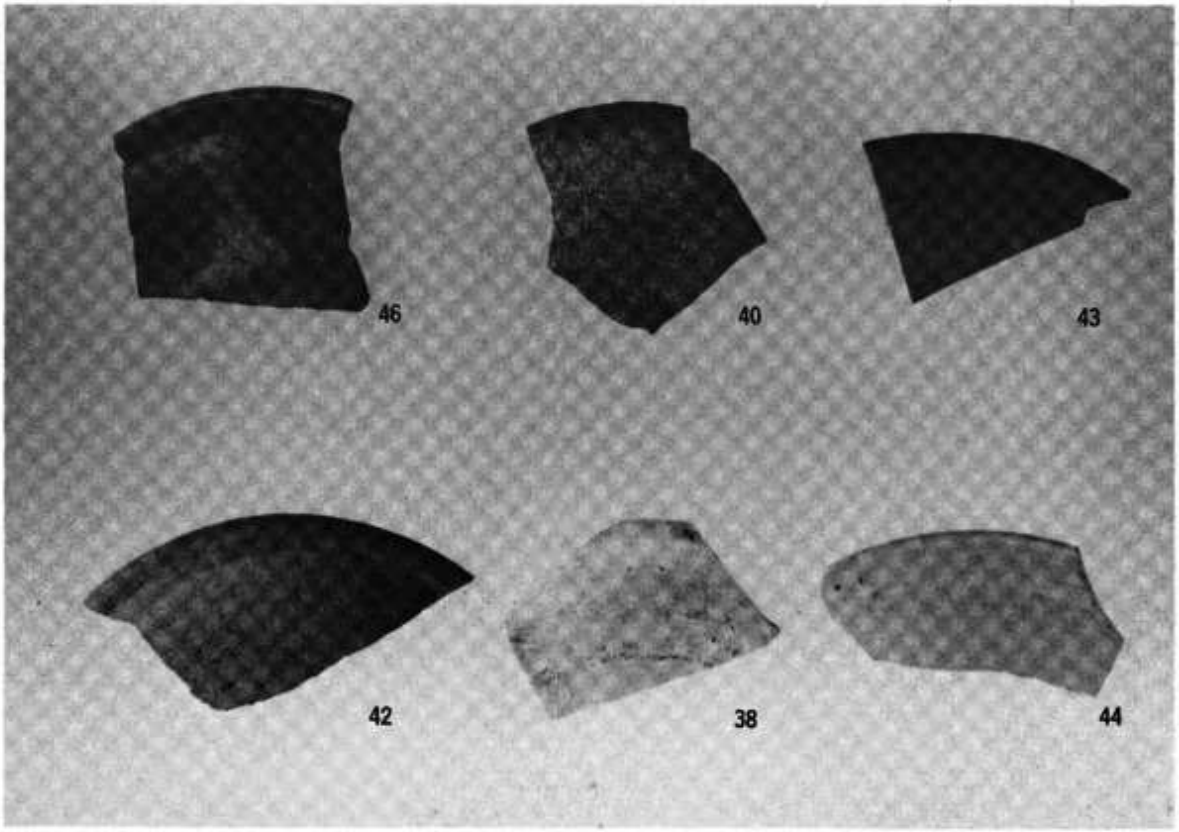


8

10

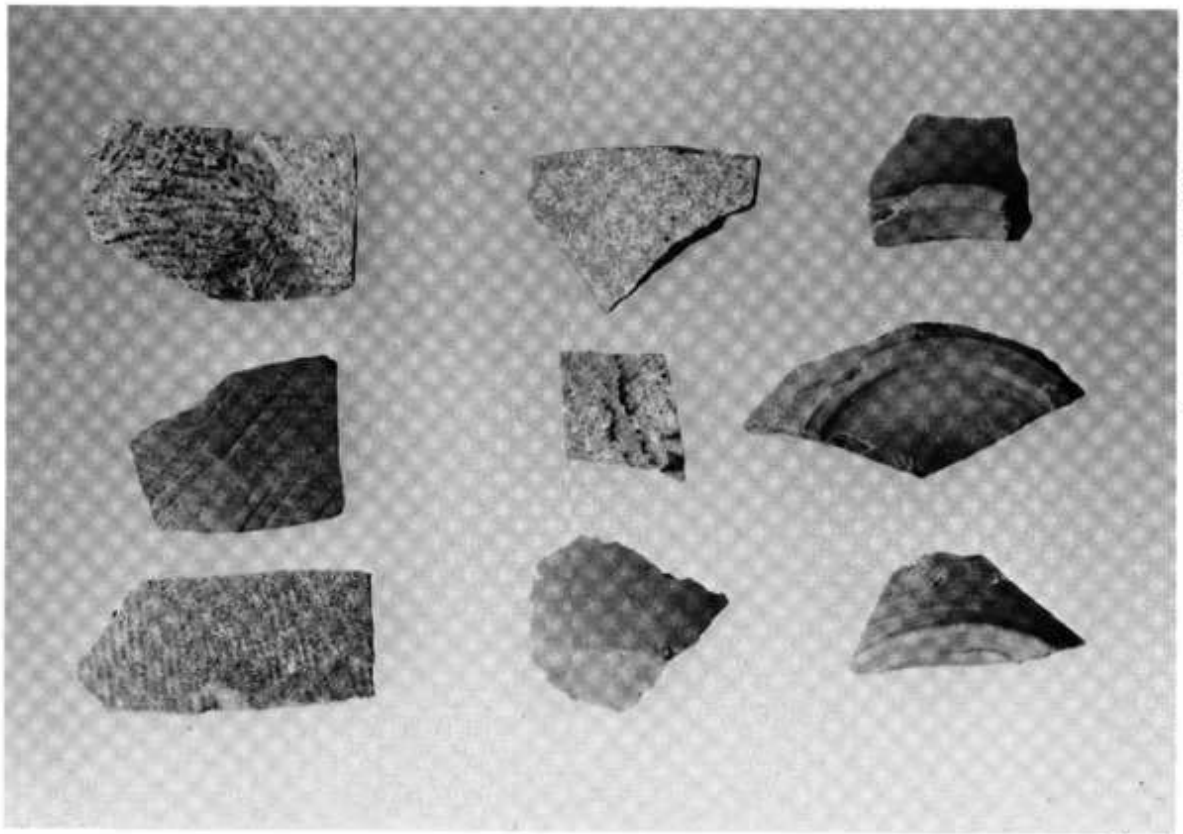


須恵器

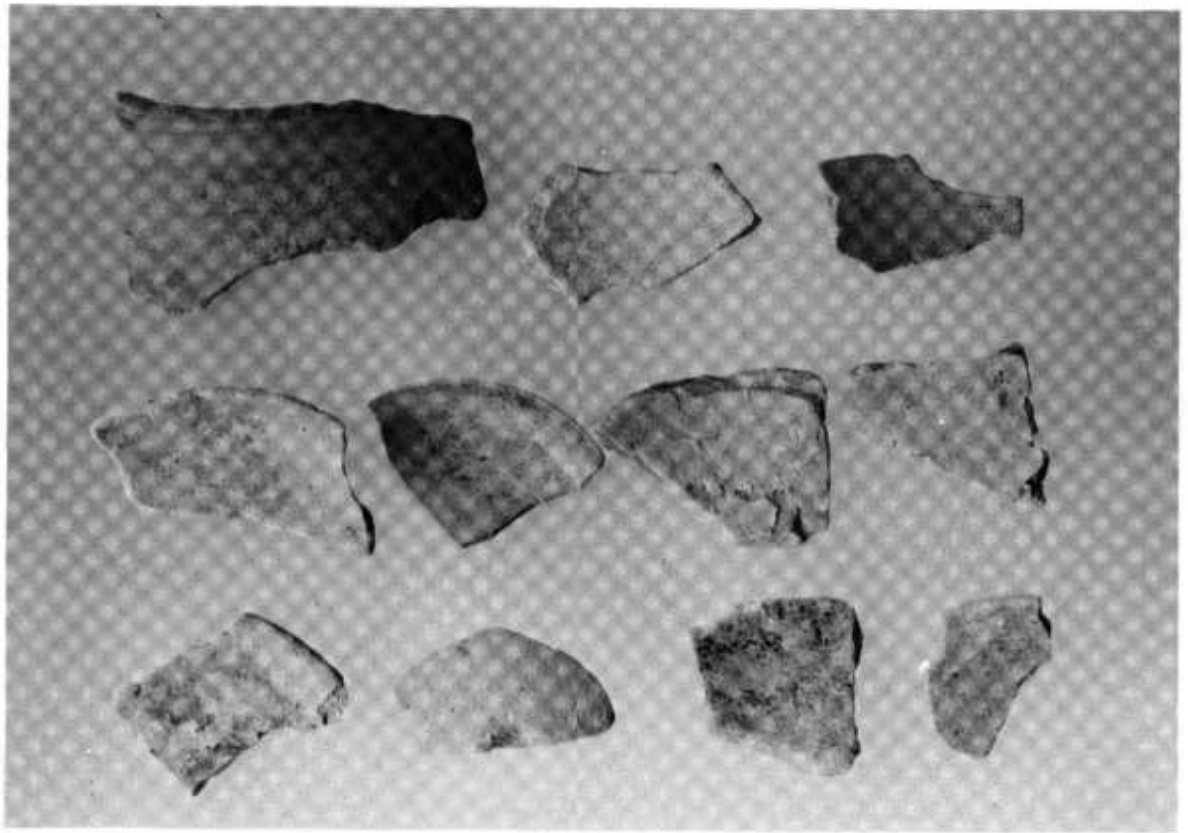


須恵器 土師器

図版46　出土遺物（第4トレンチ）

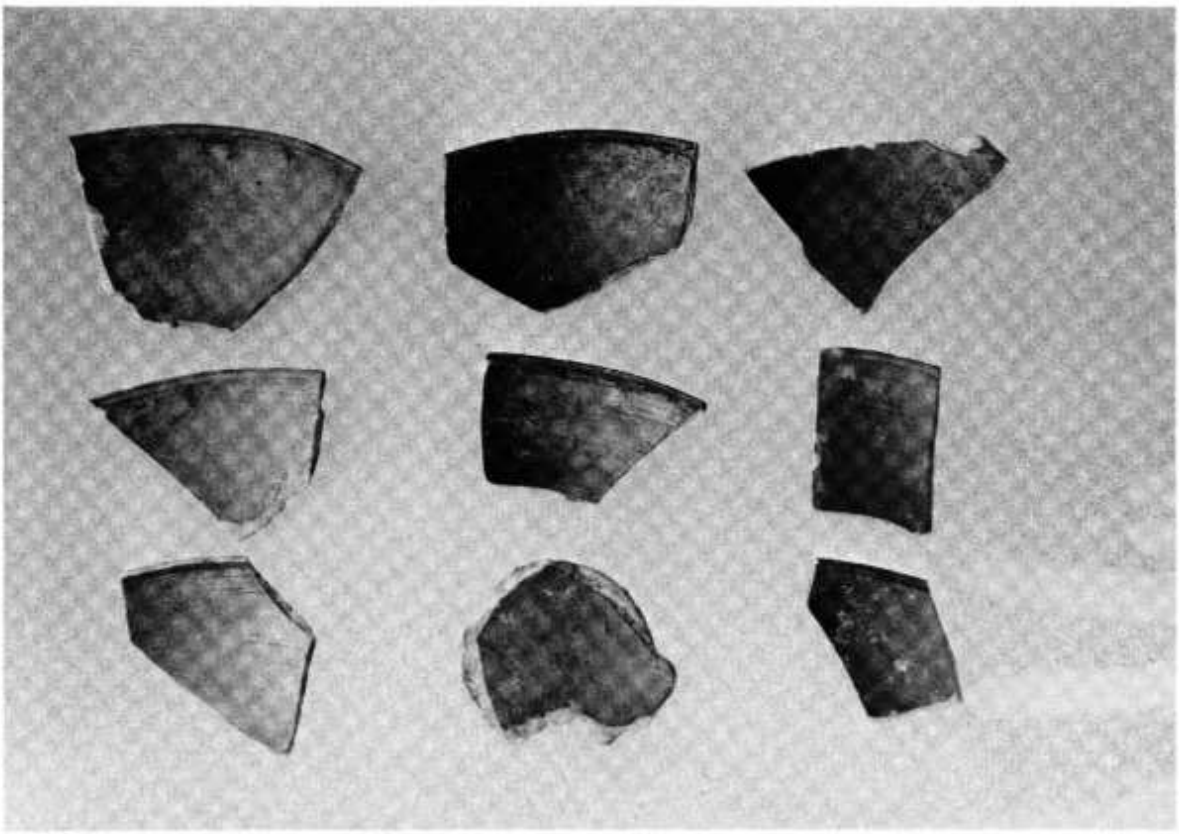


須恵器

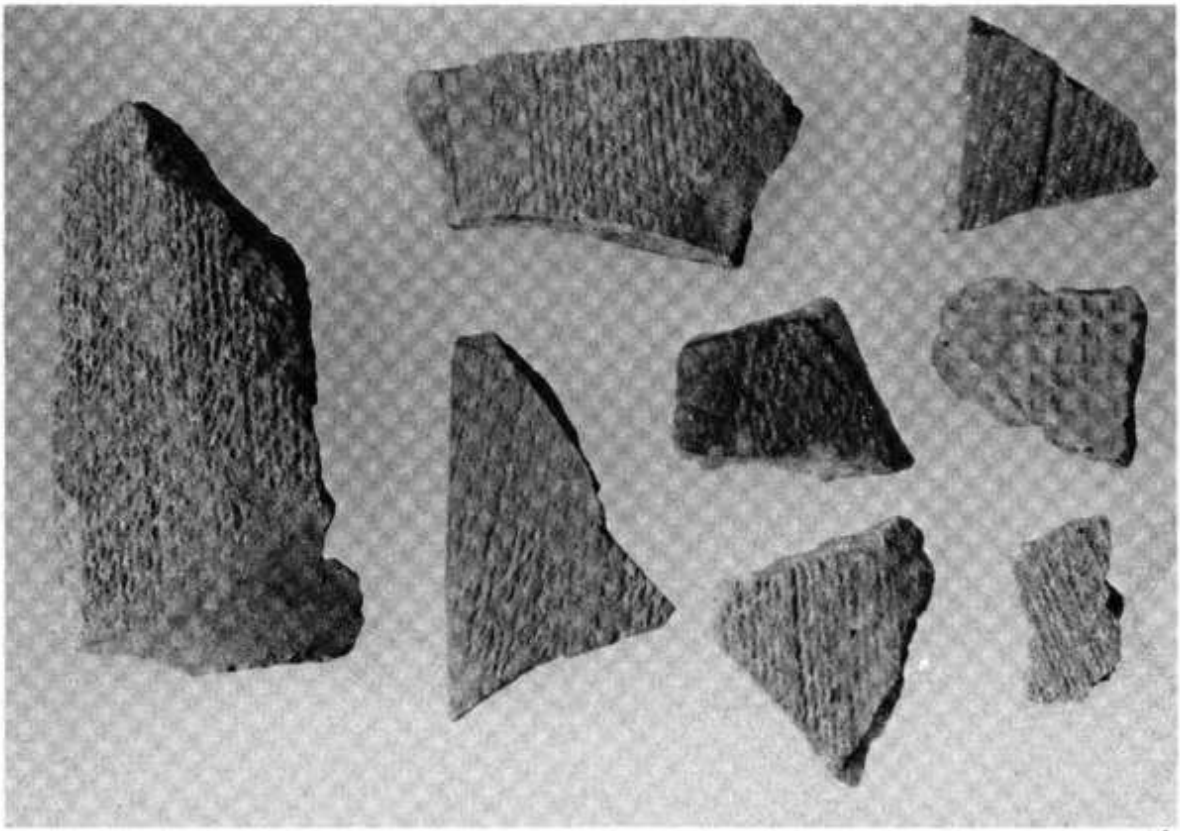


土師器

図版47　出土遺物（第4トレンチ）

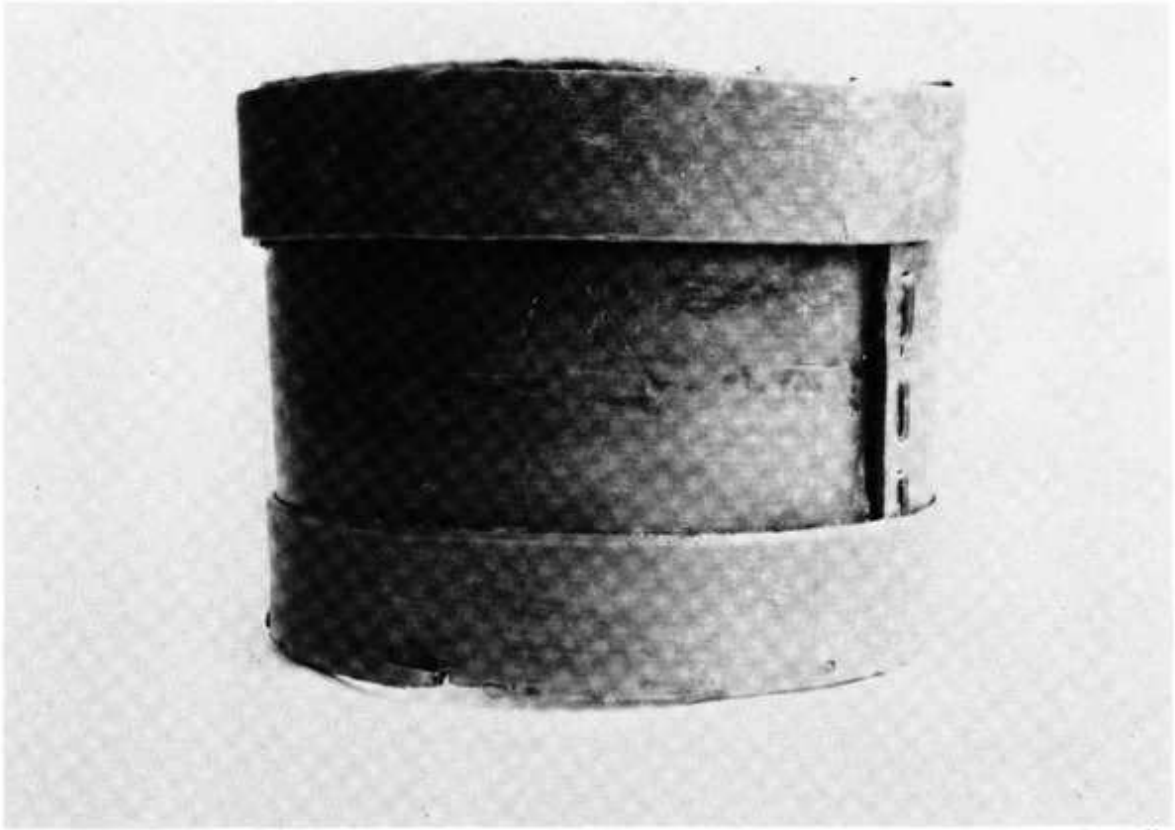


瓦　器



瓦

石　器



曲　物

高宮廃寺発掘調査概要報告Ⅴ

昭和59年3月　発行

編集　寝屋川市教育委員会

発行　寝屋川市教育委員会
大阪府寝屋川市本町1番1号